

「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」

の実施状況等のレビュー報告書

【参考資料（案）】

1. 地震関係観測点数一覧
2. 全国の活火山（111 火山）
3. 火山噴火予知観測網
4. 火山関係観測点数一覧
5. 国立大学法人の常時観測項目と観測点数（火山）
6. 気象庁の常時及び定期観測項目と観測点数（火山）
7. 国土地理院の常時観測項目と観測点数（火山）
8. 海上保安庁における海域火山の監視・観測状況
9. 山梨県富士山科学研究所の常時観測項目と観測点数（火山）
10. 防災科学技術研究所の常時観測項目と観測点数（火山）
11. 産業技術総合研究所の常時観測項目と観測点数（火山）
12. 北海道立総合研究機構の常時観測項目と観測点数（火山）
13. 気象庁の火山機動観測実施状況
14. 草津白根山（本白根山）に関する火山噴火予知連絡会の活動経過
15. 西之島に関する火山噴火予知連絡会の活動経過
16. 霧島山（新燃岳・硫黄山）に関する火山噴火予知連絡会の活動経過
17. 桜島に関する火山噴火予知連絡会の活動経過
18. 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」の個別課題一覧（機関順）
19. 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」の個別課題一覧（項目順）
20. 東京大学地震研究所（共同利用・共同研究拠点）の地震・火山噴火の解明と予測に関する公募研究実施課題一覧
21. 東京大学地震研究所・京都大学防災研究所拠点間連携共同研究実施課題一覧
22. 国際共同研究一覧
23. 予算及び機構定員整備状況
24. 地震火山観測研究計画に関する主要論文リスト
25. 地震火山観測研究計画に関連した主なシンポジウム、セミナー等の開催状況
26. 地震火山観測研究計画に関連したアウトリーチ活動
27. 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」実施機関
28. 第11期科学技術・学術審議会測地学分科会委員名簿
29. 第11期科学技術・学術審議会測地学分科会地震火山観測研究計画部会委員名簿
30. 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」の実施状況等のレビューに関する審議状況

1. 観測点（地震予知関係）一覧

観測項目	関係機関名	40年度	41年度	42年度	43年度	44年度	45年度	46年度	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度	52年度	53年度	54年度	55年度	56年度	57年度	58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度
		(第1次計画)				(第2次計画)				(第3次計画)				(第4次計画)				(第5次計画)							
大・中・小地震	気 象 庁	109	109	107	107	109	109	109	109	110	110	112	115	115	115	129	140	140	142	145	147	148	148	150	156
微小地震	防災科学技術研究所							3	3	4	4	5	8	9	18	26	35	44	53	64	64	64	64	64	64
	工業技術院地質調査所																								
	国立大学等 (海底)	15	28	35	41	46	53	61	61	64	80	85	82	86	98	100	117	130	148	163	174	183	188	202	201
	計	15	28	35	41	46	53	64	64	68	84	90	90	95	116	126	152	174	201	227	238	247	252	266	265
地殻変動	文 部 科 学 省 防災科学技術研究所 (GPS)							2	2	3	3	3	5	7	10	12	15	18	21	25	25	25	25	26	26
	工業技術院地質調査所 (GPS)																						10	10	
	海上保安庁水路部(GPS) (SLR)																								
	気 象 庁 国 土 地 理 院 (GPS) (VLBI)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	7	14	14	14	27	33	33	33	33	33	33	33	33	33
	通信総合研究所(VLBI) (SLR)																				1	1	1	4	4
	国立大学等 (GPS)	10	13	16	20	22	25	25	27	29	29	30	34	34	35	38	43	53	60	65	76	80	80	83	85
	計	11	14	17	21	23	26	29	31	34	35	41	54	56	60	80	94	107	117	126	138	142	143	163	177
地下水	防災科学技術研究所																	1	1	3	5	6	7	8	9
	工業技術院地質調査所												3	39	27	29	41	50	49	40	32	43	46	46	29
	国立大学等											2	2	4	7	10	17	22	23	26	33	37	37	39	44
	計											2	5	43	34	39	58	72	73	67	68	85	89	92	82
地球電磁気	防災科学技術研究所																								
	海上保安庁水路部		1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	気 象 庁		1	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	国 土 地 理 院	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	国立大学等																	20	22	26	28	29	31	31	31
	計	1	3	4	6	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	8	9	29	31	35	37	38	40	40	40
重 力	国 土 地 理 院															1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	国立大学等																		2	3	3	5	5	5	6
	計															1	1	1	3	4	4	6	6	6	7
験 潮	防災科学技術研究所																								
	海上保安庁水路部	2	7	9	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
	気 象 庁	54	54	54	54	54	54	54	54	54	56	56	56	56	56	56	56	54	57	56	59	56	56	60	62
	国 土 地 理 院	10	11	13	13	13	15	15	17	20	20	20	20	22	22	23	24	25	25	25	25	25	25	25	25
	国立大学等																					4	7	7	7
	計	66	72	76	83	83	85	85	87	90	92	92	92	94	94	95	96	95	98	97	100	101	104	108	110

観測項目	関係機関名	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
		(第6次計画)					(第7次計画)				
大・中・小地震	気 象 庁	158	162	168	170	178	189	189	189	189	189
微小地震	防災科学技術研究所 工業技術院地質調査所	66	67	68	69	73	76	104	140 10	145 11	368 16
	国 立 大 学 等 (海底)	209	220	222	233	241 3	257 3	276 3	282 6	268 6	276 6
	計	275	287	290	302	317	336	383	438	430	666
地殻変動 (歪計等)	文 部 科 学 省								15	41	41
	防災科学技術研究所	27	27	28	29	29	30	45	42	46	52
	工業技術院地質調査所								11	11	17
	気 象 庁	33	33	33	33	33	33	33	33	34	35
	国 土 地 理 院	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5
	国 立 大 学 等	86	86	86	87	89	101	110	111	116	114
(GNSS)	防災科学技術研究所	12	14	16	28	28	28	19	19	19	1
	工業技術院地質調査所								11	11	14
	海上保安庁水路部						2	4	4	14	16
	国 土 地 理 院			2	4	110	210	610	887	947	973
	国 立 大 学 等	15	23	24	25	25	50	68	59	64	60
(SLR)	通 信 総 合 研 究 所							4	4	4	4
	海上保安庁水路部							1	1	1	1
(VLBI)	通 信 総 合 研 究 所	4	4	4	4	5	4	5	5	5	5
	国 土 地 理 院				1	1	1	2	4	4	4
	計	181	191	197	215	324	463	905	1211	1322	1342
地下水	防災科学技術研究所	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	工業技術院地質調査所	26	33	19	18	19	22	22	36	39	44
	国 立 大 学 等	47	47	47	47	49	48	44	44	51	49
	計	82	89	75	74	77	79	75	89	99	102
地球電磁気	防災科学技術研究所		2	4	5	5	5	10	11	11	11
	海上保安庁水路部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	気 象 庁	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	国 土 地 理 院	4	4	4	4	4	4	15	15	15	15
	国 立 大 学 等	31	32	34	35	38	39	43	44	36	36
	計	40	43	47	49	52	53	73	75	67	67
重力	国 土 地 理 院	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	国 立 大 学 等	6	6	6	6	7	7	7	7	5	5
	計	7	7	7	7	8	8	8	8	6	6
験潮	防災科学技術研究所							2	5	5	5
	海上保安庁水路部	16	16	16	16	16	16	16	27	27	28
	気 象 庁	62	62	62	62	62	66	77	77	77	77
	国 土 地 理 院	25	25	26	26	31	32	32	31	31	31
	国 立 大 学 等	7	7	7	7	7	7	7	7	8	9
	計	110	110	111	111	116	121	134	147	148	150

※ 平成13年度より、文部省・科学技術庁 ⇒ 文部科学省、工業技術院地質調査所 ⇒ 産業技術総合研究所、
海上保安庁水路部 ⇒ 海上保安庁海洋情報部 ⇨ 組織変更
平成16年度より、通信総合研究所 ⇒ 情報通信研究機構 ⇨ 組織変更 また、国立大学 は 国立大学法人 ⇨
令和2年度より、北海道立総合研究機構地質研究所 ⇒ 北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所 ⇨ 組
織変更
国立大学等の広帯域地震計については、高感度地震計の内数、また海上保安庁海洋情報部のGNSSについては、
地殻変動観測以外の目的で設置されたDGNSS局を含む

観測項目	関係機関名	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
		(第1次新計画)					(第2次新計画)				
地震 (高感度)	防災科学技術研究所	530	626	666	751	761	763	770	783	781	785
	海洋研究開発機構						5	5	5	5	5
	産業技術総合研究所	12	12	13	14	14	14	14	16	16	16
	気象庁	191	191	191	193	194	196	196	191	191	198
	国土地理院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(広帯域)	国立大学等	285	282	281	281	281	279	244	251	247	244
	防災科学技術研究所	19	64	66	71	73	73	73	73	73	73
	海洋研究開発機構	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	産業技術総合研究所	8	4	4	4	4	1	1	1	1	1
	気象庁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(機動)	国立大学等	19	36	36	36	36	32	46	41	42	46
	国立大学等	46	46	46	40	40	73	73	73	73	73
		日高(平成11～13年度)			西南日本(平成14～15年度)		新潟～神戸至集中帯(平成16～20年度)				
	計	1110	1261	1303	1390	1403	1436	1422	1434	1429	1441
地殻変動 (歪計等)	文部科学省	41	41	41	41	41	7	7	7	7	7
	防災科学技術研究所	52	56	56	58	58	60	60	60	58	49
	産業技術総合研究所	17	16	16	16	15	16	16	18	19	19
	気象庁	35	36	36	36	36	36	36	36	36	36
	国土地理院	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
(GNSS)	国立大学等	109	108	105	105	104	99	101	93	93	93
	防災科学技術研究所	1	1	3	3	3	3	4	4	4	—
	産業技術総合研究所	5	5	4	4	3	3	3	5	5	5
	海上保安庁海洋情報部	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
	国土地理院	983	992	992	1284	1314	1320	1328	1336	1350	1352
(SLR)	国立大学等	59	57	57	59	59	59	75	73	86	86
	情報通信研究機構	4	4	3	—	—	—	—	—	—	—
(VLBI)	海上保安庁海洋情報部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	情報通信研究機構	5	5	4	1	1	1	1	1	1	1
(海底地殻変動)	国土地理院	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	海上保安庁海洋情報部	1	9	11	14	16	18	18	18	18	18
(海底地殻変動)	国立大学等			1	4	7	11	13	10	12	12
	計	1357	1375	1374	1670	1702	1678	1707	1706	1734	1723
地下水	防災科学技術研究所	9	9	9	9	7	6	5	5	5	—
	産業技術総合研究所	42	42	42	42	42	42	42	46	42	44
	国立大学等	42	42	42	42	42	34	19	19	14	13
	計	93	93	93	93	91	82	66	70	61	57
地球電磁気	防災科学技術研究所	11	13	15	15	15	15	—	—	—	—
	産業技術総合研究所		22	22	20	20	6	—	—	—	—
	海上保安庁海洋情報部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	気象庁	4	4	4	4	4	4	4	4	6	6
	国土地理院	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
重力	国立大学等	42	42	42	42	42	34	41	39	36	38
	計	73	97	99	97	97	75	61	59	58	60
重子	国土地理院	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	国立大学等	5	3	3	3	3	3	3	3	2	2
	計	6	4	4	4	4	4	4	4	3	3
験潮	防災科学技術研究所	5	5	6	6	6	5	5	5	5	5
	海洋研究開発機構						4	4	4	4	4
	海上保安庁海洋情報部	28	28	28	28	28	28	28	28	28	20
	気象庁	77	77	77	77	80	80	80	80	82	82
	国土地理院	31	31	30	30	30	27	27	27	27	27
組織変更	国立大学等	11	11	5	5	5	5	5	4	4	4
	計	152	152	146	146	149	149	149	148	150	142

※ 平成13年度より、文部省・科学技術庁 ⇒ 文部科学省、工業技術院地質調査所 ⇒ 産業技術総合研究所、
海上保安庁水路部 ⇒ 海上保安庁海洋情報部 へ 組織変更
平成16年度より、通信総合研究所 ⇒ 情報通信研究機構 へ 組織変更 また、国立大学 は 国立大学法人 へ
令和2年度より、北海道立総合研究機構地質研究所 ⇒ 北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所 へ 組
織変更
国立大学等の広帯域地震計については、高感度地震計の内数、また海上保安庁海洋情報部のGNSSについては、
地殻変動観測以外の目的で設置されたDGNSS局を含む

観測項目	関係機関名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		(地震及び火山噴火予知のための観測研究計画)				(災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画)					(災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次))			
地震 (高感度)	防災科学技術研究所	788	788	788	787	788	788	788	964	989	989	989	989	989
	海洋研究開発機構	6	16	25	26	26	34	58	7	8	9	7	6	6
	産業技術総合研究所	28	28	28	28	29	29	29	29	29	29	29	29	29
	気象庁	208	208	208	248	257	257	257	257	257	257	257	257	256
	国土地理院	-	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1
	国立大学等	237	245	245	243	251	238	239	239	244	240	237	237	239
(広帯域)	防災科学技術研究所	73	73	73	73	73	73	73	124	124	124	124	124	124
	海洋研究開発機構	-	-	-	29	21	29	52	1	2	3	3	3	3
	産業技術総合研究所	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	気象庁	-	-	-	-	-	20	20	20	20	20	20	20	20
	国立大学等	50	42	50	44	44	44	44	44	47	45	45	45	44
	国立大学等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計		1391	1403	1420	1480	1491	1514	1562	1687	1722	1717	1712	1711	1711
地殻変動 (歪計等)	文部科学省	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	防災科学技術研究所	49	47	47	47	47	47	40	40	40	40	40	40	40
	産業技術総合研究所	28	27	27	27	27	27	27	27	26	24	24	24	24
	気象庁	36	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42
	国土地理院	5	4	4	3	3	3	3	3	3	-	-	-	-
	国立大学等	86	90	93	83	83	83	83	83	80	82	75	70	68
(GNSS)	防災科学技術研究所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	産業技術総合研究所	11	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11
	海上保安庁海洋情報部	35	35	35	35	35	35	35	35	35	34	7	7	7
	国土地理院	1348	1347	1347	1330	1330	1330	1335	1330	1335	1336	1335	1331	1336
	国立大学等	75	127	133	99	99	106	116	116	119	65	65	68	68
	国立大学等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(SLR)	情報通信研究機構	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	海上保安庁海洋情報部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
(VLBI)	情報通信研究機構	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	国土地理院	4	4	4	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1
(海底地殻変動)	海上保安庁海洋情報部	18	18	24	24	24	24	24	24	23	23	23	27	27
	国立大学等	12	11	9	35	35	35	34	34	35	33	32	36	37
計		1716	1764	1777	1737	1738	1745	1753	1748	1751	1692	1656	1658	1662
地下水	防災科学技術研究所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	産業技術総合研究所	49	49	51	51	48	48	48	48	47	47	47	46	46
	国立大学等	12	12	14	10	10	10	10	10	10	10	8	8	4
計		61	61	65	61	58	58	58	58	57	57	55	54	50
地球電磁気	防災科学技術研究所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	産業技術総合研究所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	海上保安庁海洋情報部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	気象庁	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	4
	国土地理院	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13	13
	国立大学等	33	37	37	30	30	30	29	29	28	27	24	23	23
計		54	57	57	50	50	50	49	49	48	47	44	42	40
重力	国土地理院	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	国立大学等	2	2	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2
計		3	3	4	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2
験潮	防災科学技術研究所	3	3	3	3	3	3	3	179	204	204	204	204	204
	海洋研究開発機構	5	15	24	32	32	32	56	5	5	4	2	2	2
	海上保安庁海洋情報部	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	気象庁	71	74	97	108	109	109	109	109	106	106	106	106	106
	国土地理院	27	27	27	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
	国立大学等	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3
計		130	143	175	192	193	193	217	342	364	363	361	361	360

※ 平成13年度より、文部省・科学技術庁 ⇒ 文部科学省、工業技術院地質調査所 ⇒ 産業技術総合研究所、海上保安庁水路部 ⇒ 海上保安庁海洋情報部へ組織変更
平成16年度より、通信総合研究所 ⇒ 情報通信研究機構へ組織変更 また、国立大学は国立大学法人へ
令和2年度より、北海道立総合研究機構地質研究所 ⇒ 北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所へ組織変更
国立大学等の広帯域地震計については、高感度地震計の内数、また海上保安庁海洋情報部のGNSSについては、地殻変動観測以外の目的で設置されたDGNSS局を含む

2. 全国の活火山(111火山)

△：活火山（111火山）

▲：火山噴火予知連絡会によって火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要として選定された火山（50火山）

火山名：噴火警戒レベルが運用されている火山（48火山） 令和3年4月1日現在



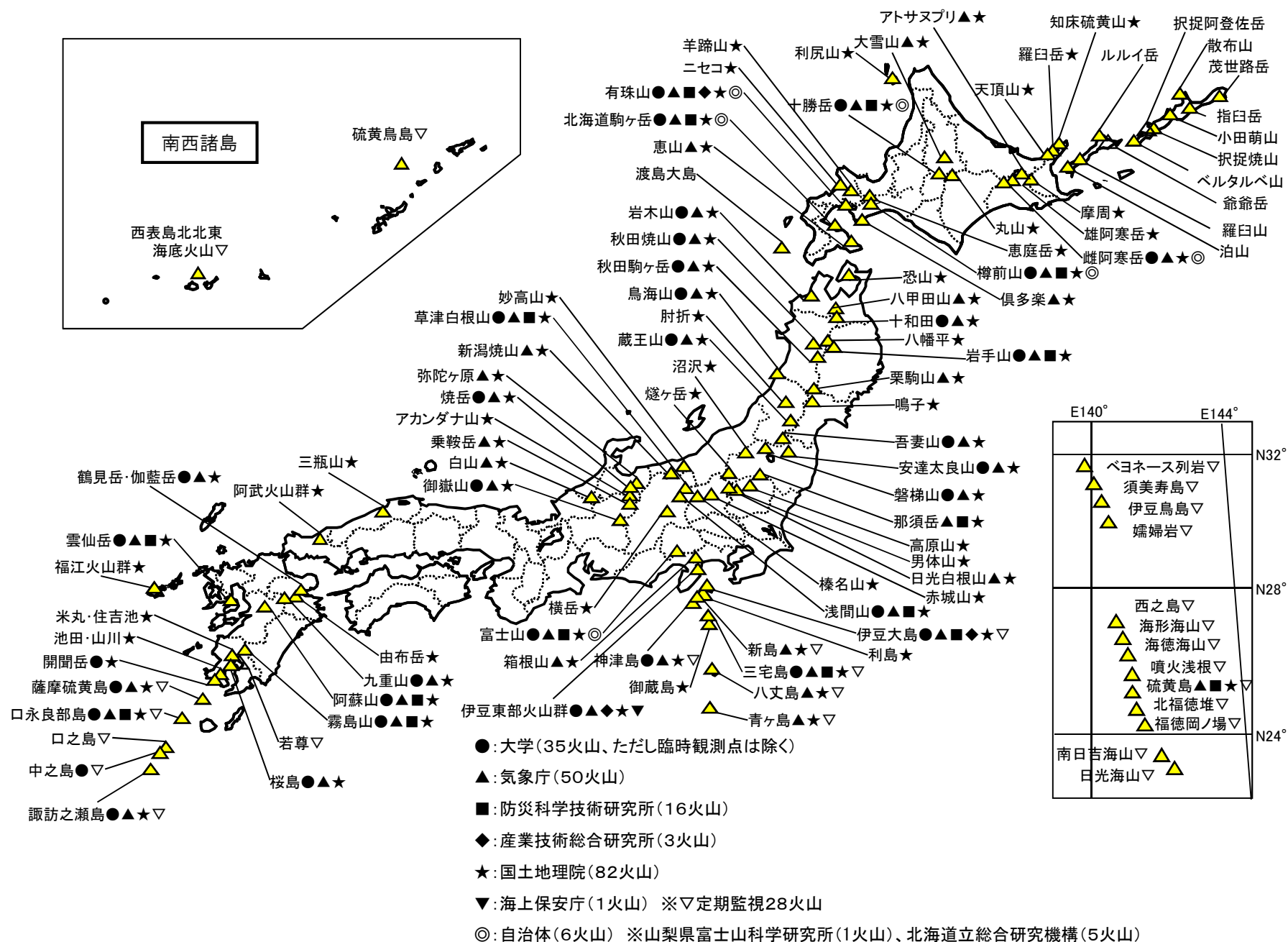
活火山の定義は、平成15年(2003年)1月の火山噴火予知連絡会において「概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」とされ、これによって北方領土及び海底火山を含む11の活火山が選定されている。

さらに、平成21年6月の火山噴火予知連絡会において、火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山として47火山が選定された。これら47火山に対しては、気象庁が、関係機関の協力を得て、24時間体制で火山活動の常時観測・監視を実施している。また、平成26年11月に、「八甲田山」・「十和田」・「弥陀ヶ原」の常時観測火山への追加を検討すべきとの火山噴火予知連絡会からの提言を受け、これらの火山への観測機器の整備を進め、平成28年12月よりこれら3火山を常時観測火山に追加し、常時観測火山は50火山となった。

各火山の地元の関係機関で構成される火山防災協議会において、噴火時等の防災対応(入山規制や避難指示の対象範囲等)について平常時から共同で検討が行われており、検討結果が市町村の地域防災計画に反映された48火山では噴火警戒レベルを運用している。(令和3年4月現在)

3. 火山噴火予知観測網

(令和3年4月1日現在)



4. 火山関係観測点数一覧

令和3年4月1日現在

火山名	噴火活動	観測項目															観測 機関	備考
		地震	空振	傾斜	歪計	光波	GNSS	カメラ	熱	地温	電位	潮位	水位	水温	化学	レーダー		
しれとこいおうざん 知床硫黄山		4															★	
らうすだけ 羅臼岳		4															★	
てんちようざん 天頂山		4															★	
ましゅう 摩周		5															★	
あときぬぶり アトサヌブリ		4	2	2		7	3	1									▲★	
おあかんだけ 雄阿寒岳		7															★	
めあかんだけ 雌阿寒岳	噴火： S63, H8, H10, H18, H20	10	3	4		14	2	2					1				●▲★◎	
まるやま 丸山		8															★	
たいせつざん 大雪山		2	1	1		8	2	1									▲★	
とからだけ 十勝岳	噴火：S60, S63～H1, H16	15	6	9	1	20	2	3				2					●▲■★◎	
りしりざん 利尻山		4															★	
たるまえざん 樽前山	噴火：S53～S54, S56	19	5	8	1	14	2	2	7			2					●▲■★◎	
えいわだけ 恵庭岳		3															★	
くつたら 倶多楽		3	2	2		5	2	1									▲★	
うすざん 有珠山	噴火：S52～S53, H12～H13	20	10	5		18	2				2		1				●▲■◆★ ◎	
ようていざん 羊蹄山		3															★	
にせこ ニセコ		3															★	
ほっかいどうこまがたけ 北海道駒ヶ岳	噴火：H8, H10, H12	16	6	8		19	4	1		1							●▲■★◎	
えざん 恵山		3	1	2		6	2	1									▲★	
おしまおしま 渡島大島																		
おそれざん 恐山		4															★	
いわきざん 岩木山		5	1	2		5	1										●▲★	
はっこうだざん 八甲田山	地震活動活発化：H23	5	1	1		10	2										▲★	
とわだ 十和田		3	1	1		8	1										●▲★	
あきたやけやま 秋田焼山	噴火：H9	4	1	2		5	1	1									●▲★	
はちまんたい 八幡平		3															★	
いわてざん 岩手山	地震・地殻活動活発化： H10	12	1	8	3	12	2	1									●▲■★	
あきたこまがたけ 秋田駒ヶ岳		6	1	3		10											●▲★	
ちようかいざん 鳥海山	噴火：S49	3	1	2		5	1										●▲★	
くりこまやま 栗駒山		2	1	2		5	2	1									▲★	
なるこ 鳴子		3															★	
ひじおり 肘折		5															★	
ざおうざん（ざおうざん） 蔵王山		7	4	4		9	4	1									●▲★	
あづまやま 吾妻山	噴火：S52	9	2	2		14	1	1	7			1					●▲★	
あだたらやま 安達太良山		6	3	2		9	2	1	5								●▲★	
ばんだいざん 磐梯山		5	2	3		6	2	1									●▲★	
ぬまさわ 沼沢		4															★	
ひうちがたけ 燧ヶ岳		4															★	
なすだけ 那須岳	S35, S38	9	2	5		10	2	1									▲■★	
たかほらやま 高原山		5															★	
なんたいざん 男体山		4															★	
にっこうしらねざん 日光白根山		2	1	2		5	2										▲★	
あかざん 赤城山		3															★	
はるなざん 榛名山		4															★	
くさつしらねざん 草津白根山	噴火：S51, S57～ S58, H8, H30 火口高温化：H20-23 地震活動活発化：H30	19	5	11		19	4	1	5			2	2	3			●▲■★	
あさまやま 浅間山	噴火：S48, S57～S58, H2～ H3, H16, H20, H21, H27	29	6	12		1	26	3	1	3							●▲■★	
よこだけ 横岳		4															★	
にいがたやけやま 新潟焼山	噴火：S49, S58	3	2	1		6	1										▲★	
みようこうざん 妙高山		3															★	
みだがはら 弥陀ヶ原		2	1	1		5	1										▲★	

		観測項目														機関		備考	
		地震	空振	傾斜	歪計	光波	GNSS	カメラ	熱	地温	電位	潮位	水位	水温	化学	レーダー	ライダー		
やけどだけ 焼岳	噴火：S37, S38, H7	9	2	4			8	1	2	4								●▲★	
あかんだなやま アカンダナ山							3											★	
のりくらだけ 乗鞍岳		2	1	1			7	1										▲★	
おんたけさん 御嶽山	噴火：S54, H3, H19, H26	22	11	5			19	3	1	7				1				●▲★	
はくさん 白山		3	1				3	1										▲★	
ふじさん 富士山		21	2	8	1		21	1		4								●▲■★◎	
ほこねやま 箱根山	噴火：H27	2	1	2			6	3	1									▲★	
いずとうぶかざんぐん 伊豆東部火山群	噴火：H1	13	2	3	1		14	2		8		2	3	1				●▲◆★▽	海上保安庁による定期監視・海底地殻変動観測
いずおおしま 伊豆大島	噴火：S49, S61, S62	33	5	9		2	20	2	2	20	1							●▲■◆★▽	海上保安庁による定期監視
としま 利島							3											★	
にいじま 新島		2	1	1			5	1										▲★▽	海上保安庁による定期監視
こうづしま 神津島		3	1	1			5	1										●▲★▽	海上保安庁による定期監視
みやけじま 三宅島	噴火：H12～H18, H20～H22	12	4	6			16	3	1	5								●▲■★▽	海上保安庁による定期監視
みくらじま 御蔵島							3											★	
はちじょうじま 八丈島		2	1	2			4	1										▲★▽	海上保安庁による定期監視
あおがしま 青ヶ島		2	1	1			4	1	1									▲★▽	海上保安庁による定期監視
べよねえすれつがん ベヨネース列岩																		▽	明神礁を含む 海上保安庁による定期監視
すみすじま 須美寿島																		▽	海上保安庁による定期監視
いずとりしま 伊豆島島	噴火：H14																	▽	海上保安庁による定期監視
そうふがん 婦婦岩																		▽	海上保安庁による定期監視
にしのみま 西之島	噴火：S48～S49, H25～																	▽	海上保安庁による定期監視
かいいかたいざん 海形海山																		▽	海上保安庁による定期監視
かいとくかいざん 海德海山	噴火：S59																	▽	海上保安庁による定期監視
ふんかあさね 噴火浅根																		▽	海上保安庁による定期監視
いおうとう 硫黄島	噴火：S53, S55, S57, H11, H13, H16, H24, H25, H27	5	1				8	1										▲■★▽	海上保安庁による定期監視
きたふくとくたい 北福德堆	噴火：S63																	▽	海上保安庁による定期監視
ふくとくおかのは 福德岡ノ場	噴火：S48～S49, S61, H4, H17, H22																	▽	海上保安庁による定期監視
みなみひよしかいざん 南日吉海山	噴火：S50～S51																	▽	海上保安庁による定期監視
にっこうかいざん 日光海山																		▽	海上保安庁による定期監視
さんぺきん 三瓶山							4											★	
あぶかざんぐん 阿武火山群							5											★	
つるみだけ・がらんだけ 鶴見岳・伽藍岳		9	2	1			10	1										●▲★	
ゆふだけ 由布岳							4											★	
くじゅうざん 九重山	噴火：H7～H8	7	2	1			13	3	1	9				1				●▲★	
あそさん 阿蘇山	噴火：S49, S50, S52, S54, S55, S60, S63, H1～H7, H15～H17	34	8	9	1		19	7	1	5								●▲■★	
うんぜんだけ 雲仙岳	噴火：H2～H7	18	1	10			11	2	1			1	1	1				●▲■★	
ふくえかざんぐん 福江火山群							3											★	
きりしまやま 霧島山	噴火：H3, H20, H22, H23 えびの地震：S43	37	16	12			30	8	4	9				1				●▲■★	
おねまる・すみおしいけ 米丸・住吉池							4											★	
わかめこ 若尊																		▽	海上保安庁による定期監視
まくらじま 桜島	噴火：S30～	19	7	11	2		20	4				4	2		3	2	2	●▲★	
いけだ・やまがわ 池田・山川							4											★	
かいもんだだけ 間聞岳		1					5											●★	
さつまいおうじま 薩摩硫黄島	噴火：H10～H16	5	3	1			9	1						1				●▲★▽	海上保安庁による定期監視
くちのえらぶじま く永良部島	噴火：S48, S49, S51, S55, H26～H27	11	3	2		1	14	4						1				●▲■★▽	海上保安庁による定期監視
くちのしま 口之島																		▽	海上保安庁による定期監視
なかのしま 中之島		1					1											●▽	海上保安庁による定期監視
ずわのせじま 諏訪之瀬島	噴火：S32～H7, H9, H11～H21	4	2	2			7	2						1				●▲★▽	海上保安庁による定期監視
いおうとりしま 硫黄島島	S42																	▽	海上保安庁による定期監視
いりおもてじまほくほくとう かいいていかざん 西表島北東 海底火山																		▽	海上保安庁による定期監視

ハルマ	マハロ	地震	空振	傾斜	歪計	光波	GNSS	カメラ	熱	地磁気	電位	潮位	水位	水温	化学	レーダー	ライダー	機関	備考
もよろだけ																			
茂世路岳																			
ちりっぶさん																			
散布山																			
さしうすだけ																			
指臼岳																			
おだもいさん																			
小田萌山																			
えとろふやけやま																			
振振焼山																			
えとろふあときぬぶり																			
振振阿登佐岳																			
べるたるべさん																			
ベルタルベ山																			
るるいだけ																			
ルルイ 岳																			
ちゅちゅだけ																			
爺爺岳																			
らうすさん																			
羅臼山																			
とまりやま																			
泊山																			

注1：網掛けをしているものは、現時点で観測が行われていない火山
注2：噴火履歴等は火山噴火予知計画の始まった昭和48年から
注3：霧島山の観測点数には、参考資料5「国立大学法人の常時観測項目と観測点数」に記載の霧島火山帯における観測項目の観測回数に相当する。
注4：「観測項目」の内容は、次のとおり。
地震：火山性地震・微動の連続観測。
空振：空振計（超低周波マイクロフォン）による空気振動の連続観測。
傾斜：傾斜計による地殻変動の連続観測。
歪計：歪（ひずみ）計による地殻変動の連続観測。
光波：光波測距儀による地殻変動の連続観測。
GNSS：GNSSによる地殻変動の連続観測。
カメラ：高感度カメラ等による噴煙等の遠望観測。
熱：熱映像観測等による地熱や噴煙等の連続観測。
地磁気：全磁力観測による地熱（熱消磁）の繰り返し観測。
電位：自然電位（地表のある点を基準とした各地点での電位の分布）、比抵抗の繰り返し観測。
潮位：潮位の観測。
水位：地下水の水位の観測。
水温：地下水の温度の観測。
化学：二酸化硫黄ガス等の火山ガス放出量等の繰り返し観測。地下水等の成分の観測を含む。
レーダー：レーダーによる大気中の火山灰の観測
ライダー：レーザー光線による大気中の火山灰の観測

注5：観測機関の凡例は以下のとおり
●：大学（35火山、ただし臨時観測点は除く）
▲：気象庁（50火山）
■：防災科学技術研究所（16火山）
◆：産業技術総合研究所（3火山）
★：国土地理院（82火山）
▼：海上保安庁（1火山） ※▽定期監視28火山
◎：自治体（6火山） ※山梨県富士山科学研究所（1火山）、北海道立総合研究機構

5. 国立大学法人の常時観測項目と観測点数

火山名	平成23年3月31日時点		平成28年3月31日時点		令和3年4月1日現在の観測点数																主な 観測大学	備 考				
	観測点数	観測項目	観測点数	観測項目	種別	地震	空振	傾斜	歪計	GNSS	カメラ	熱	地磁気	電位	重力	潮位	水位	水温	化学	降灰		レーダー	ライダー	噴火活動等		
雌阿寒岳	2 (臨時1)	地震、空振、地殻	3 (臨時1)	地震、空振、地殻	常時 臨時	3 1	2																	北大理	(縦坑1本) 昭和63年、平成8、10、18、20年噴火	
十勝岳	3	地震、空振、地殻	3 (臨時2)	地震、空振、地殻、電磁気	常時 臨時	4 2	3	1					2											北大理	(横坑1本) 昭和63～平成元年噴火、平成16年噴火	
梅前山	8 (臨時4)	地震、空振、地殻、カメラ、熱	9 (臨時3)	地震、空振、地殻、カメラ、熱	常時 臨時	9 2	3	2	1	1	1													北大理	(横坑1本、縦坑1本) 昭和53～54、56年噴火	
有珠山	18 (臨時8)	地震、空振、地殻、GNSS、電磁気、熱	11 (臨時15)	地震、空振、地殻、GNSS、電磁気、熱	常時 臨時	12 5	8			8														北大理	昭和52～57年噴火 平成12年噴火	
北海道駒ヶ岳	10 (臨時8)	地震、空振、地殻、GNSS、カメラ、潮位、電磁気	9 (臨時8)	地震、空振、地殻、GNSS、カメラ、潮位、電磁気	常時 臨時	6 2	3	2		5	1		4				1							北大理	(縦坑2本) 平成8、10、12年噴火	
八甲田山	0	地震	0 (臨時1)	地震	常時 臨時																			東北大理	東北地方太平洋沖地震以降、地震活動が活発化	
岩木山	3	地震	3	地震	常時 臨時	3																		弘前大理工	(横坑2本) 昭和60年地震活動活発化。	
十和田	1	地震	1	地震	常時 臨時	1																		東北大理	(横坑1本) 実観測点数:常時1、臨時0 カルデラ内に時々地震活動あり	
秋田焼山	3	地震、地殻	2	地震、GNSS	常時 臨時	2				1														東北大理	(横坑2本) 実観測点数:常時2、臨時0 平成9年噴火	
岩手山 (臨時1)	5	地震、地殻、GNSS、熱	5 (臨時1)	地震、地殻、GNSS、熱	常時 臨時	5		3	3	4														東北大理	(横坑1本、縦坑4本) 実観測点数:常時5、臨時1 平成10年地震・地殻活動活発化。 東北地方太平洋沖地震以降、一時的に活発化	
秋田駒ヶ岳 (臨時1)	3	地震、地殻	2 (臨時1)	地震、地殻、GNSS	常時 臨時	2 1		1		2														東北大理	(縦坑2本) 実観測点数:常時2、臨時1 昭和45～46年噴火	
鳥海山	1	地震、地殻	1	地震、地殻	常時 臨時	1		1																東北大理	(横坑1本) 実観測点数:常時1、臨時0 昭和49年噴火	
蔵王山	2	地震、地殻、熱	2 (臨時12)	地震、地殻、GNSS、電磁気	常時 臨時	4 8	2	2		2			3		1									東北大理	(横坑1本、縦坑2本) 実観測点数:常時4、臨時15 昭和15年噴火。周辺で時々地震多発。東北地方太平洋沖地震以降、深部低周波地震活動が活発化。	
吾妻山	4	地震、地殻、熱	3 (臨時9)	地震、地殻、GNSS、熱、重力	常時 臨時	3 5		1																東北大理	(横坑3本、縦坑1本) 実観測点数:常時3、臨時8 昭和52年微噴火	
安達太良山	1	地震、地殻、GNSS	1	地震、地殻、GNSS	常時 臨時	1																		東北大理	(横坑1本) 実観測点数:常時1、臨時0	
磐梯山	1	地震、地殻	1	地震、地殻	常時 臨時	1		1																東北大理	(横坑1本) 実観測点数:常時1、臨時0 平成12年地震活発化	
草津白根山	39	地震、地殻、GNSS、電磁気、化学、熱、カメラ	34	地震、地殻、GNSS、空振、電磁気、化学、熱、カメラ	常時 臨時	11 3	1	6		7	1		5				2	2	2					東工大	(縦坑3本) 昭和57～58年噴火5回 昭和64年、平成8年微噴火、平成20～23年 火口高温化。平成26年3月から群発地震 膨張変動 熱消磁 水温上昇及び火山ガス組成変化等を観測、平成30年本白根山水蒸気噴火、平成30年湯釜周辺で地震活動活発化	
浅間山	21	地震、GNSS、傾斜、空振、宇宙線ミューオン、地磁気、火山ガス	28 (臨時3)	地震、GNSS、傾斜、空振、宇宙線ミューオン、地磁気、火山ガス、カメラ、熱	常時 臨時	19	2	5		13	1	1	3											東大震研	(縦坑1本) 昭和57、58年噴火、平成16年、20年、21年、27年噴火	
弥陀ヶ原			8	火山ガス、電磁気	常時 臨時														1					東工大	時々地震多発。平成2年付近で地震多発	
富士山 (臨時3)	8	地震、地殻、電磁気	11 (臨時3)	地震、地殻、GNSS、電磁気	常時 臨時	9			1			1							1					東大震研	(横坑1本、縦坑3本) 東北地方太平洋沖地震以降、一時的に活発化し、低下しながら継続	
箱根山			0		常時 臨時																					平成27年大涌谷でごく小規模噴火
伊豆東部 火山群			0		常時 臨時	9		1	1			8												東大地震研	平成元年噴火	
伊豆大島 (臨時26)	28	地震、地殻、GNSS、電磁気 (含むACTIVE)	32 (臨時10)	地震、地殻、GNSS、電磁気 (含むACTIVE)	常時 臨時	25	1	2		10		1	17											東大地震研	(縦坑5本) 昭和61年噴火	
神津島	0		0		常時 臨時	1																		東大地震研		

火山名	平成23年3月31日時点		平成28年3月31日時点		令和3年4月1日現在の観測点数																	主な 観測大学	備 考		
	観測点数	観測項目	観測点数	観測項目	種別	地震	空振	傾斜	歪計	GNSS	カメラ	熱	地磁気	電位	重力	潮位	水位	水温	化学	降灰	レーダー	ライダー	噴火活動等		
三宅島	6	電磁気	(臨時4)	電磁気, 地震, GNSS	常時 臨時	4 1				2 1														九大理 東大地震研	平成12年～平成23年噴火。
焼岳	0		5 (臨時6)	地震, 地殻, GNSS	常時 臨時	6 13		2 6		2 9		1	4											京大防災研	昭和37年噴火
御嶽山	5	地震	12 (臨時7)	地震, 地殻, GNSS	常時 臨時	13 10	6	1		9 10														名大環境	昭和54, 平成3年, 19年, 26年噴火
鶴見岳・ 伽藍岳	1	地震	5 (臨時4)	地震, GNSS	常時 臨時	5 1				4 1														九大理 九大理	東北地方太平洋沖地震以降, 一時的に活発
九重山	4	地震, 電磁気	13 (臨時7)	地震, 電磁気, GNSS	常時 臨時	4 5				2 2			2 1											九大理 九大理	平成7年10月11日 水蒸気爆発
阿蘇山	14	地震, 空振, 地殻, 電磁気	33 (臨時10)	地震, 空振, 地殻, 電磁気, 化学	常時 臨時	23 2	5	3	1	6 9	3		5											九大理 九大理	(横坑1本) ほぼ毎年噴火
雲仙岳	9 (臨時11)	地震, 地殻, GNSS, 電磁気, 化学	15 (臨時11)	地震, 地殻, GNSS, 電磁気, 化学	常時 臨時	8 6		4		1						1	1	1						九大理	(縦坑4本) 平成2～7年噴火
霧島山	8 (臨時22)	地震, 地殻, GNSS, 電磁気, 空振, 絶対重力	23 (臨時18)	地震, 地殻, GNSS, 電磁気, 化学, 空振, 絶対重力	常時 臨時	17 8	8			1			2 1						1			1		東大震研 九大理	(横坑1本, 縦坑1本) 平成3年微噴火, 平成23年噴火。
桜島	20 (臨時4)	地震, 空振, 地殻, GNSS, 化学, 熱, 潮位	20 (臨時12)	地震, 空振, 地殻, GNSS, 電磁気, 化学, 熱, 潮位	常時 臨時	12 3	3	8	2	8 12						4	2		3 1		2 21	2		京大防災研 東工大 鹿児島大理	(横坑2本, 縦坑12本)。 昭和30年から噴火活動継続中。
開聞岳	2	地震, GNSS	2	地震, GNSS	常時 臨時	1 1				1 1														京大防災研	(横坑1本) 昭和42年群発地震
薩摩硫黄島	1 (臨時1)	地震, 空振, GNSS	1 (臨時1)	地震, 空振, GNSS	常時 臨時	1 1	1			1 1												1		京大防災研	昭和63年噴煙 平成10年以降小噴火が頻発, 最新は平成25年。
口永良部島	4 (臨時9)	地震, 空振, GNSS, 電磁気	1 (臨時9)	地震, 空振, GNSS, 電磁気	常時 臨時	1 3	1			1 4			1						1			1		京大防災研 東工大	平成26年噴火。平成27年マグマ噴火。噴火により被災。
中之島	1 (臨時1)	地震, GNSS	1 (臨時1)	地震, GNSS	常時 臨時	1 1				1 1														京大防災研	東北地方太平洋沖地震以降, 一時的に活発化
諏訪之瀬島	1 (臨時13)	地震, 空振, 地殻, GNSS	1 (臨時7)	地震, 空振, 地殻, GNSS	常時 臨時	1 3	1	1		1 2												1		京大防災研	昭和32年頃より噴火活動継続中。
霧島火山帯 (広域観測網)	9 (臨時17)	地震, GNSS	9 (臨時19)	地震, GNSS	常時 臨時	6 14				6 20														京大防災研	(横坑6本) 昭和43年えびの地震

- (注1) 「観測点数」は連続観測点または繰り返し観測の観測点を示す。
- (注2) 「観測点数」の「(臨時○)」は、臨時の観測点数で外数。
- (注3) 「観測項目」の内容は、次のとおり。
- 地震: 火山性地震・微動の連続観測。
- 空振: 空振計(超低周波マイクロフォン)による空気振動の連続観測。
- 傾斜: 傾斜計による地殻変動の連続観測。
- 歪計: 歪(ひずみ)計による地殻変動の連続観測。
- GNSS: GNSSによる地殻変動の連続観測。
- カメラ: 高感度カメラ等による噴煙等の遠望観測。
- 熱: 熱映像観測等による地熱や噴煙等の連続観測。
- 地磁気: 全磁気観測による地熱(熱消磁)の繰り返し観測。
- 電位: 自然電位(地表のある点を基準とした各地点での電位の分布)、比抵抗の繰り返し観測。
- 重力: 重力異常の繰り返し観測。
- 潮位: 潮位の観測。
- 水位: 地下水の水位の観測。
- 水温: 地下水の温度の観測。
- 化学: 二酸化硫黄ガス等の火山ガス放出量等の繰り返し観測。地下水等の成分の観測を含む。
- 降灰: 降灰計による降灰の重量の測定。
- レーダー: レーダーによる大気中の火山灰の観測
- ライダー: レーザー光線による大気中の火山灰の観測

(注4) 「備考」の「縦坑○本」または「横坑○本」は、令和3年4月1日現在の数。

6. 気象庁の常時観測項目と観測点数(火山)

火山名	平成23年3月31日時点		平成28年3月31日時点		令和3年4月1日現在の観測点数									備 考
	観測点数	観測項目	観測点数	観測項目	地震	空振	傾斜	光波	GNSS	カメラ	熱	地磁気	化学	
アトサヌプリ	2	カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	2	カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	4	2	2		2	3	1			(縦坑2本)
雌阿寒岳	6	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	7	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力, 化学	7	2	2		5	2	1			(縦坑2本)
大雪山	1	地震, 熱, カメラ, 空振	1	地震, 熱, カメラ, 空振	2	1	1			2	1			(縦坑1本)
十勝岳	7	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	7	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 化学	8	4	3		7	2	1			(縦坑3本)
樽前山	6	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力, 自然電位	6	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力, 自然電位, 化学	7	2	3		5	1	1	7		(縦坑3本)
倶多楽	1	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	1	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	3	2	2		2	2	1			(縦坑2本)
有珠山	4	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	4	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	5	2	2		3	2				(縦坑2本)
北海道駒ヶ岳	6	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	6	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	7	3	3		5	3	1			(縦坑3本)
恵山	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	3	1	2		1	2	1			(縦坑2本)
岩木山	1	地震, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	1	地震, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	2	1	2		1	1				(縦坑2本)
八甲田山			3	地震, 熱, GNSS	5	1	1		3	2				(縦坑1本)
十和田					2	1	1		1	1				(縦坑1本)
秋田焼山	1	地震, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	1	地震, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	2	1	2		1	1	1			(縦坑2本)
岩手山	5	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	3	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	4	1	2		1	2	1			(縦坑2本)
秋田駒ヶ岳	2	地震, 熱, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	3	地震, 熱, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	4	1	2		1					(縦坑2本)
鳥海山	1	地震, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	1	地震, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	2	1	1		1	1				(縦坑1本)
栗駒山	1	地震, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	1	地震, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	2	1	2			2	1			(縦坑2本)
蔵王山	1	地震, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	1	地震, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	3	2	2		2	4	1			(縦坑2本)
吾妻山	5	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	5	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	6	2	1		6	1	1	7	1	(縦坑1本)
安達太良山	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	5	3	2		4	2	1	5		(縦坑2本)
磐梯山	5	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	3	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	4	2	2		3	2	1			(縦坑2本)
那須岳	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	3	2	2		4	2	1			(縦坑2本)
日光白根山	1	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	2	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	2	1	2		1	2				(縦坑2本)
草津白根山	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	3	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	5	4	2		4	3	1		1	(縦坑2本)
浅間山	7	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 化学, 測距	7	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 化学, 測距	7	4	4	1	4	2				(縦坑4本)
新潟焼山	1	地震, 熱, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	1	地震, 熱, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	3	2	1		3	1				(縦坑1本)
弥陀ヶ原			1	地震, 熱, GNSS	2	1	1		1	1				(縦坑1本)
焼岳	1	地震, 熱, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	1	地震, 熱, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	3	2	2		3	1	1			(縦坑2本)
乗鞍岳	1	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	1	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	2	1	1		3	1				(縦坑1本)
御嶽山	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 全磁力, 地殻(傾斜)	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 全磁力, 地殻(傾斜), 化学	9	5	4		6	3	1	7	1	(縦坑4本)
白山	2	地震, 熱, カメラ, 空振	2	地震, 熱, カメラ, 空振	3	1				1				—
富士山	5	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	6	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	5	2	2		3	1				(縦坑2本)
箱根山	1	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	3	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜), 化学	2	1	2		1	3	1			(縦坑2本)
伊豆東部火山群	3	地震, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	4	地震, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	4	2	2		4	2				(縦坑2本)
伊豆大島	4	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力, 測距	5	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力, 測距	4	4	3	1	3	2	1			(縦坑3本)
新島	1	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	3	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	2	1	1		1	1				(縦坑1本)
神津島	1	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	2	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	2	1	1		1	1				(縦坑1本)
三宅島	4	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 化学, 全磁力	5	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 化学, 全磁力	4	4	2		5	3	1	3		(縦坑2本)
八丈島	1	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	3	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	2	1	2		1	1				(縦坑2本)
青ヶ島	1	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	2	地震, GNSS, カメラ, 空振, 地殻(傾斜)	2	1	1		1	1	1			(縦坑1本)
硫黄島	1	地震, 空振, カメラ	1	地震, 空振, カメラ, 熱, GNSS	2	1			1	1				—

火山名	平成23年3月31日時点		平成28年3月31日時点		令和3年4月1日現在の観測点数									備 考
	観測点数	観測項目	観測点数	観測項目	地震	空振	傾斜	光波	GNSS	カメラ	熱	地磁気	化学	
鶴見岳・伽藍岳	2	地震, 熱, GNSS, 空振	2	地震, 熱, GNSS, 空振	4	2	1		2	1				(縦坑1本)
九重山	1	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	1	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	3	2	1		5	3	1	7	1	(縦坑1本)
阿蘇山	7	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	5	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力, 化学	7	3	2		6	4	1			(縦坑2本)
雲仙岳	6	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	6	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	7	1	3		3	2	1			(縦坑3本)
霧島山	8	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力, 降灰計	11	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力, 降灰計, 化学	12	8	10		15	8	4	7		(縦坑10本)
桜島	6	地震, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜)	6	地震, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 化学	7	4	3		4	4				(縦坑3本)
薩摩硫黄島	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 全磁力	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 全磁力, 化学	4	2	1		2	1				(縦坑1本)
口永良部島	5	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	9	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力, 化学	8	2	1	1	6	4				(縦坑1本)
諏訪之瀬島	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力	2	地震, 熱, カメラ, GNSS, 空振, 地殻(傾斜), 全磁力, 化学	3	1	1		1	2				(縦坑1本)

(注1)「観測点数」は臨時観測点を含むテレメータされている観測点を示す。 ※平成23年, 平成28年については, 震動観測点のみの数表で示した数以外に、繰り返し観測を実施している火山もある。

(注2)「観測項目」の内容は、次のとおり。
地震: 火山性地震・微動の連続観測。
空振: 空振計(超低周波マイクロフォン)による空気振動の連続観測。
傾斜: 傾斜計による地殻変動の連続観測。
光波: 光波測距儀による地殻変動の連続観測。
GNSS: GNSSによる地殻変動の連続観測。
カメラ: 高感度カメラ等による噴煙等の遠望観測。
熱: 熱映像観測等による地熱や噴煙等の連続観測。
地磁気: 全磁力観測による地熱(熱消磁)の連続観測。
化学: 二酸化硫黄ガス等の火山ガス放出量等の連続観測。

(注3)「備考」の「縦坑○本」は、令和3年4月1日現在の数。

7. 国土地理院の常時観測項目と観測点数

火山名	平成23年3月31日時点		平成28年3月31日時点		令和3年4月1日現在の観測点数					備 考
	観測点数	観測項目	観測点数	観測項目	GNSS	GNSS (REGMOS)	光波	地磁気	潮位	
知床硫黄山	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
羅臼岳										
天頂山										
摩周	7	地殻変動	5	地殻変動	5					GNSS 5
アトサヌプリ										
雄阿寒岳	7	地殻変動	3	地殻変動	6	1				GNSS 7
雌阿寒岳										
丸山	7	地殻変動	8	地殻変動	8					GNSS 8
大雪山										
十勝岳										
利尻山	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
樽前山	5	地殻変動	5	地殻変動	4	1				GNSS 4 GNSS(REGMOS) 1
恵庭岳	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
倶多楽	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
有珠山	4	地殻変動	4	地殻変動	3	1				GNSS 3 GNSS(REGMOS) 1
羊蹄山	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
ニセコ	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
北海道駒ヶ岳	5	地殻変動	5	地殻変動	4	1				GNSS 4 GNSS(REGMOS) 1
恵山	3	地殻変動	4	地殻変動	5					GNSS 4
恐山	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
岩木山	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
八甲田山	4	地殻変動	5	地殻変動	7					GNSS 7
十和田	4	地殻変動	4	地殻変動						
秋田焼山	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
八幡平										
岩手山	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
秋田駒ヶ岳	3	地殻変動	3	地殻変動	7					GNSS 7
鳥海山	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
栗駒山	5	地殻変動	5	地殻変動	5					GNSS 5
鳴子	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
肘折	5	地殻変動	5	地殻変動	5					GNSS 5
蔵王山	5	地殻変動	5	地殻変動	5					GNSS 5
吾妻山	6	地殻変動	8	地殻変動	8					GNSS 8
安達太良山	4	地殻変動	5	地殻変動	5					GNSS 5
磐梯山	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
沼沢	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
燧ヶ岳	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
那須岳	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
高原山	5	地殻変動	5	地殻変動	5					GNSS 5
男体山	3	地殻変動	3	地殻変動	4					GNSS 4
日光白根山										
赤城山	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
榛名山	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
草津白根山	5	地殻変動	5	地殻変動	5					GNSS 5
浅間山	7	地殻変動	6	地殻変動	4	2				GNSS 4 GNSS(REGMOS) 2
横岳										GNSS 4
新潟焼山	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
妙高山										
弥陀ヶ原	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
焼岳	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
アカンダナ										
乗鞍岳	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4

火山名	平成23年3月31日時点		平成28年3月31日時点		令和3年4月1日現在の観測点数					備 考
	観測点数	観測項目	観測点数	観測項目	GNSS	GNSS (REGMOS)	光波	地磁気	潮位	
御嶽山	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
白山	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
富士山	14	地殻変動 地磁気	14	地殻変動	11	1		3		GNSS 11 GNSS (REGMOS) 1 地磁気 3
箱根山	5	地殻変動	6	地殻変動	5					GNSS 5
伊豆東部 火山群	11	地殻変動	11	地殻変動	10				2	GNSS 10 潮位 2
伊豆大島	8	地殻変動	8	地殻変動	5	2	1			GNSS 5 GNSS (REGMOS) 2 APS 1
利島	2	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
新島	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
神津島										
三宅島	5	地殻変動	5	地殻変動	5					GNSS 5
御蔵島	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
八丈島										
青ヶ島										
硫黄島	4	地殻変動	4	地殻変動	3	1				GNSS 3 GNSS (REGMOS) 1
三瓶山	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
阿武火山群	5	地殻変動	5	地殻変動	5					GNSS 5
鶴見岳・ 伽藍岳	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
由布岳										
九重山	4	地殻変動	6	地殻変動	6					GNSS 6
阿蘇山	4	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
雲仙岳	4	地殻変動	4	地殻変動	5					GNSS 4
福江火山群	3	地殻変動	3	地殻変動	3					GNSS 3
霧島山	6	地殻変動	7	地殻変動	5	2				GNSS 5 GNSS (REGMOS) 2
米丸・住吉池	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
桜島	7	地殻変動	7	地殻変動	8					GNSS 8
池田・山川	4	地殻変動	4	地殻変動	4					GNSS 4
開聞岳										
薩摩硫黄島	5	地殻変動	6	地殻変動	6					GNSS 6
口永良部島										
諏訪之瀬島										

- (注1) 「観測点数」は全国に展開しているGNSS連続観測網のうち火山活動観測に使われている観測点及び活火山地域における機動観測点等の数を示す。
- (注2) 平成23年、平成28年の「観測項目」の「地殻変動」は、GNSS、光波測距儀等による地殻変動連続観測を示す。
- (注3) 「観測項目」の内容は、次のとおり。
GNSS: GNSSによる地殻変動の連続観測。
GNSS (REGMOS): REGMOS (GNSS火山変動リモート観測装置) による地殻変動の連続観測。
光波: APS (自動光波測距・測角装置) による地殻変動の連続観測。
地磁気: 全磁力観測による地熱 (熱消磁) の繰り返し観測。
潮位: 潮位の観測。
- (注4) REGMOS: 電力・通信手段のない場所でも地殻変動連続観測ができるようにGNSS、ソーラーパネル、衛星携帯電話などを合体した観測装置。
- (注5) APS: 光波測距儀 (光波を用いて距離を測る機械) とセオドライト (角度を測る機械) を組み合わせ、自動的に距離と角度を測るシステム
- (注6) 天頂山、雄阿寒岳については平成23年に活火山に選定され、男体山については平成29年に活火山に選定されたことから、観測対象の火山となった。

8. 海上保安庁における海域火山の監視・観測状況

【伊豆・小笠原諸島】

火山名	定期監視	海域火山基礎情報図調査	航空磁気測量	GNSS	海底地殻変動
伊豆大島	○	平成28年		(△)	
新島	○	平成29年			
神津島	○	平成29年		(△)	
三宅島	○	平成29年		(△)	
八丈島	○			(△)	
青ヶ島	○				
須美寿島	○				
伊豆鳥島	○				
孀婦岩	○				
西之島	○				
硫黄島	○				
伊豆東部火山群	○	令和2年			◇
明神礁	○				
ベヨネース列岩					
白根	○				
海形海山	○				
海徳海山	○	平成28年			
海勢西ノ場	○				
噴火浅根	○				
北福德堆	○				
福德岡ノ場	○				
南日吉海山	○				
日光海山	○				

【南西諸島】

火山名	定期監視	海域火山基礎情報図調査	航空磁気測量	GNSS	海底地殻変動
薩摩硫黄島	○				
口永良部島	○				
口之島	○				
中之島	○				
諏訪之瀬島	○				
横当島	○				
硫黄鳥島	○				
若尊	○	平成29,令和3年			
西表島北北東	○				

(注1) 白根、海勢西ノ場、横当島は、火山噴火予知連絡会が選定した111の活火山には含まれない

(注2) ○印は航空機による年1回以上の定期監視(目視または熱計測)

(注3) 年の記載は調査実施年度

(注4) △印は常時監視観測

(注5) ◇印は測量船による海底地殻変動観測

(注6) 航空磁気測量は平成30年度で終了(平成27年度以降の観測実績はなし)

(注7) GNSS観測は令和2年度で終了

9. 山梨県富士山科学研究所の常時観測項目と観測点数

火山名	平成28年3月31日時点の 観測点数	令和3年4月1日現在の 観測点数	備 考
	地震	地震	
富士山	1	1	(縦坑1本)

(注1)「観測点数」は臨時観測点を含むテレメータされている震動観測点を示す。

(注2)「観測項目」の内容は、次のとおり。

地震：火山性地震・微動の連続観測。

10. 防災科学技術研究所の常時観測項目と観測点数

火山名	平成23年3月31日時点		平成28年3月31日時点		令和3年4月1日現在の 観測点数				備 考
	観測点数	観測項目	観測点数	観測項目	地震	傾斜	GNSS	地磁気	
那須岳	6	地震	6	地震, 地殻(傾斜), GNSS	6	3	3		(縦坑3本)
富士山	6	地震, 地殻(傾斜), GNSS	6	地震, 地殻(傾斜), GNSS	6	6	6		(縦坑6本)
伊豆大島	4	地震, 地殻(傾斜), 全磁力	4	地震, 地殻(傾斜), 全磁力	4	4		3	(縦坑5本)
三宅島	4	地震, 地殻(傾斜), 全磁力, GNSS	4	地震, 地殻(傾斜), 全磁力, GNSS	4	4	4	2	(縦坑5本)
硫黄島	3	地震	3	地震	3		3		(地下壕2)
有珠山	1	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	3	3		(縦坑3本)
岩手山	1	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	3	3		(縦坑3本)
浅間山	2	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	3	3		(縦坑3本)
阿蘇山	2	地震, 地殻(傾斜), GNSS	4	地震, 地殻(傾斜), GNSS	4	4	4		(縦坑4本)
霧島山	2	地震, 地殻(傾斜), GNSS	2	地震, 地殻(傾斜), GNSS	2	2	2		(縦坑2本)
十勝岳	－		3	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	3	3		(縦坑3本)
北海道駒ヶ岳	－		3	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	3	3		(縦坑3本)
樽前山	－		3	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	3	3		(縦坑3本)
草津白根山	－		3	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	3	3		(縦坑3本)
雲仙岳	－		3	地震, 地殻(傾斜), GNSS	3	3	3		(縦坑3本)
口永良部島	－		2	地震, 地殻(傾斜), GNSS	2	1	2		(縦坑2本)

(注1)「観測項目」の内容は、次のとおり。
地震：火山性地震・微動の連続観測。
傾斜：傾斜計による地殻変動の連続観測。
GNSS：GNSSによる地殻変動の連続観測。
地磁気：全磁力観測による地熱(熱消磁)の連続観測。

(注2)「備考」の内容は、次のとおり。
「縦坑〇本」は、令和3年4月1日現在の数。
地震計と傾斜計は同一の縦坑を利用。磁力計は単独の縦坑を利用。
硫黄島では戦時中の地下壕(ちかごう)を利用して観測している。

11. 産業技術総合研究所の常時観測項目と観測点数

火山名	平成23年3月31日時点		平成28年3月31日時点		令和3年4月1日現在の 観測点数			備 考
	観測点数	観測項目	観測点数	観測項目	電位	水位	水温	
伊豆東部 火山群	6	水位・水温	3	水位・水温		3	1	観測点は地震予測のための 地下水観測も兼ねる。 水温は1観測点のみ。
有珠山	2	水位・水温	2	水位・水温		2		
伊豆大島	1	自然電位	1	自然電位	1			
口永良部島	2	GNSS	0					

(注1) 「観測項目」の内容は、次のとおり。

GNSS:GNSSによる地殻変動の連続観測

電位: 自然電位(地表のある点を基準とした各地点での電位の分布)の観測

水位: 地下水の水位の観測

水温: 地下水の温度の観測

12. 北海道立総合研究機構の常時観測項目と観測点数

火山名	平成28年3月31日時点		令和3年4月1日 現在の観測点数			備 考
	観測点数	観測項目	GNSS	熱	化学	
雌阿寒岳	2	熱, GNSS, 化学	2	1	1	テレメータはGNSS1点
十勝岳	2	熱, GNSS, 化学	2	2	2	テレメータはGNSS2点
樽前山	0	熱, 化学		1	2	
有珠山	0	熱, 化学			1	
北海道駒ヶ岳	0	熱, GNSS, 化学	1			

(注1)「観測点数」は臨時観測点を含むテレメータされている観測点または繰り返し観測の観測点を示す。

※なお、平成28年3月31日時点の「観測点数」はテレメータされている観測点のみを示す。

(注2)「観測項目」の内容は、次のとおり。

GNSS: GNSSによる地殻変動の連続観測。

熱: 熱映像観測等による地熱や噴煙等の連続観測。

化学: 二酸化硫黄ガス等の火山ガス放出量等の繰り返し観測。

13. 気象庁の火山機動観測実施状況

火山名/観測種別	計画的な観測	臨時的な観測
知床硫黄山	平29, 30, 令1	
羅 臼 岳	平29, 30, 令1	
天 頂 山	平29, 30, 令1	
摩 周	平29, 30, 令1, 2	
○アトサヌプリ	平28, 29, 30, 令1, 2	
雄阿寒岳	平29, 30, 令1	
○雌阿寒岳	平28, 29, 30, 令1, 2	平30, 令2
丸 山	令1	
○大 雪 山	平28, 29, 30, 令1	
○十 勝 岳	平28, 29, 30, 令1, 2	平30, 令1, 2
利 尻 山		
○樽 前 山	平28, 29, 30, 令1, 2	平28, 30, 令1
恵 庭 岳	平28, 29, 令1, 2	
○倶 多 楽	平28, 29, 30, 令1, 2	平28, 30, 令1
○有 珠 山	平28, 29, 30, 令1, 2	平30
羊 蹄 山	平28, 29, 令1	
ニ セ コ	平28, 29, 令1	
○北海道駒ヶ岳	平28, 29, 30, 令1, 2	平29
○恵 山	平28, 29, 30, 令1, 2	
渡 島 大 島	令1	
恐 山	平29, 30, 令1	
○岩 木 山		
○八 甲 田 山	平28, 29, 30, 令1, 2	
○十 和 田	平28	
○秋 田 焼 山	平29	
八 幡 平		
○岩 手 山	平30, 令1, 2	令1
○秋田駒ヶ岳	平28, 29, 30, 令1, 2	平29, 30
○鳥 海 山	平28	
○栗 駒 山	平28, 29, 30, 令1, 2	令1
鳴 子	平29, 30, 令1	
肘 折		
○蔵 王 山	平28, 29, 30, 令1, 2	平28, 29, 令1
○吾 妻 山	平28, 29, 30, 令1, 2	平30, 令1, 2
○安達太良山	平29, 令1	令2
○磐 梯 山	平28, 令1	
沼 沢	令2	
燧 ヶ 岳		
○那 須 岳	平28, 29, 令1	
高 原 山	平29	
男 体 山	平29	
○日光白根山	平29	
赤 城 山		
榛 名 山		
○草津白根山	平28, 29, 30, 令1, 2	平29, 30
○浅 間 山	平28, 29, 30, 令1, 2	平30, 令1
横 岳		
○新 潟 焼 山	平28, 29, 30, 令1, 2	平28
妙 高 山	平30, 令1, 2	

13. 気象庁の火山機動観測実施状況

火山名/観測種別	計画的な観測	臨時的な観測
○弥 陀ヶ 原	平28, 29, 30, 令1, 2	
○焼 岳	平28, 29, 令1, 2	平29, 令1
アカンダナ山		
○乗 鞍 岳		
○御 嶽 山	平28, 29, 30, 令1	平30, 令1
○白 山	平28, 30, 令1	
○富 士 山	平28	
○箱 根 山	平28, 30	平30, 令1
○伊豆東部火山群		
○伊 豆 大 島	平28, 29, 30, 令1, 2	
利 島		
○新 島		
○神 津 島	令1	
○三 宅 島	平28, 29, 30, 令1, 2	
御 蔵 島		
○八 丈 島		
○青 ヶ 島		
伊 豆 鳥 島		
西 之 島	令2	
○硫 黄 島	平28, 29, 30, 令1, 2	
三 瓶 山		
阿武火山群		
○鶴見岳・伽藍岳	平28, 29, 30, 令1, 2	平28
由 布 岳		
○九 重 山	平28, 29, 30, 令1, 2	平29, 30, 令1, 2
○阿 蘇 山	平28, 29, 30, 令1, 2	平28, 29, 30, 令1, 2
○雲 仙 岳	平28, 29, 30, 令1, 2	平28
福江火山群		
○霧 島 山	平28, 29, 30, 令1, 2	平28, 29, 30, 令1, 2
米丸・住吉池		平30, 令1
○桜 島	平28, 29, 30, 令1, 2	平28, 29, 30, 令1, 2
池田・山川	平30, 令1, 2	平29, 30, 令1, 2
開 聞 岳	平30, 令1, 2	平29, 30, 令2
○薩摩硫黄島	平28, 29, 30, 令1, 2	平28, 30, 令1
○口永良部島	平28, 29, 30, 令1, 2	平28, 30, 令1, 2
口 之 島	令1	
中 之 島	平29, 30, 令1	
○諏訪之瀬島	平28, 29, 30, 令1, 2	令2
硫 黄 鳥 島	平28, 29, 30, 令1, 2	

注1) 火山名に○が付いているのは常時観測火山。

注2) 平成28年度以降の実施状況を記載。

14. 草津白根山(本白根山)に関する火山噴火予知連絡会の活動経過

平成28年度		
平成29年度		
1月23日	本白根山で噴火	噴火場所は鏡池北火口北側の火口列と西側の火口および鏡池火口底の火口列。火砕物降下。
1月23日	(噴火警戒レベル1→2)	(1月23日火山性微動を観測、本白根山で噴火が発生したもよう。本白根山鏡池付近から概ね1kmの範囲では、大きな噴石に警戒。)
1月23日	(噴火警戒レベル2→3)	(1月23日鏡池付近で噴火が発生したもよう。東工大の観測では鏡池付近から1km以上飛散する噴石が確認されており、本白根山鏡池付近から概ね2kmの範囲では、大きな噴石に警戒。)
1月26日	拡大幹事会	本白根山で1月23日10時02分頃噴火が発生し、大きな噴石が1kmを超えて飛散。その後も地震が少ないながらも継続しており、火山活動が高まった状態となっていることから、当面は同程度の噴火が発生する可能性。
2月14日	第140回連絡会	地震は少ないながらも噴火前よりやや多い状態が続いており、当面は1月23日と同様な噴火が発生する可能性は否定できない。
2月27日	第1回草津白根山部会	各機関におけるこれまでの観測状況及び今後の観測計画について説明を行い、今後の草津白根山の観測体制について検討。
3月7日	第21回火山活動評価検討会	本白根山噴火を踏まえ、全国の活火山の噴火履歴の精査と観測のあり方についての検討を実施。
3月16日	(本白根山を対象としたレベル運用開始、レベル3→2)	(噴火前より火山活動のやや高まった状態が続いているため、1月23日と同様な噴火が発生する可能性があり、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒。)
3月22日	第2回草津白根山部会	第140回火山噴火予知連絡会における評価と同じ状況が継続していることを確認。
平成30年度		
6月20日	第141回連絡会	2018年1月23日以降、噴火の発生はなく、地震は少ない状態で経過しているものの、深部の膨張を示唆する変化がみられており、今後も活動に注意が必要。
6月12日	第22回火山活動評価検討会	前回に引き続き、過去の噴火履歴等の精査結果、今後の観測のあり方について検討を行い、その成果を報告として取りまとめた。
10月31日	第142回連絡会	鏡池北火口付近の地震が、6月から8月にかけて発生頻度増加、逢ノ峰付近でも時々地震が発生するなど、火山活動が再び活発化する可能性も否定できないことから、当面は火山活動の推移に注意が必要。
2月27日	第143回連絡会	火山活動は静穏な状態だが、逢ノ峰付近で時々地震が発生していることから、引き続き火山活動の推移に注意が必要。
3月19日	第3回草津白根山部会	草津白根山の西側の膨張と本白根山などの浅部の活動に関連があることが指摘される。草津白根山の西側で地震活動が続いており、草津白根山周辺の地震活動にも注意していく必要があることを確認。

平成31年度(令和元年度)		
4月5日	(噴火警戒レベル2→1)	(2018年1月23日以降噴火はなく、地震も減少したため、火口から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断。)火山活動は静穏な状態だが、逢ノ峰付近で時々地震が発生していることから、引き続き火山活動の推移に注意が必要。 火山活動は静穏な状態だが、逢ノ峰付近で時々地震が発生していることから、引き続き火山活動の推移に注意が必要。 火山活動は現在のところ静穏な状態だが、草津白根山全体の火山活動は中長期的にみると活発な状態が続いており、引き続き火山活動の推移に注意が必要。
7月2日	第144回連絡会	
12月24日	第145回連絡会	
1月21日	第4回草津白根山部会	
令和2年度		
6月30日	第146回連絡会	火山活動は静穏な状態だが、逢ノ峰付近で時々地震が発生していることから、引き続き火山活動の推移に注意が必要。 火山活動は静穏な状態だが、逢ノ峰付近で時々地震が発生していることから、引き続き火山活動の推移に注意が必要。 部会での評価を確認。
12月15日	第5回草津白根山部会	
12月23日	第147回連絡会	
令和3年度		
6月22日	第6回草津白根山部会	火山活動は静穏な状態だが、逢ノ峰付近で時々地震が発生していることから、引き続き火山活動の推移に注意が必要。 部会での評価を確認。
6月30日	第148回連絡会	

15. 西之島に関する火山噴火予知連絡会の活動経過

平成28年度		
6月14日	第135回連絡会	火山活動の明らかな低下が認められるものの、火山ガスの放出が続いていることから、小規模な噴火に伴う大きな噴石に警戒が必要。
8月17日	(火口周辺警報(入山危険)から火口周辺警報(火口周辺危険)に引下げ)	(活動に低下が認められるものの、火口付近には高温領域が引き続き確認されており、火口から概ね500m以内では、大きな噴石に警戒。)
10月4日	第136回連絡会	火山活動の低下が認められるものの、火口付近には高温領域が引き続き確認されており、火道域に海水が浸入した際に小規模な噴火が発生する可能性。
2月14日	第137回連絡会	火山活動の低下した状態が続いており、噴火が発生する可能性はほとんどなくなった。
2月14日	(火口周辺警報(火口周辺危険)解除)	(2015年11月以降噴火が確認されず、地殻変動の沈降、火山ガス放出量の低下といったことから、噴火が発生する可能性は低下したと判断。)
平成29年度		
4月20日	(火口周辺警報(入山危険)を発表)	(海上保安庁の観測で、4月20日14時過ぎに噴火を確認。今後も噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね1.5km以内では大きな噴石に警戒。)
6月20日	第138回連絡会	4月20日に噴火の再開以降、噴石の飛散、溶岩の流出が継続。2013～2015年の噴火様式や噴出率もほぼ同様であるため、今後も噴火活動が続く可能性。
10月3日	第139回連絡会	地表面温度は8月頃からは周囲とほとんど変わらない状態となり、8月の機上観測でも噴火は確認されなかったものの、約1年半の休止期間の後、4月に噴火した経緯を踏まえると、今後も噴火が再開する可能性。
2月14日	第140回連絡会	火山活動は静穏な状態だが、2013年～2015年に継続した後、休止期間を挟んで2017年4月に再開した経緯を踏まえると、今後も噴火が再開する可能性。
平成30年度		
6月20日	第141回連絡会	2017年8月中旬以降、噴火は確認されておらず、火山活動に低下が認められるものの、火口付近に噴気や高温領域が確認されており、小規模な噴火の発生は否定できない。
6月20日	(火口周辺警報(入山危険)から火口周辺警報(火口周辺危険)に引下げ)	(2017年8月中旬以降、噴火は確認されておらず、火山活動に低下が認められるものの、火口付近に噴気や高温領域が確認されており、小規模な噴火の発生は否定できないことから、火口から概ね500mの範囲では、大きな噴石に警戒。)
7月13日	(火口周辺警報(火口周辺危険)から火口周辺警報(入山危険)に引上げ)	(7月13日海上保安庁の観測で活発な噴火活動や溶岩の流出を確認。今後も噴火の規模が拡大する可能性があるため、火口から概ね1.5kmの範囲では大きな噴石や溶岩流に警戒。)
10月31日	第142回連絡会	火山活動に明らかな低下が認められ、噴火の可能性は低くなっているものの、火口付近に噴気や高温領域が確認されており、今後の火山活動の推移に注意が必要。
10月31日	(火口周辺警報(入山危険)から火口周辺警報(火口周辺危険)に引下げ)	(火山活動に明らかな低下が認められ、噴火の可能性は低くなっているものの、火口付近に噴気や高温領域が確認されており、今後の火山活動の推移に注意が必要。)
2月27日	第143回連絡会	火山活動に明らかな低下が認められ、噴火の可能性は低くなっているものの、火口付近に噴気や高温領域が確認されており、今後の火山活動の推移に注意が必要。
平成31年度(令和元年度)		
7月2日	第144回連絡会	火山活動に明らかな低下が認められ、噴火の可能性は低くなっているものの、火口付近に噴気や高温領域が確認されており、今後の火山活動の推移に注意が必要。
12月5日	(火口周辺警報(火口周辺危険)から火口周辺警報(入山危険)に引上げ)	(12月5日に気象衛星ひまわりの観測で高温域を確認。噴火が発生している可能性があることから、山頂火口から概ね1.5kmの範囲では大きな噴石や溶岩流に警戒。)
12月16日	(火口周辺警報(入山危険)を切替え)	(活発な噴火活動が続いており、溶岩が海に達していることを確認。今後も溶岩の流出が継続する可能性があるため、山頂火口から概ね2.5kmの範囲では大きな噴石や溶岩流に警戒。)
12月24日	第145回連絡会	噴火活動は活発な状態。地表面温度は、大量の溶岩が流れた2017年噴火時よりも高い状態であり、今後も噴火活動が継続すれば2017年の噴火の規模を上回る恐れがある。
令和2年度		
6月30日	第146回連絡会	噴火活動は活発な状態。今後も溶岩の流出や大きな噴石及び火山灰噴出を伴う活発な噴火活動が継続する可能性が高い。
12月18日	(火口周辺警報(入山危険)を切替え)	(8月下旬以降噴火は確認されておらず、活動に低下が認められるものの、山頂火口内及びその周辺に噴気や高温領域が確認されていることから、山頂火口から概ね1.5kmの範囲では大きな噴石に警戒。)
12月23日	第147回連絡会	8月下旬以降、噴火は確認されおらず、火山活動は低下しているものの、山頂火口内に噴気や高温領域が確認されており、噴火が再開する可能性。
令和3年度		
6月30日	第148回連絡会	2020年9月以降、噴火は確認されておらず、火山活動に明らかな低下が認められているものの、噴気が時々観測されており、小規模な噴火が発生する可能性は否定できない。

16. 霧島山(新燃岳)に関する火山噴火予知連絡会の活動経過

平成28年度		
6月14日	第135回連絡会	新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は時々増加しており、今後も火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性。
10月4日	第136回連絡会	火山性地震が時々発生し、火口内および西側斜面では弱い噴気や熱異常が確認されていることから、今後の火山活動の推移に注意。
2月14日	第137回連絡会	火山性地震が時々発生しており、火口内および西側斜面では弱い噴気や熱異常が確認されていることから、今後の火山活動の推移に注意。
平成29年度		
5月26日	(噴火警戒レベル2→1)	(観測データに特段の活動の高まりを示す変化はみられてないことから、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断。)
6月20日	第138回連絡会	新燃岳火口の西側斜面の割れ目の下方で、やや温度の高い部分が引き続き観測されていることから、火山灰や火山ガス等の規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性。
10月3日	第139回連絡会	新燃岳火口の西側斜面の割れ目の下方で、やや温度の高い部分が引き続き観測されており、地震は9月下旬以降やや増加していることなどから、火山灰や火山ガス等の規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性。
10月5日	(噴火警戒レベル1→2)	(火山性地震の増加や深部膨張の傾向が認められることから、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒。)
10月11日	(噴火警戒レベル2→3)	(10月11日噴火が発生。新燃岳の山体が膨張する傾斜変動が続いていることから、今後、更に活動が活発になる可能性があるため、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石及び火砕流に警戒。)
10月15日	(噴火警戒レベル3切替え)	(火山ガス放出量急増。今後、更に活動が活発になる可能性があるため、火口から概ね3kmの範囲では大きな噴石及び火砕流に警戒。)
10月19日	拡大幹事会	新燃岳では、活発な噴火活動が続いており、当分の間は、大きな噴石及び火砕流への警戒が必要。
10月31日	(噴火警戒レベル3切替え)	(火山ガス放出量が減少。一方、低周波地震は引き続き発生しているため、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石に、概ね1kmの範囲では火砕流に警戒。)
2月14日	第140回連絡会	火山性地震の一時的な増加や、わずかな傾斜変動を伴う火山性微動が発生していることなどから、火山活動がやや高まった状態が続いており、小規模な噴火が発生する可能性。
3月1日	(噴火警戒レベル3切替え)	(火山ガス放出量急増。今後、更に活動が活発になる可能性があるため、火口から概ね3kmの範囲では大きな噴石に、概ね2kmの範囲では火砕流に警戒。)
3月10日	(噴火警戒レベル3切替え)	(3月10日爆発的な噴火発生。今後、更に活動が活発になる可能性があるため、火口から概ね4kmの範囲では大きな噴石に、概ね2kmの範囲では火砕流に警戒。)
3月15日	(噴火警戒レベル3切替え)	(3月11日以降、噴火活動にさらなる活発化は認められないことから、警戒が必要な範囲を概ね3kmに縮小。)
平成30年度		
6月20日	第141回連絡会	噴火活動は次第に低下してきているが、地震活動は3月の噴火以前より高い状態を保っており、今後も噴火を繰り返す可能性。
6月28日	(噴火警戒レベル3→2)	(火口へのマグマの供給は低下したとみられるが、活発な地震活動が続いていることなどから、引き続き火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石に、概ね1kmの範囲では火砕流に警戒。)
7月24日	第1回霧島山部会	引き続き、噴火活動は次第に低下してきているものの、地震活動は3月の噴火以前より高い状態を保っており、噴火を繰り返す可能性。
10月31日	第142回連絡会	火山性地震はやや多い状態が続いており、傾斜変動を伴う火山性微動が発生するなど、火山活動はやや高まった状態が続いていることから、大きな噴石の飛散や火砕流を伴う噴火が発生する可能性。
12月19日	第2回霧島山部会	2011年及び2018年の噴火で、噴火前や噴火中に観測された現象の再確認と、同噴火で噴出された噴出物の分析結果について意見交換を実施。
1月18日	(噴火警戒レベル2→1)	(火山性地震や火山ガス放出量の減少、噴気や熱異常域の状況に変化がないことから、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断。)
2月25日	(噴火警戒レベル1→2)	(火山性地震増加。深部のマグマの蓄積を示す基線の伸びも継続していることから、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石に、概ね1kmの範囲では火砕流に警戒。)
2月27日	第143回連絡会	火山性地震は2018年11月中旬頃から少なくなっていたが、2月25日から増加しており、火山活動がやや高まった状態。
平成31年度(令和元年度)		
4月5日	(噴火警戒レベル2→1)	(火山性地震減少、噴気や地熱域の状況に変化がないことから、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断。)
7月2日	第144回連絡会	火山性地震は概ね少ない状態が続いているが、2月などに一時的に増加がみられており、引き続き火山活動の推移に注意が必要。
11月18日	(噴火警戒レベル1→2)	(火山性地震増加。火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石に、概ね1kmの範囲では火砕流に警戒。)
12月3日	第3回霧島山部会	11月17日から18日にかけて新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が一時的に増加するなど、火山活動が高まった状態。
12月20日	(噴火警戒レベル2→1)	(火山性地震減少。噴気や傾斜計に変化がみられないことから、火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断。)
12月24日	第145回連絡会	噴火の兆候は認められないが、11月17日から18日にかけて新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が一時的に増加したことから、火山活動の推移には留意が必要。
1月2日	(噴火警戒レベル1→2)	(火山性地震増加。火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石に、概ね1kmの範囲では火砕流に警戒。)
令和2年度		
6月30日	第146回連絡会	火山性地震は増減を繰り返しており、噴気活動の再開や火山ガスの放出量増加など、火山活動が高まった状態。一方、地殻変動のデータに特段の変化がないことから、規模の大きな噴火に至る可能性は低い。
12月11日	(噴火警戒レベル2→1)	(火山性地震減少。噴気や地殻変動データなどに変化がみられないことから、火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断。)
12月16日	第4回霧島山部会	火山活動の高まりが認められた11月以降、地震活動は低下傾向、地熱域、噴気活動、火山ガスの放出量にも変化がないことから、現時点で噴火の兆候は認められないものの、今後、火山性地震の増加や地殻変動等が認められた場合には、火山活動が活発化する可能性。
12月23日	第147回連絡会	部会での評価を確認。
12月25日	(噴火警戒レベル1→2)	(火山性地震増加。火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石に、概ね1kmの範囲では火砕流に警戒。)
3月1日	(噴火警戒レベル2→1)	(火山性地震減少。噴気や地殻変動データなどに変化がみられないことから、火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断。)
令和3年度		
6月25日	第5回霧島山部会	2月以降、火山性地震は少なく、2020年12月以降火山ガスの放出量も少ない状態で経過。地熱域、噴気活動にも変化がないことから、現時点で噴火の兆候は認められないものの、今後、火山性地震の増加や地殻変動等が認められた場合には、火山活動が活発化する可能性。
6月30日	第148回連絡会	部会での評価を確認。

16. 霧島山(硫黄山)に関する火山噴火予知連絡会の活動経過

平成28年度		
6月14日	第135回連絡会	傾斜変動を伴う火山性微動が時々発生。2015年12月以降、熱異常域は拡大傾向であり、火山活動がやや高まってきている。 地震は少なく微動も2016年2月以降観測されていないものの、熱異常域は引き続き拡大傾向にあるため、突発的な噴出現象が発生する可能性。
10月4日	第136回連絡会	
12月6日	(えびの高原(硫黄山)周辺を対象としたレベル運用開始)	
12月12日	(噴火警戒レベル1→2)	
1月13日	(噴火警戒レベル2→1)	
2月14日	第137回連絡会	熱異常域は長期的な拡大が認められており、地震増加や傾斜変動を伴って突発的な噴出現象が起こる可能性。
平成29年度		
5月9日	(噴火警戒レベル1→2)	(硫黄山で火山活動が高まっており、概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒。)
6月20日	第138回連絡会	硫黄山火口のごく浅いところで繰り返しわずかな膨張がみられており、火口周辺に火山灰を降らせる噴火が発生する可能性。
10月3日	第139回連絡会	地震の一時的増加、地震に伴う傾斜変動等が認められることから、今後の活動の推移に注意が必要。
10月31日	(噴火警戒レベル2→1)	(地震活動が低下し、傾斜変動も観測されなくなったため、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断。)
2月14日	第140回連絡会	地震の一時的な増加や、噴気や熱異常域の温度の高まり、傾斜変動を伴う火山性微動の発生など、一時的な火山活動の高まりが認められることから、今後の活動の推移に注意が必要。
平成30年度		
4月19日	(噴火警戒レベル2→3)	(硫黄山の南側で噴火が発生し、火孔から200～300m程度まで大きな噴石が飛散。概ね2kmの範囲では大きな噴石に警戒。)
5月1日	(噴火警戒レベル3→2)	(4月26日以降噴火は発生していないが、活発な噴気活動は続いている。4月19日程度の噴火が発生する可能性があるため、概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒。)
6月20日	第141回連絡会	4月の噴火後は地震活動、地殻変動及び噴気活動などの観測データに火山活動の低下傾向がみられているが、再び活発化を示す変化が認められた場合には、噴火が発生する可能性。
7月24日	第1回霧島山部会	6月上旬頃から硫黄山近傍のGNSS基線で伸びが続き、地震活動にも高まる傾向がみられている。引き続き、ごく小規模な噴火が発生する可能性。
10月31日	第142回連絡会	噴気・熱泥噴出活動は引き続き活発。硫黄山で中心に膨張の傾向が続いている。地震も増加していることから、今後もごく小規模な噴火が発生する可能性。
12月19日	第2回霧島山部会	硫黄山で現在観測されている地殻変動及び、今後硫黄山で想定される活動についての意見交換を実施。
2月27日	第143回連絡会	噴気・熱泥噴出活動は引き続き活発。地震はやや多い状態で経過しており、GNSS等でも伸びの傾向が継続している。火山活動が高まった状態が継続しており、ごく小規模な噴火が発生する可能性。
平成31年度(令和元年度)		
4月18日	(噴火警戒レベル2→1)	(火山性地震の減少、地殻変動の停滞、熱活動活発化の兆候はないといったことから、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断。)
7月2日	第144回連絡会	噴気は引き続き活発。地震は概ね少ない状態で経過。硫黄山近傍のGNSS基線の伸びは停滞。活動は静穏な状態だが、引き続き火山活動の推移に注意が必要。
12月3日	第3回霧島山部会	活発な噴気活動が続いているものの、地震は概ね少ない状態で経過し、硫黄山近傍のGNSS基線の伸びは停滞もしくはわずかに収縮しており、噴火の兆候は認められない。
12月24日	第145回連絡会	活発な噴気活動が続いているものの、地震は少ない状態で経過し、硫黄山近傍のGNSS基線の伸びは停滞もしくはわずかに収縮しており、噴火の兆候は認められない。
令和2年度		
6月30日	第146回連絡会	活発な噴気活動が続いているものの、地震は少ない状態で経過し、硫黄山近傍のGNSS基線の伸びは停滞もしくはわずかに収縮しており、噴火の兆候は認められない。
12月16日	第4回霧島山部会	活発な噴気活動が続いており、地震はわずかに増加した状態が継続、5月頃から浅部のわずかな膨張を示す地殻変動。現時点で噴火の兆候は認められないものの、今後、火山性地震の増加や地殻変動等が認められた場合には、火山活動が活発化する可能性。
12月23日	第147回連絡会	部会での評価を確認。
令和3年度		
6月25日	第5回霧島山部会	活発な噴気活動が続いており、地震はわずかに増加した状態が継続、浅部の膨張を示す地殻変動は2月以降停滞。現時点で噴火の兆候は認められないものの、今後、火山性地震の増加や地殻変動等が認められた場合には、火山活動が活発化する可能性。
6月30日	第148回連絡会	部会での評価を確認。

17. 桜島に関する火山噴火予知連絡会の活動経過

平成28年度		
6月14日	第135回連絡会	引き続き活発な噴火活動継続。 昭和火口では、6月から7月にかけて噴火が時々発生したが、7月27日以降はごく小規模な噴火も観測されていない。7月26日の噴火では噴煙が火口縁上5,000mに達した。 噴火活動は2016年8月以降低下している。
10月4日	第136回連絡会	
2月14日	第137回連絡会	
平成29年度		
6月20日	第138回連絡会	3月以降活発な噴火活動が継続。 活発な噴火活動継続。 時々噴火が発生。今後も同様な噴火活動が継続する可能性。
10月3日	第139回連絡会	
2月14日	第140回連絡会	
平成30年度		
6月20日	第141回連絡会	引き続き活発な噴火活動継続。 活発な噴火活動が継続していたが、9月下旬から活動がやや低下。 活発な噴火活動が継続していたが、1月中旬から活動がやや低下。
10月31日	第142回連絡会	
2月27日	第143回連絡会	
平成31年度(令和元年度)		
7月2日	第144回連絡会	噴火活動がやや低下した状況が継続。 9月以降噴火活動が活発化。
12月24日	第145回連絡会	
令和2年度		
6月30日	第146回連絡会	活発な噴火活動継続。 活発な噴火活動が続いていたが、7月頃から活動が低下。
12月23日	第147回連絡会	
令和3年度		
4月25日	(噴火警戒レベル3切替え)	(火砕流の流下が火口から1.5kmを超えたことを確認。居住地域への接近が予想されると判断し、大きな噴石及び火砕流に警戒が必要な範囲を2km以上に拡大。) (現地調査の結果、火砕流の痕跡がなかったことから、大きな噴石及び火砕流に警戒が必要な範囲を2kmに縮小。) 2020年12月以降活発な噴火活動が続いていたが、5月に入り活動低下。
4月25日	(噴火警戒レベル3切替え)	
6月30日	第148回連絡会	

18.「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」の個別課題一覧(機関順)

機 関 名	研究課題	研究課題名	担当者名
(研)情報通信研究機 北海道大学	NICTO1	先端リモートセンシングによる地震及び火山の被害状況把握技術の高度化	川村 誠治
	HKD_01	津波堆積物情報の高度化と実践的活用に関する研究	西村 裕一
	HKD_02	大規模噴火に関わるマグマプロセスの時間スケールの解明	栗谷 豪
	HKD_03	マグマ脱ガス実験と火山噴出物の揮発性成分解析に基づく噴火分岐メカニズムの解明	吉村 俊平
	HKD_04	電磁気・熱・ガス観測に基づく火山活動推移モデルの構築	橋本 武志
	HKD_05	巨大地震に伴う海底斜面崩壊による津波の事前評価・即時予測に関する研究	谷岡 勇市郎
	HKD_06	火山活動即時解析表示システムの開発	橋本 武志
	HKD_07	地理空間情報の総合的活用による災害への社会的脆弱性克服に関する人間科学的研究	橋本 誠一
	HKD_08	地殻変動等多項目データの全国流通一元化公開解析システムの高度化	高橋 浩晃
	HKD_09	千島海溝沿いの巨大地震津波災害軽減に向けた総合研究	高橋 浩晃
	HRS_01	東北日本弧・千島弧会合部とその周辺における地震発生場の解明	前田 拓人
	HRS_02	データ同化に基づく津波現況把握と即時予測の高度化	前田 拓人
東北大学理学研究科	THK_01	国際共同研究によるニュージーランドにおける地震発生機構の解明	岡田 知己
	THK_02	流体の寄与に注目した地震断層すべり物理モデルの高度化	松澤 颯
	THK_03	噴火発生時刻の即時把握と噴火ダイナミクス研究	西村 太志
	THK_04	浅部貫入マグマの結晶化速度と噴火挙動の推定手法の開発	中村 真千彦
	THK_05	世界各地の大地震発生場との比較研究に基づく地震・火山現象の理解	趙 大鵬
	THK_06	スラブ内地震の発生メカニズムに関する研究	東 龍介
	THK_07	地殻応答による断層への応力転移過程と断層間相互作用の解明と予測	岡田 知己
	THK_08	集中地震観測による火山体構造・火山現象発生場の解明	山本 希
	THK_09	繰り返し地震発生特性の理解に基づく地殻活動モニタリング	内田 直希
	THK_10	地殻変動に伴う大気中ラドン濃度変動	長瀬 裕幸
	THK_11	多項目観測データに基づく火山活動のモデル化と活動分岐判断指標の作成	西村 太志
	THK_12	海陸地データを活用したプレート境界面すべり即時把握能力の向上とそれにもとづく津波	太田 雄策
	THK_13	即時推定手法の高度化 地震・火山データの無線伝送技術の開発	内田 直希
東北大学 災害科学国際研究所	IRID01	東北地方における地震・津波・火山情報に関する歴史資料の所在調査とデータ収集	蝦名 裕一
	IRID02	GPS-A観測による効率的な上下変動検出技術の開発と根室沖観測への適用	木戸 元之
	IRID03	地表設置型合成開口レーザ(GSAR)による地表変位計測の高精度化	佐藤 源之
	IRID04	地震の事前情報を起点とするハザード事象系統観の構築	嶋島 洋
	IRID05	歴史地形の復元・可視化手法の確立と災害発生要因の分析	蝦名 裕一
	IRID06	災害に関わる個人の心理・行動特性とその評価・活用・調整に関する研究	杉浦 元亮
新潟大学	NGT_01	日本海沿岸地域を中心とした地震・火山現象の解明のための史料収集と解析	田村 昭彦
	NGT_02	地震・火山噴火災害における被害軽減のために利活用可能な要素・知識体系の整理・検証	田村 圭子
東京大学地震研究所	ERI_01	歴史地震史料を活用した地震学的解析	加納 靖之
	ERI_02	マグマ溜まりの時間発展と噴火様式との関連性	安田 敦
	ERI_03	大規模噴火に伴う諸現象とそれを駆動するマグマ溜り・二火道システムの解明	前野 深
	ERI_04	非線形動力学・計算材料科学との学際連携に基づく地震現象の多様性の統一的理解	亀 伸樹
	ERI_05	千島海溝・日本海溝における複合海底地震地観測によるプレート境界の挙動解明とそのモ	篠原 雅尚
	ERI_06	より現実的な断層面ダイナミクス	中谷 正生
	ERI_07	多項目観測データの比較研究に基づく噴火過程の理解とモデル構築	大湊 隆雄
	ERI_08	日本・NZ国際協力によるヒクランギ沈み込み帯における多様な地震活動と、その発生環境と	望月 公廣
	ERI_09	の関係の解明 内陸地震発生ポテンシャルの予測を自招した島弧の地殻応答と断層における地殻内流体の	飯高 隆
	ERI_10	影響の解明 東日本における長期的重力変化の観測とモデリング	今西 祐一
	ERI_11	地震発生予測のための島弧・海溝システムの観測・モデリング統合研究	篠原 雅尚
	ERI_12	スロー・地震モニタリングに基づく南海トラフ域の地震発生可能性評価手法に関する研究	蔵下 英司
	ERI_13	経験的アプローチによる大地震の確率予測のパフォーマンス調査	中谷 正生
	ERI_14	大規模数値シミュレーションに基づく広域域地震災害の事前・即時予測	古村 孝志
	ERI_15	首都圏の地震被害分布と地震後の解明	酒井 慎一
	ERI_16	堆積平野・堆積盆地における地震災害発生機構の解明	三宅 弘恵
	ERI_17	堆積物に基づく噴火物理化学パラメータ推定手法の高度化と事象分岐判断への活用	前野 深
	ERI_18	観測研究データへの系統的識別子付与	加納 靖之
	ERI_19	データ流通網の高度化	鶴岡 弘
	ERI_20	光技術を用いた地下深部・火山近傍における地震・地殻変動計測技術の確立	新谷 昌人
	ERI_21	高精度ミュログラフ画像自動診断による火山活動状況の推移とそれに関する評価	田中 幸幸
	ERI_22	海底ケーブルを用いる地震・地殻変動・津波リアルタイム観測技術開発	篠原 雅尚
	ERI_23	海底での地震・地殻変動観測に向けた機動的観測技術の高度化	嶋島 洋
	ERI_24	マルチプラットフォーム次世代WINシステムの開発	中川 茂樹
	ERI_25	研究成果共有データベースの構築	鶴岡 弘
東京大学理学系研究	UTS_01	沿岸巨礫を用いた古津波評価法の検討・南海トラフ～琉球海溝の運動可能性評価に向けて	後藤 和久
	UTS_02	巨大地震に伴う粘弾性余効変動の解明	田中 孝幸
	UTS_03	地震発生場のテクニクスとマルチスケール地震現象の予測可能性	井出 賢
	UTS_04	地殻流体の化学的観測による地震火山活動評価システムの高度化と応用	角森 史昭
	UTS_05	物理モデルと地形・地質学およびテクニクスな観測データを統合した地震発生長期予測手	安藤 亮輔
	UTS_06	法の開発と検証 遠隔地火山、特に離島火山における火山ガスモニタリングの高度化	森 俊哉
東京大学情報学環	III_01	ニーズ・アクセスメントに基づく地震・火山災害に関する発生確率、被害想定、災害情報のコミュニケーション戦略の開発	関谷 直也
東京大学史料編纂所	UTH_01	地震火山関連史料の収集・分析とデータベースの構築・公開	榎原 雅治
	UTH_02	近代以前の地震・火山災害に関する多角的調査	杉森 鈴子
東京大学 大気海洋研究所	AORI01	巨大津波を引き起こす震源断層の実態解明と流体変動モニタリング	朴 進午
	AORI02	地球物理・化学的探査による海底火山および海底熱水活動の調査	小畑 元
	HMEV01	地震火山関連史料に基づく低頻度大規模地震火山災害の調査	大邑 潤三
	HMEV02	地震関連史料に基づく近代以前の地震活動の調査	榎原 雅治
東京工業大学	TIT_01	海城火山活動に伴う熱水活動の実験的研究と観測研究	野上 健治
	TIT_02	小型拡散放出二酸化炭素率測定装置の開発	野上 健治
	TIT_03	水蒸気噴火の準備過程を捉えるための火山熱水系構造モデルの精緻化	寺田 曉彦
千葉大学	CBA_01	電磁気学的な地震先行現象の総合的研究	服部 克巳
富山大学	TYM_01	種小規模噴火を含めた草津白根火山の噴火履歴の解明と噴火ポテンシャル評価	石崎 泰男
	TYM_02	富山県弥陀ヶ原火山における地球物理学的観測による火山活動モニタリング	堀田 純平
	TYM_03	地震学・火山学の知見に基づくコンバクトシティをデザインする情報科学からの被災生活シ	井ノ口 宗成
		ミュレーション	

機 関 名	研究課題	研究課題名	担当者名
名古屋大学	NGY_01	古文書解読による南海トラフ巨大歴史地震像の解明 ～歴史地震情報の可視化システムの構築とその活用～	山中 佳子
	NGY_02	南西諸島海溝におけるプレート間固着状態の解明	田所 敏二
	NGY_03	変動地形学的手法による内陸地震発生モデルと活断層長期評価手法の再検討	鈴木 康弘
	NGY_04	南海トラフ域におけるプレート間固着・滑りの時空間変化の把握	田所 敏二
	NGY_05	地震断層の特性を重視した断層近傍の強震動ハザード評価	鈴木 康弘
	NGY_06	被害の地域的な発現過程とコミュニティの社会・空間構造に着目した地震・津波災害発生機構に関する文理融合的研究	室井 研二
	NGY_07	御蔵山地域の防災力向上の総合的推進に関する研究	山岡 耕春
	NGY_08	小電力・小型・携帯テレメータ地震観測装置の改良開発	山中 佳子
京都大学防災研究所	DPRI01	津波生成過程の理解に向けた浅部スロー地震の活動様式・発生場の解明とモデル化	伊藤 真宏
	DPRI02	南海トラフ巨大地震の予測高度化を目指したフィリピン海スラブ周辺域での総合的観測研究	滝谷 拓郎
	DPRI03	内陸地震の発生機構と発生場の解明とモデル化	飯尾 能久
	DPRI04	日本列島の地震-火山噴火の基本場解明: 地殻とマントルにおける応力・流体-マグマ・温度・流動-変形場	深畑 幸俊
	DPRI05	測地観測データに基づく内陸地震長期評価手法の開発	西村 真也
	DPRI06	インドネシアの活動的火山における火山活動推移モデルの構築	山口 正人
	DPRI07	接島火山における火山活動推移モデルの構築による火山噴火予測のための総合的観測研究	中道 治久
	DPRI08	広帯域強震動予測の高度化に関する研究	関口 春子
	DPRI09	断層破壊過程と複合強震動生成に関する研究	岩田 知孝
	DPRI10	火山地域を含む地震地すべり発生場の評価と斜面における強震動及び不安定化の事前予測手法の展開	釜井 俊孝
	DPRI11	火砕流の発生と流下予測	為栗 健一
	DPRI12	噴火後の土石流および泥流の発生に関する観測と予測手法の開発	藤田 正治
	DPRI13	桜島火山における地域との連携による火山災害に関する社会の共通理解醸成のための研究	中道 治久
	DPRI14	災害リテラシーの育成のためのオープンサイエンス手法の検討	矢守 克也
京都大学理学研究科	KUS_01	地殻活動データの同化による沈み込みプレート境界面すべり予測に関する研究	宮崎 真一
	KUS_02	地震・地殻変動モニタリングによる中期的な火山活動の評価	大倉 敬宏
	KUS_03	阿蘇で学ぶ地震・火山災害への備え	大倉 敬宏
神戸大学	KOBE01	鬼界海底カルデラにおけるマグマ供給系の構造・進化の解明	島 伸和
鳥取大学	TTR_01	地方自治体の地震被害想定・災害リスク評価を高度化するための基盤整備	香川 敏生
高知大学	KOC_01	地震動観測点観測環境の時間変化把握に向けた、解析手法の検討・開発	大久保 慎人
	KOC_02	地震波データ流通のための、新WIN伝送プロトコルの検討・開発	大久保 慎人
九州大学	KYU_01	地震火山相互作用下の内陸地震空間ポテンシャル評価	相澤 広記
鹿児島大学	KGSM01	南西諸島北部域におけるプレート間すべりの特性に関する地震・地殻変動観測研究	八木原 寛
兵庫県立大学	HYG_01	地震・火山観測データを活用した減災・復興モデルの構築とリスクコミュニケーションに資する	阪本 真由美
	HYG_02	地震観測研究の成果を活用した土地利用に係る事例収集に基づく枠組みの提案	澤田 雅浩
立命館大学	RTM_01	南アフリカ大深度金鉱山からの地震発生場における応力と物質の直接調査	小笠原 宏
	RTM_02	地震に先行する極めて微小な前震活動の異常度評価と発生環境の評価	川方 裕則
(研)防災科学技術研	NIED01	多角的火山活動評価に関する研究	藤田 英輔
	NIED02	地震・津波予測技術の戦略的・高度化研究	汐見 勝彦
	NIED03	巨大地震による潜在的ハザードの把握に関する研究	齊藤 寛彦
	NIED04	自然災害ハザード・リスク評価と情報の利活用に関する研究	藤原 広行
	NIED05	基盤的観測網の運用	青井 真
(研)海洋研究開発機	JAMS01	地震発生帯モデリング研究	堀 高隆
	JAMS02	海底広域変動観測研究	石原 靖重
	JAMS03	海底火山観測研究	小野 重明
(研)産業技術総合研	AIST01	活断層データベースの整備	吾妻 崇
	AIST02	主要活断層帯から生じる運動型地震の古地震学的研究	近藤 久雄
	AIST03	地質調査に基づく火山活動履歴の解明と年代測定手法の高度化	古川 真太
	AIST04	津波浸水履歴情報の整備	大倉 正展
	AIST05	地質調査と実験に基づく、断層の力学挙動についての三次元モデルの構築	重松 紀生
	AIST06	火山性流体観測に基づく噴火発生過程および火山活動推移の解明	森田 雅明
	AIST07	高分解能地殻応力場の解明と構造造場の研究	今西 和俊
	AIST08	海溝型巨大地震の履歴とメカニズム解明	大倉 正展
	AIST09	地下水・地殻変動観測による地震予測精度の向上	松本 剛夫
	AIST10	噴出物の物質科学的解析に基づくマグマ供給系・火道システム発達と噴火推移過程のモデル化	下司 信夫
	AIST11	アジア太平洋地域地震・火山ハザード情報整備	宝田 晋治
国土地理院	GSJ_01	内陸の地殻活動の発生・準備過程の解明	宗包 浩志
	GSJ_02	プレート境界面上の滑りと固着の時空間変化の広域的な把握	宗包 浩志
	GSJ_03	火山地域のマグマ供給系のモデリング	宗包 浩志
	GSJ_04	GNSS連続観測(GEONET)	宗包 浩志
	GSJ_05	地形地殻変動観測	宗包 浩志
	GSJ_06	物理測地観測	宗包 浩志
	GSJ_07	宇宙測地技術による地殻変動監視	宗包 浩志
	GSJ_08	GNSS観測・解析技術の高度化	宗包 浩志
	GSJ_09	全国活断層帯情報整備	宗包 浩志
	GSJ_10	火山基本図・火山土地条件整備	宗包 浩志
	GSJ_11	地殻活動データベース整備・更新	宗包 浩志
気象庁	JMA_01	地震活動・地殻変動監視の高度化に関する研究	小林 昭夫
	JMA_02	地殻変動観測等に基づく火山活動評価の高度化に関する研究	鬼澤 真也
	JMA_03	火山活動に伴う地殻変動の把握及び評価	青井 明
	JMA_04	地球電磁気学的手法による火山活動評価の高度化	滝沢 倫明
	JMA_05	化学的手法に基づく火山活動監視・予測に関する研究	高木 朗充
	JMA_06	地震動・津波即時予測の高度化に関する研究	鎌谷 紀子
	JMA_07	火山噴出物の監視技術とデータ同化に基づく輸送予測に関する研究	新堀 敏基
	JMA_08	火山活動の総合判断	中村 政道
	JMA_09	地震観測・地殻変動観測	岡村 一樹
	JMA_10	潮位観測	鈴木 博樹
	JMA_11	地磁気精密観測	仰木 淳平
	JMA_12	全国における火山観測の強化	大賀 昌一
	JMA_13	地磁気観測成果のデータベース化	有田 真健
	JMA_14	全国地震カタログの作成	森脇 健也
	JMA_15	火山現象に関する基礎データの蓄積と活用	山本 哲也
	JMA_16	地震・津波・火山防災情報の改善に係る知見・成果の共有	福満 修一郎
	JMA_17	防災・減災に関する知識の普及啓発	福満 修一郎
海上保安庁	JCG_01	海洋測地の推進	渡邊 俊一
	JCG_02	駿潮	林主 弘道
	JCG_03	海底地殻変動観測	石川 直史
	JCG_04	海域火山観測	森原 琢磨
(独)奈良文化財研究所	NAB_01	考古・文献資料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析	村田 泰輔
(地独)北海道立総合研究機構	HRO_01	北海道内の活火山の地球物理学的・地球化学的モニタリング	高橋 良健二
山梨県富士山科学研	HRO_02	津波による最大リスク評価手法の開発と防災対策の実証的展開	仁科 健二
	MFRI01	富士山の事象系統樹を精緻化するための噴火履歴の研究	吉本 充宏
	MFRI02	火山モニタリングと地下水流動把握のための多点連続重力観測	本多 亮

19.「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」の個別課題一覧(建議項目順)

建議項目区分	研究課題	研究課題名	担当者名
1-(1)-ア	ERI 01	歴史地震史料を活用した地震学的解析	加納 靖之
	IRID01	東北地方における地震・津波・火山情報に関する歴史資料の所在調査とデータ収集	蝦名 裕一
	NGT 01	日本海沿岸地域を中心とした地震・火山現象の解明のための史料収集と解析	片桐 昭彦
	NGY 01	古文書解説による南海トラフ巨大地震像の解明 ～歴史地震情報の可視化システムの構築とその活用～	山中 佳子
	UTH 01	地震火山関連史料の収集・分析とデータベースの構築・公開	榎原 雅治
1-(1)-イ	NAB 01	考古・文献資料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学	村田 泰輔
1-(1)-ウ	AIST01	活断層データベースの整備	吾妻 崇
	AIST02	主要活断層帯から生じる運動型地震の古地震学的研究	近藤 久雄
	AIST03	地質調査に基づく火山活動履歴の解明と年代測定手法の高度化	古川 竜太
	AIST04	津波浸水履歴情報の整備	宋倉 正展
	ERI 02	マグマ溜まりの時間発展と噴火様式との関連性	安田 敦
	HKD 01	津波堆積物情報の高度化と実践的活用に関する研究	西村 裕一
	TYM 01	極小規模噴火を含めた草津白根火山の噴火履歴の解明と噴火ポテンシャル評価	石崎 泰男
	UTS 01	沿岸巨礫を用いた草津評価法の検討: 南海トラフ～琉球海溝の運動可能性評価に向けて	後藤 和久
	ERI 03	大規模噴火に伴う諸現象とそれを駆動するマグマ溜りー火道システムの解明	前野 深
	HKD 02	大規模噴火に関わるマグマプロセスの時間スケールの解明	栗谷 豪
1-(2)	HMEV01	地震火山関連史料に基づく低頻度大規模地震火山災害の調査	大島 潤三
	UTS 02	巨大地震に伴う粘弾性余効変動の解明	田中 愛幸
1-(3)-ア	ERI 04	非線形動力・計算材料科学との学際連携に基づく地震現象の多様性の統一的理解	亀 伸樹
	ERI 05	千島海溝・日本海溝における複合海底地震測地観測によるプレート境界の挙動解明とそのモデ	篠原 雅尚
	THK 01	国際共同研究によるニュージーランドにおける地震発生機構の解明	岡田 知己
	UTS 03	地震発生場のテクトニクスとマルチスケール地震現象の予測可能性	井出 哲
1-(3)-イ	AIST05	地質調査と実験に基づく、断層の力学挙動についての三次元モデルの構築	重松 紀生
	ERI 06	より現実的な断層面ダイナミクス	中谷 正生
	RTM 01	南アフリカ大深度金鉱山からの地震発生場における応力と物質の直接調査	小笠原 宏
	THK 02	流体の寄与に注目した地震断層すべり物理モデルの高度化	松澤 暢
1-(4)-ア	ERI 07	多項目観測データの比較研究に基づく噴火過程の理解とモデル構築	大湊 隆雄
	NIED01*	多角的火山活動評価に関する研究	藤田 英輔
	THK 03	噴火発生時刻の即時把握と噴火ダイナミクスの研究	西村 太志
	TIT 01	海城火山活動に伴う熱水活動の実験的研究と観測研究	野上 健治
	TIT 02	小型拡散放出二酸化炭素率測定装置の開発	野上 健治
	TYM 02	富山県弥陀ヶ原火山における地球物理学的観測による火山活動モニタリング	堀田 耕平
	AIST06	火山性流体観測に基づく噴火発生過程および火山活動推移の解明	森田 雅明
1-(4)-イ	HKD 03	マグマ脱ガス実験と火山噴出物の揮発性成分解析に基づく噴火分岐メカニズムの解明	吉村 俊平
	NIED01*	多角的火山活動評価に関する研究	藤田 英輔
	THK 04	浅部貫入マグマの結晶化速度と噴火挙動の推定手法の開発	中村 美千彦
	AIST07*	高分解能地殻応力場の解明と造構造場の研究	今西 和俊
1-(5)-ア	AORIO1	巨大津波を引き起こす震源断層の実態解明と流体変動モニタリング	朴 進午
	DPRI01	津波生成過程の理解に向けた浅部スロー地震の活動様式・発生場の解明とモデル化	伊藤 喜宏
	DPRI02	南海トラフ巨大地震の予測高度化を目指したフィリピン海スラブ周辺域での総合的観測研究	滋谷 拓郎
	ERI 08	日本・NZ国際協力によるヒクラギ沈み込み帯における多様な地震活動と、その発生環境との関係の解明	望月 公廣
	IRID02	GPS-A観測による効率的な上下変動検出技術の開発と根室沖観測への適用	木戸 元之
	JAMS02*	海底広域変動観測研究	石原 靖
	KGSM01	南西諸島北部域におけるプレート間すべりの特性に関する地震・地殻変動観測研究	八木原 寛
	THK 05	世界各地の大地震発生域との比較研究に基づく地震・火山現象の理解	趙 大鵬
	THK 06	スラブ内地震の発生メカニズムに関する研究	東 龍介
	AIST07*	高分解能地殻応力場の解明と造構造場の研究	今西 和俊
1-(5)-イ	DPRI03	内陸地震の発生機構と発生場の解明とモデル化	飯尾 能久
	ERI 09	内陸地震発生ポテンシャルの予測を目指した島弧の地殻応答と断層における地殻内流体の影響	飯高 隆
	ERI 10	東日本における長期的重力変化の観測とモデリング	今西 祐二
	GSI 01	内陸の地殻活動の発生・準備過程の解明	宗包 浩志
	HRS 01	東北日本弧・千島弧会合部とその周辺における地震発生場の解明	前田 拓人
	THK 07	地殻応答による断層への応力転荷過程と断層間相互作用の解明と予測	岡田 知己
	UTS 04	地殻流体の化学的観測による地震火山活動評価システムの高度化と応用	角森 史昭
	AORI02	地球物理・化学的探査による海底火山および海底熱水活動の調査	小畑 元
	JAMS03	海底火山観測研究	小野 重明
	KOBE01	境界海底カルデラにおけるマグマ供給系の構造・進化の解明	島 伸和
1-(5)-ウ	THK 08	集中地震観測による火山体構造・火山現象発生場の解明	山本 希
	TIT 03	水蒸気噴火の準備過程を捉えるための火山熱水系構造モデルの精緻化	寺田 暁彦
	KYU 01	地震火山相互作用下の内陸地震空間ポテンシャル評価	相澤 広記
1-(5)-オ	AIST07*	高分解能地殻応力場の解明と造構造場の研究	今西 和俊
	DPRI04	日本列島の地震・火山噴火の基本場解明: 地殻とマントルにおける応力、流体・マグマ、温度・流動・変形場	深畑 幸俊
2-(1)-ア	AIST08	海溝型巨大地震の履歴とメカニズム解明	宋倉 正展
	HMEV02	地震関連史料に基づく近代以前の地震活動の調査	榎原 雅治
	NGY 02	南西諸島海溝におけるプレート間固着状態の解明	田所 敬一
	NIED02*	地震・津波予測技術の戦略的・高度化研究	汐見 勝彦
2-(1)-イ	NIED03	巨大地震による潜在的ハザードの把握に関する研究	齊藤 竜彦
	DPRI05	測地観測データに基づく内陸地震長期評価手法の開発	西村 卓也
	ERI 11	地震発生予測のための島弧・海溝システムの観測・モデリング統合研究	篠原 雅尚
	NGY 03	変動地形学的手法による内陸地震発生モデルと活断層長期評価手法の再検討	鈴木 康弘
	NIED02*	地震・津波予測技術の戦略的・高度化研究	汐見 勝彦
	UTS 05	物理モデルと地形・地質学およびテクトニックな観測データを統合した地震発生長期予測手法の開発と検証	安藤 亮輔
	AIST09	地下水・地殻変動観測による地震予測精度の向上	松本 則夫
2-(2)-ア	ERI 12	スロー地震モニタリングに基づく南海トラフ域の地震発生可能性評価手法に関する研究	松下 英司
	GSI 02	プレート境界面上の滑りと固着の時空間変化の広域的な把握	宗包 浩志
	JAMS01	地震発生帯モデリング研究	堀 高峰
	JMA 01	地震活動・地殻変動監視の高度化に関する研究	小林 昭夫
	KUS 01	地殻活動データの同化による沈み込みプレート境界面すべり予測に関する研究	宮崎 真一
	NGY 04	南海トラフ域におけるプレート間固着・滑りの時空間変化の把握	田所 敬一
	THK 09	繰り返し地震再来特性の理解に基づく地殻活動モニタリング	内田 直希
	CBA 01	電磁気学的な地震先行現象の総合的研究	服部 克巳
	ERI 13	経験的アプローチによる大地震の確率予測のパフォーマンス調査	中谷 正生
	RTM 02	地震に先行する極微小な前震活動の異常度評価と発生環境の評価	川方 裕則

建議項目区分	研究課題	研究課題名	担当者名
	THK_10	地殻変動に伴う大気中ラドン濃度変動	長濱 裕幸
2-(4)-ア	MFR101	富士山の事象系統樹を精緻化するための噴火履歴の研究	吉本 充宏
2-(4)-イ	AIST10	噴出物の物質科学的解析に基づくマグマ供給系-火道システム発達と噴火推移過程のモデル化	下司 信夫
	GSI_03	火山地域のマグマ供給系のモデリング	宗包 浩志
	HKD_04	電磁気・熱・ガス観測に基づく火山活動推移モデルの構築	橋本 武志
	HRO_01	北海道内の活火山の地球物理学的・地球化学的モニタリング	高橋 良
	JMA_02	地殻変動観測等に基づく火山活動評価の高度化に関する研究	鬼澤 真也
	JMA_03	火山活動に伴う地殻変動の把握及び評価	菅井 明
	JMA_04	地球電磁気学的手法による火山活動評価の高度化	瀧沢 倫明
	JMA_05	化学的手法に基づく火山活動監視・予測に関する研究	高木 朗充
	KUS_02	地震・地殻変動モニタリングによる中期的な火山活動の評価	太倉 敬宏
	UTS_06	遠隔地火山、特に離島火山における火山ガスモニタリングの高度化	森 俊哉
2-(5)	DPRI06	インドネシアの活動的火山における火山活動推移モデルの構築	井口 正人
	DPRI07	桜島火山における火山活動推移モデルの構築による火山噴火予測のための総合的観測研究	中道 治久
	THK_11	多項目観測データに基づく火山活動のモデル化と活動分岐判断指標の作成	西村 太志
3-(1)-ア	DPRI08	広帯域強震動予測の高度化に関する研究	関口 春子
	DPRI09	断層破壊過程と極大強震動生成に関する研究	岩田 知孝
	ERI_14	大規模数値シミュレーションに基づく広帯域強震動災害の事前・即時予測	古村 孝志
	ERI_15	首都圏の地震被害分布と地震像の解明	酒井 慎一
	NGY_05	地表地震断層の特性を重視した断層近傍の強震動ハザード評価	鈴木 康弘
3-(1)-イ	HKD_05	巨大地震に伴う海底斜面崩壊による津波の事前評価・即時予測に関する研究	谷岡 勇市郎
3-(1)-ウ	ERI_16	堆積平野・堆積盆地における地震災害発生機構の解明	三宅 弘恵
	HRO_02	津波による最大リスク評価手法の開発と防災対策の実証的展開	仁科 健二
	TTR_01	地方自治体の地震被害想定・災害リスク評価を高度化するための基盤整備	香川 敬生
3-(1)-エ	DPRI10	火山地域を含む地震地すべり発生場の評価と斜面における強震動及び不安定化の事前予測手法の展開	釜井 俊孝
	IRID03	地表設置型合成開口レーダ(GB-SAR)による地表面変位計測の高精度化	佐藤 源之
3-(1)-オ	DPRI11	火砕流の発生と流下予測	為栗 健
3-(2)-ア	JMA_06*	地震動・津波即時予測の高度化に関する研究	鎌谷 紀子
3-(2)-イ	HRS_02	データ同化に基づく津波現況把握と即時予測の高度化	前田 拓人
	JMA_06*	地震動・津波即時予測の高度化に関する研究	鎌谷 紀子
	THK_12	海陸測地データを活用したプレート境界面すべり即時把握能力の向上とそれにもとづく津波即時推定手法の高度化	太田 雄策
3-(2)-ウ	DPRI12	噴火後の土石流および泥流の発生に関する観測と予測手法の開発	藤田 正治
	ERI_17	堆積物に基づく噴火物理化学パラメータ推定手法の高度化と事象分岐判断への活用	前野 深
	JMA_07	火山噴出物の監視技術とデータ同化に基づく輸送予測に関する研究	新堀 敏基
3-(3)	HKD_06	火山活動即時解析表示システムの開発	橋本 武志
	III_01	ニーズ・アセスメントに基づく地震・火山災害に関する発生確率、被害想定、災害情報のコミュニケーション戦略の開発	関谷 直也
	IRID04	地震の事前情報を起点とするハザード事象系統樹の開発	福島 洋
4-(1)	NGY_06	被害の地域的な発現過程とコミュニティの社会・空間構造に着目した地震・津波災害発生機構に関する文理融合的研究	室井 研二
	NIED04*	自然災害ハザード・リスク評価と情報の利活用に関する研究	藤原 広行
	UTH_02	近代以前の地震・火山災害に関する多角的研究	杉森 玲子
4-(2)	DPRI13	桜島火山における地域との連携による火山災害に関する社会の共通理解醸成のための研究	中道 治久
	DPRI14	災害リテラシーの育成のためのオープンサイエンス手法の検討	矢守 亮也
	HKD_07	地理空間情報の総合的活用による災害への社会的脆弱性克服に関する人間科学的研究	橋本 雄一
	HYG_01	地震・火山観測データを活用した減災・復興モデルの構築とリスクコミュニケーションに資する事	阪本 真由美
	HYG_02	地震観測研究の成果を活用した土地利用に係る事例収集に基づく枠組みの提案	澤田 雅浩
	IRID05	歴史地形の復元・可視化手法の確立と災害発生要因の分析	観名 裕一
	IRID06	災害に関わる個人の心理・行動特性とその評価・活用・調整に関わる研究	杉浦 元亮
	KUS_03	阿蘇で学ぶ地震・火山災害への備え	太倉 敬宏
	NGT_02	地震・火山噴火災害における被害軽減のために利活用可能な要素・知識体系の整理・検証	田村 圭子
	NGY_07	御嶽山地域の防災力向上の総合的推進に関する研究	山岡 耕春
	NIED04*	自然災害ハザード・リスク評価と情報の利活用に関する研究	藤原 広行
	TYM_03	地震学・火山学の知見に基づくコンパクトシティをデザインする情報科学からの被災生活シミュ	井ノ口 宗成
5-(1)	JMA_08	火山活動の総合判断	中村 政道
5-(2)	HKD_09	千島海溝沿いの巨大地震津波災害軽減に向けた総合研究	高橋 浩晃
5-(3)-ア	AIST11*	アジア太平洋地域地震・火山ハザード情報整備	宝田 晋治
	ERI_18	観測研究データへの永続的識別子付与	加納 靖之
	ERI_19	データ流通網の高度化	鶴岡 弘
	GSI_04	GNSS連続観測(GEONET)	宗包 浩志
	GSI_05	地形地殻変動観測	宗包 浩志
	GSI_06	物理測地観測	宗包 浩志
	GSI_07	宇宙測地技術による地殻変動監視	宗包 浩志
	JCG_01	海洋測地の推進	渡邊 俊一
	JCG_02	観潮	林王 弘道
	JMA_09	地震観測、地殻変動観測	宮岡 一樹
	JMA_10	潮位観測	鈴木 博樹
	JMA_11	地磁気精密観測	仰木 淳平
	JMA_12	全国における火山観測の強化	大賀 昌一
	MFR102*	火山モニタリングと地下水流動把握のための多点連続重力観測	本多 亮
	NICT01*	先端リモートセンシングによる地震及び火山の被害状況把握技術の高度化	川村 誠治
	NIED05*	基盤的観測網の運用	青井 真
5-(3)-イ	AIST11*	アジア太平洋地域地震・火山ハザード情報整備	宝田 晋治
	ERI_20	光技術を用いた地下深部・火山近傍における地震・地殻変動計測技術の確立	新谷 昌人
	ERI_21	高精細ミュオグラフィ画像自動診断による火山活動状況の推移との相関評価	田中 宏幸
	ERI_22	海底ケーブルを用いる地震・地殻変動・津波リアルタイム観測技術開発	篠原 雅尚
	ERI_23	海底での地震・地殻変動観測に向けた機動的観測技術の高度化	堀原 肇
	GSI_08	GNSS観測・解析技術の高度化	宗包 浩志
	JAMS02*	海底広域変動観測研究	石原 靖
	JCG_03	海底地殻変動観測	石川 直史
	KOC_01	地震動観測点観測環境の時間変化把握に向けた、解析手法の検討・開発	大久保 慎人
	MFR102*	火山モニタリングと地下水流動把握のための多点連続重力観測	本多 亮
	NGY_08	小電力・小型・携帯テレメータ地震観測装置の改良開発	山中 佳子
	NICT01*	先端リモートセンシングによる地震及び火山の被害状況把握技術の高度化	川村 誠治
	THK_13	地震・火山データの無線伝送技術の開発	内田 直希
5-(3)-ウ	AIST11*	アジア太平洋地域地震・火山ハザード情報整備	宝田 晋治

建議項目区分	研究課題	研究課題名	担当者名
	ERI 24	マルチプラットフォーム次世代WINシステムの開発	中川 茂樹
	HKD 08	地殻変動等多項目データの全国流通一元化公開解析システムの高度化	高橋 浩晃
	KOC 02	地震波形データ流通のための、新WIN伝送プロトコルの検討・開発	大久保 慎人
	MFRI02*	火山モニタリングと地下水流動把握のための多点連続重力観測	本多 亮
	NICT01*	先端リモートセンシングによる地震及び火山の被害状況把握技術の高度化	川村 誠治
	NIED05*	基盤的観測網の運用	青井 真
5-(3)-エ	AIST11*	アジア太平洋地域地震・火山ハザード情報整備	宝田 晋治
	ERI 25	研究成果共有データベースの構築	鶴岡 弘
	GSI 09	全国活断層帯情報整備	宗包 浩志
	GSI 10	火山基本図・火山土地条件図整備	宗包 浩志
	GSI 11	地殻活動データベース整備・更新	宗包 浩志
	JCG 04	海域火山観測	藤原 琢磨
	JMA 13	地磁気観測成果のデータベース化	有田 真
	JMA 14	全国地震カタログの作成	森脇 健
	JMA 15	火山現象に関する基礎データの蓄積と活用	山本 哲也
	NICT01*	先端リモートセンシングによる地震及び火山の被害状況把握技術の高度化	川村 誠治
	MFRI02*	火山モニタリングと地下水流動把握のための多点連続重力観測	本多 亮
5-(6)	JMA 16	地震・津波・火山防災情報の改善に係る知見・成果の共有	福満 修一郎
	JMA 17	防災・減災に関する知識の普及啓発	福満 修一郎

*複数の項目に関連する研究課題

**20. 東京大学地震研究所(共同利用・共同研究拠点)の
地震・火山噴火の解明と予測に関する公募研究実施課題一覧**

年度	研究課題名	研究代表者	共同研究者数
平成28	北海道太平洋岸の潟湖周辺の多点掘削に基づく巨大津波による砂州形成過程の理解	知北 和久 北大	2名
平成28	サンゴからなる津波石の骨格調査に基づく南西諸島周辺の津波履歴の解明	渡邊 剛 北大	1名
平成28 ～29	短波長不均質構造推定による地震動即時予測高度化へ向けた試験的研究	松本 聡 九大	3名
平成28	火山ガス観測による箱根山等の熱水系構造解明と群発地震発生予測	大場 武 東海大	2名
平成28 ～29	蔵王山、五色岳活動期のマグマ進化過程解明に関する研究	伴 雅雄 山形大	0名
平成28 ～29	高頻度爆発的噴火履歴の摩周火山におけるマグマ供給系と噴火過程	和田 恵治 北海道教育大	1名
平成28 ～30	富山県弥陀ヶ原火山・地獄谷内での高精度地形測量と水準測量による地盤変動と表中温度の計測モニタリング	楠本 成寿 富山大	5名
平成28 ～30	草津白根火山の完新世噴火履歴の解明	石崎 泰男 富山大	3名
平成28	公的研究機関以外が所有する計測データを用いた地下水の地震先行現象調査	織原 義明 東京学芸大	3名
平成28	臨界現象の物理を背景としたナチュラタイム概念による地震活動度解析	上田 誠也 東大地震研	2名
平成28 ～30	地震先行VLF帯電磁波強度減少の統計的評価と発生メカニズムの解明	鴨川 仁 東京学芸大	6名
平成28	旧気仙郡地域における歴史地震・津波に関する災害史料の収集とデータベース化	蝦名 裕一 東北大災害科学	0名
平成28	古地震のウェブを目指して～GIS機能をもったポータルサイトの構築	林 晋 京大	3名
平成28	史料を用いた、雲仙寛政噴火と眉山崩壊の推移の解明	津久井 雅志 千葉大	0名
平成28	包括的なハザード情報を活用した個人の避難計画策定支援データベース	井ノ口 宗成 静岡大	2名
平成29	古地震のウェブを目指して～GIS機能をもったポータルサイトと翻刻アプリの融合	林 晋 京大	3名
平成29	南アフリカ大深度金鉱山における100m級断層の強度直接測定	伊藤 高敏 東北大	3名
平成29 ～30	地球化学的観測手法を用いた箱根山等における熱水系の構造解明、地震活動評価、および火山ガスの化学的連続観測技術の高度化	大場 武 東海大	9名
平成29 ～30	宏観異常現象の検証—漁獲量と地震との関係を中心に—	織原 義明 東京学芸大	0名
平成29 ～30	多種の地震活動度解析による大地震先行的地震活動変動の検知	上田 誠也 東大地震研	4名
平成29	明治前期における自治体からの地震・津波報告の研究—帝国大学理科大学の調査から—	蝦名 裕一 東北大災害科学	1名
平成30	南アフリカ大深度金鉱山における M5.5 地震震源域の応力場直接測定	伊藤 高敏 東北大	3名
平成30	白山火山の最近5000年間の噴火履歴解明	川崎 一雄 富山大	2名

平成30	北海道中央部、大雪火山、御鉢平カルデラ噴火を対象とした噴火推移とマグマ供給系の変遷の解明	佐藤 鋭一 神戸大	1名
平成30	後屈斜路カルデラ期の摩周火山及び中島火山の噴火履歴とマグマ供給系	和田 恵治 北海道教育大	2名
平成30	北海道摩周における火山活動の化学的調査	鹿児島 渉悟 東大大気海洋研究所	2名
平成30	火山性湖沼における地下熱水流動系の解明：噴火予測への新たな指標	知北 和久 北大	3名
平成30	蔵王山、御釜を火口とする活動の噴火推移の解明	伴 雅雄 山形大	0名
平成30	地震先行VLF帯電磁波強度減少研究のための超小型衛星のブレッドボードモデルの開発	児玉 哲哉 宇宙航空研究開発機構	2名
平成30	「地震学及地理学研究材料報告」に基づく歴史津波の痕跡調査	蝦名 裕一 東北大災害科学	1名
平成30	歴史災害研究のオープンサイエンス化に向けた検討	橋本 雄太 国立歴史民俗博物館	4名
平成30	史料中の有感地震記録を用いた歴史地震研究の新展開	石辺 岳男 地震予知総合研究振興会	5名
平成31	南アフリカ大深度金鉱山直下で発生したM5.5地震震源域の力学的・物質科学的解明	伊藤 高敏 東北大	7名
平成31 ～令和2	地震先行VLF帯電磁波強度減少研究のための超小型衛星のブレッドボードモデル及びエンジニアリングモデルの製作	児玉 哲哉 宇宙航空研究開発機構	5名
平成31 ～令和2	行政等が所有する宏観異常現象に関わるデータを用いた地震発生の確率予測	織原 義明 東海大	0名
平成31 ～令和3	地震先行VLF帯電磁波強度減少の発生メカニズムの解明	鴨川 仁 静岡県立大	4名
平成31	古地磁気方位を利用した火山層序の高精度化	望月 伸竜 熊本大	2名
平成31 ～令和2	カルデラ・リサージェンスモデルに基づく北海道屈斜路カルデラの大規模噴火予測	後藤 芳彦 室蘭工業大	0名
平成31	玄武岩質およびデイサイト質マグマの噴火準備過程の高精度解明	佐藤 鋭一 大阪府立大	3名
平成31	北海道摩周火山の噴火履歴とマグマ供給系の変遷	和田 恵治 北海道教育大	2名
平成31	マグマ起源物質の地球化学的モニタリングによる火山性流体挙動解明および火山活動評価	大場 武 東海大	8名
平成31 ～令和3	火山ガス観測による焼岳火山の活動評価とガス輸送システムの解明	齋藤 武士 信州大	2名
平成31 ～令和3	北海道摩周周辺における火山熱水活動の地球化学的調査	鹿児島 渉悟 東大大気海洋研究所	1名
平成31	八幡平火山～秋田・駒ヶ岳の熱水流動系が周辺水域に与える影響評価：広域的火山活動と田沢湖関連水域との関係	知北 和久 北大	2名
平成31 ～令和3	蔵王山、過去約800年間の活動の噴火推移の類型化	伴 雅雄 山形大	0名

平成31	2018年1月の草津白根火山の噴火における緊急時の災害情報伝達に関する研究	地引 泰人 東北大	0名
平成31	歴史災害研究のオープンサイエンス化に向けた検討	橋本 雄太 国立歴史民俗博物館	3名
平成31 ～令和3	有感地震記述ならびに震度の距離減衰式に基づく地震活動解析	石辺 岳男 地震予知総合研究振興会	7名
令和2 ～3	富士山頂における全磁力通年観測	長尾 年恭(令和2) 佐柳 敬造(令和3) 東海大	2名
令和2 ～3	水蒸気噴火が懸念される火山におけるマグマ起源流体の挙動解明と火山活動評価	大場 武 東海大	11名
令和2	みんなで拓本ー地震・津波・火山噴火伝承碑のデジタル収集と解説	上相 英之 国文学研究資料館	2名
令和2	火山活動推移に対応したマグマ供給系の変遷モデルの構築	佐藤 鋭一 大阪府立大	1名
令和3	東京海洋大学練習船での海底地殻変動観測	中東 和夫 東京海洋大	5名
令和3	海底電磁気観測による伊豆大島火山マグマ供給系の解明	多田 訓子 海洋研究開発機構	4名
令和3	石基組織から読み解く北海道摩周火山の噴火推移過程	佐野 恭平 兵庫県立大	1名
令和3	活火山火口湖の水・熱・化学物質収支の長期評価と火山活動変動との関係について:蔵王山と御釜	知北 和久 北大	2名
令和3	阿蘇中岳火山灰の岩石磁氣的性質の時系列変化に関する研究	望月 伸竜 熊本大	1名
令和3	有珠山を事例とした住民自治組織の火山防災の基礎情報収集調査ー火山防災制度及び火山活動推移の理解度の解明ー	地引 泰人 東北大	0名
令和3	GNSS-A海底測地観測データの高精度化に向けた精度評価システムの構築	横田 裕輔 東大生産技術研究所	0名
令和3	地震先行VLF帯電磁波強度減少研究のための超小型衛星のエンジニアリングモデル及びフライトモデルの製作	児玉 哲哉 宇宙航空研究開発機構	7名
令和3	古地磁気学を用いた火山活動推移の検討とマグマ供給系の変遷モデルの構築	佐藤 鋭一 大阪府立大	2名

20. 東京大学地震研究所(共同利用・共同研究拠点)の予知公募研究リスト

年度	研究課題名	研究代表者	共同研究者数
平成21	地震火山現象に関する統合データベースの構築	大見士朗 京大防災研	3名
平成21 ～23	3次元比抵抗構造解析による東北日本前弧ひずみ集中帯の地殻内流体の不均質分布の解明	小川康雄 東工大火山流体	4名
平成21 ～23	岩木山の噴火履歴とマグマ発達過程の解明に関する研究	伴 雅雄 山形大理	3名
平成21 ～23	衛星による地震関連電離圏擾乱の検証とメカニズムの解明	鴨川 仁 学芸大物理	2名
平成21 ～23	花崗岩のトランジェントな載荷・除荷にともなって生成される電場・磁場の観測	加納靖之 京大防災研	2名
平成21 ～23	活動火口に形成された強酸性火口湖における水温モニタリングシステムの開発(3)	寺田暁彦 東工大火山流体	3名
平成21 ～23	地震発生先行過程に伴うラドン放出・電磁放射と地殻変形	長濱裕幸 東北大	4名
平成21 ～23	透過弾性波を用いた岩石の破壊過程のイメージング	川方裕則 立命館	2名
平成21 ～23	マイクロアスペリティーでの力学現象の解明	増田俊明 静岡大理	2名
平成21 ～23	雌阿寒岳過去1000年間の噴火履歴と噴火推移予測	和田恵治 北海道教育大	3名
平成22	地震に関連する大気擾乱の検証と発生メカニズムの検討	山本 勲 岡山理科大	3名
平成22 ～23	火山水蒸気爆発機構解明の新展開	植木貞人 東北地震火山	2名
平成22 ～23	臨界現象の概念に基づいた大地震前における臨界点の検知	上田誠也 地震研(名誉)	2名
平成23	活動的火山における火口近傍観測用自走式センサー「ほむら」の開発	金子克哉 京大人間環境	3名

21. 東京大学地震研究所・京都大学防災研究所拠点間連携共同研究実施課題一覧

課題募集型研究(平成28-30)

年度	研究課題名	研究代表者	担当教員
平成28	17世紀以降に形成された歴史津波堆積物の放射性炭素年代推定法の高度化	後藤 和久 東北大災害科学	佐竹 健治 森 信人
平成28-29	緊急地震速報を利用した建物地震災害誘因のリアルタイム予測	倉田 真宏 京大防災研	楠 浩一 倉田 真宏
平成28	東北地方太平洋沿岸の歴史地形の復元・可視化に基づく歴史災害研究	蝦名 裕一 東北大災害科学	西山 昭仁 加納 靖之
平成28-29	巨大災害想定のコミュニケーション戦略に関する研究	田中 淳 東大情報学環	古村 孝志 牧 紀男
平成28	地震及び津波による建物倒壊に伴う人的被害の発生機構解明並びに評価手法の提案	岡田 成幸 北大工学研究院	飯高 隆 川瀬 博
平成28	地震波動伝播シミュレーションのための基盤的コミュニティ・コードの開発	前田 拓人 東大地震研	前田 拓人 土井 一生
平成28-29	詳細地盤構造と活動セグメントの新たな解釈に基づく歴史被害地震の断層モデル構築に関する研究	松島 信一 京大防災研	市村 強 松島 信一
平成28	ダム湖に隣接する地すべり土塊の南海トラフ巨大地震に対する危険度評価と斜面の不安定土塊の位置検出法の開発・高度化	齊藤 隆志 京大防災研	佐藤 比呂志 齊藤 隆志
平成28-29	実践的人材育成のための防災担当者研修プログラムに関する研究	吉本 充宏 富士山科学研究所	中田 節也 井口 正人
平成28-29	長周期地震動予測のための深部地盤構造モデル化手法の高度化に関する共同研究	山中 浩明 東工大	瀬戸 一起 川瀬 博 松島 信一
平成28	東日本大震災の実経験からの学びを活かした人材育成プログラムの開発と実践	佐藤 健 東北大災害科学	平田 直 矢守 克也
平成29	津波堆積物の広域年代対比に基づく北海道における17世紀の津波波源の高精度推定	後藤 和久 東北大災害科学	佐竹 健治 森 信人
平成29	被災者の心の復興 ～精神的苦痛の計量及びその時間推移モデルの構築～	岡田 成幸 北大	牧 紀男 瀬戸 一起
平成29-30	地震時の斜面災害軽減を目的とした地震波動伝播シミュレーションの利活用	土井 一生 京大防災研	土井 一生 前田 拓人
平成29	擬似雑音弾性波を用いた火山地下構造のリアルタイム観測方式の研究 Research on Real Time Observation System of Volcanic Underground Structure Using Pseudonoise Elastic Wave	棚田 嘉博 京大防災研	山本 圭吾 中道 治久 井口 正人 森田 裕一
平成29	南海トラフ巨大地震に対する山地斜面の崩壊危険度予測の高度化と減災のためのハザードマップ作成	齊藤 隆志 京大防災研	齊藤 隆志 佐藤 比呂志
平成29	歴史資料に基づく海岸・河川地形の復元による災害研究手法の構築	蝦名 裕一 東北大災害科学	加納 靖之 西山 昭仁
平成30	歴史地震評価のための振動計測と引き倒し実験による伝統木造建造物の耐震性能評価	川瀬 博 京大防災研	川瀬 博 市村 強
平成30	歴史被害地震の活動セグメントの推定とそれを考慮した強震動・建物被害シミュレーションに基づく震源破壊過程の推定に関する研究	松島 信一 京大防災研	松島 信一 市村 強
平成30	強震動評価のための浅部地盤と深部地盤の統合モデル化に関する研究	山中 浩明 東工大	川瀬 博 松島 信一 瀬戸 一起
平成30	地震による被災から回復までの個人世帯生活被災度時間関数の構築	岡田 成幸 北大	牧 紀男 瀬戸 一起
平成30	地震随伴火災の経時的な発生予測モデルの開発と出火防止対策の有効性評価	西野 智研 京大防災研	西野 智研 市村 強
平成30	建物個別の応答予測と揺れ継続時間のリアルタイム情報配信	倉田 真宏 京大防災研	倉田 真宏 楠 浩一

一般課題型研究(平成31-令和3)

年度	研究課題名	研究代表者	担当教員
平成31- 令和2	不均質な断層すべり分布を考慮した津波の確率論的予測と不確実性の評価	佐竹 健治 東大地震研	森 信人 佐竹 健治
平成31- 令和2	強震観測点におけるサイト特性評価手法の開発に関する多国間共同研究 Multi-national joint-research on the development of the evaluation scheme for site characteristics at strong motion observation sites	川瀬 博 京大防災研	川瀬 博 市村 強
平成31	テフラの成層構造の発達と風化に伴う物性変化を考慮した斜面崩壊発生場の予測	松四 雄騎 京大防災研	松四 雄騎 王 功輝 土井 一生 加納 靖之
平成31- 令和2	強震動のブラインド予測のための共用地盤モデルの構築に関する研究	山中 浩明 東工大	松島 信一 岩田 知孝 浅野 公之 川瀬 博 瀬瀬 一起
平成31- 令和2	火山砕屑物からなる斜面の崩壊に対する地震とその前後の降雨の影響評価	渦岡 良介 京大防災研	渦岡 良介 市村 強
平成31- 令和2	活断層における地殻変動に伴う盆地形成過程から推定される盆地端部での基盤構造を考慮した地震動増幅特性に関する研究	松島 信一 京大防災研	松島 信一 市村 強
平成31- 令和2	建物の応答を考慮した高精度地震情報配信手法の開発	倉田 真宏 京大防災研	倉田 真宏 池田 芳樹 鶴岡 弘 楠 浩一
平成31	地震発生時の切迫性を伝える災害情報モデル構築 ～北海道胆振東部地震の主要被災3町(厚真・むかわ・安平)における人的被害に関する全世帯調査を通して～	岡田 成幸 北大	松島 信一 瀬瀬 一起
平成31	訪日外国人旅行者に対する地震・火山に関する情報提供と風評被害対策に関する事例分析 ー2018年胆振東部地震、2018年大阪府北部地震、2018年草津白根噴火、2015年箱根山噴火を対象としてー	秦 康範 山梨大	牧 紀男 三宅 弘恵
平成31	災害に備えた文化財等データベースの作成と防災マップの構築	蝦名 裕一 東北大災害科学	山田 真澄 加納 靖之
令和2	テフラ堆積域における地震動に伴う斜面崩壊の発生場と規模の予測	松四 雄騎 京大防災研	加納 靖之 王 功輝 松四 雄騎
令和2	桜島大規模火山噴火を対象とした事前避難を実現するためのリスクコミュニケーション方法に関する実践的研究	大西 正光 京大防災研	井口 正人 矢守 克也 竹之内 健介 中野 元太 前野 深
令和2	地震発生時の切迫性を伝える災害情報モデルとシナリオの構築 ～北海道胆振東部地震からみえた新たな課題としての複合連鎖問題の解釈を通して～	岡田 成幸 北大広域複合災害 研究センター	松島 信一 瀬瀬 一起
令和2	地震シナリオの不確実性を考慮した津波被害の確率論的評価	浅井 光輝 九大	市村 強 渦岡 良介
令和2	文化財等の所在情報と災害情報の重ね合わせによる文化財等災害予測マップの構築と活用	蝦名 裕一 東北大災害科学	加納 靖之 土井 一生
令和3	津波被害予測における震源モデルの不確実性の評価	宮下 卓也 京大防災研	佐竹 健治 古村 孝志 綿田 辰吾 佐藤 哲郎 宮下 卓也 森 信人 志村 智也

令和3	リアルタイム地震情報配信手法の高度化に向けた地盤特性の影響度評価	倉田 真宏 京大防災研	鶴岡 弘 楠 浩一 倉田 真宏 池田 芳樹 山田 真澄
令和3	強震動のブラインド予測結果に基づく強震動予測技術の精度と信頼性に関する研究	山中 浩明 東工大	松島信一 岩田知孝 浅野公之 川瀬博 三宅弘恵
令和3	地震により被害を受けた事業継続建築物の火災リスク評価手法の開発	西野 智研 京大防災研	西野 智研 楠 浩一
令和3	1m-LiDAR DEMを用いて検出された地すべりなどの不安定土塊の微動及び地震動観測による相対的危険度評価	齊藤 隆志 京大防災研	齊藤 隆志 佐藤 比呂志
令和3	邑知潟平野の推定地盤速度構造の非線形地盤応答を考慮した強震動予測	松島 信一 京大防災研	松島 信一 市村 強
令和3	既存存在来木造建物に大きな被害を引き起こす地震動の発生要因に関する研究	境 有紀 京大防災研	境 有紀 松島 信一 三宅 弘恵
令和3	文化遺産の所在情報と災害情報の重ね合わせによる文化遺産災害情報マップの構築と活用	蝦名 裕一 東北大災害科学	蝦名 裕一 加納 靖之 土井 一生
令和3	ばらつきを考慮したハザード想定結果の「受け取られ方」に関する評価研究	牧 紀男 京大防災研	牧 紀男 松島 信一 飯高 隆

参加者募集型研究(平成28-30)

年度	研究課題名	担当教員
平成28-30	巨大地震のリスク評価の精度向上に関する新パラダイムの構築	川瀬 博 森田 裕一
平成28	時間軸を考慮した災害リスク評価に関する研究	松島 信一 京大防災研
平成28	地震被害の経済評価のためのシミュレーション統合	堀 宗朗 東大地震研
平成28-29	巨大地震の災害リスク評価のための震源モデルの構築	古村 孝志 東大地震研
平成28-29	構造物の被害予測手法の高度化	川瀬 博 京大防災研
平成29-30	巨大地震時における地盤増幅率の予測手法の高精度化	上田 恭平 京大防災研
平成29-30	震源モデルに着目した巨大地震に伴う強震動予測の高度化	宮澤 理稔 京大防災研
平成30	ばらつきのある被害リスク評価をふまえた防災計画の検討	牧 紀男 京大防災研
平成30	将来時点でのエクスポージャー予測のためのデータ解析とモデル化手法の構築	西嶋 一欽 京大防災研

重点推進研究(平成31-令和3)

年度	研究課題名	担当教員
平成31、令和3	巨大地震のリスク評価の不確実性に関するパラダイム構築の推進	市村 強（平成31） 加藤尚之（令和3） 松島 信一
平成31-令和2	ばらつきのある被害リスク評価をふまえた防災計画の検討	牧 紀男 京大防災研
平成31-令和2	定常的地震活動の震源および地震波速度構造の精度向上による地震波動場推定の高度化	望月 公廣 東大地震研
令和2-3	巨大地震による斜面災害発生個所の事前予測方法の検討	齊藤 隆志 京大防災研
令和3	不確実性を考慮した浅部地盤の非線形応答評価手法の検討	上田 恭平 京大防災研
令和3	即時建物被害予測技術の高度化	楠 浩一 東大地震研

2.2. 国際共同研究一覧

日本側機関	相手側機関（相手国）	研究課題	協定・覚書名	実施年度
北海道大学	ロシア科学アカデミー極東支部火山学地震学研究所（ロシア） Institute of Volcanology and	アジア北東地域の地震・火山・ジオダイナミクス研究	政府間科学技術協力協定	平成8年～
北海道大学	ロシア科学アカデミー等（ロシア） Russian Academy of Sciences	日本国及びロシア連邦の隣接地域における地震、火山噴火及び津波の予測、警戒及び対処の分野の研究	政府間協力プログラム	平成19年～
北海道大学	ロシア科学アカデミー本部（ロシア） Russian Academy of Sciences	アジア北東地域の地震・火山・ジオダイナミクス研究	学術協力協定	平成19年～
北海道大学	科学アカデミー極東支部火山学地震学研究所等 Institute of Volcanology and	地球物理学的観測によるアジア北東地域のテクトニクスモデルの刷新	学術協力協定	平成25～29年
北海道大学	ロシア科学アカデミー極東支部火山学地震学研究所（ロシア） Institute of Volcanology and	アバチンスキー火山の都市型噴火災害軽減に向けた噴火様式予測の試み	JSPS二国間型交流事業共同研究	平成29～30年度
北海道大学	極東連邦大学（ロシア） Far Eastern Federal University	中国ロシア日本を統合するGNSS観測ネットワークで見る東アジア変動帯の全容	学術協力協定	令和元～4年度
北海道大学	ロシア科学アカデミー地球物理調査所カムチャツカ支部 Kamchatka Branch of Geophysical Survey	カムチャツカ海溝におけるスロー地震の探索	学術協力協定	令和2～5年度
北海道大学	中国地震局地震予測研究所（中国） Intitute of Earthquake Forecasting	中国ロシア日本を統合するGNSS観測ネットワークで見る東アジア変動帯の全容		令和元～4年度
北海道大学	ベルゲン大学（ノルウェー）、ポーランド科学アカデミー	ノルウェー・クニボビッチ海嶺における海底地下構造探索		令和元年
東北大学	米国地質調査所 U. S. Geological Survey	スラブ内地震に関する共同研究		平成15年～平成30年度
東北大学	カリフォルニア大学バークレー校（米国） University of California, Berkeley	プレート境界滑りの時空間変化に関する共同研究	大学間学術交流協定	平成23年～
東北大学	ビクトリア大学（カナダ） University of Victoria	東北地方太平洋沖地震に関する共同研究		平成24年～
東北大学	ヴィットヴァーターランド大学（南アフリカ共和国） University of the Witwatersrand	金鉱山における小地震の発生過程に関する共同研究	部局間学術交流協定	平成18年～
東北大学	地質・核科学研究所（ニュージーランド） Institute of Geological and Nuclear Sciences Limited	沈み込み帯における地震・火山テクトニクスに関する共同研究	部局間学術交流協定（協定締結は平成19年度）	平成17年～
東北大学	ドイツ航空宇宙センター	シミュレーション予測技術と地球観測技術の融合による広域被害把握技術の高度化に関する共同研	大学間学術交流協定	平成29年（更新）～
東北大学	マレーシア工科大学	災害科学・安全学分野における国際共同研究	大学間学術交流協定	令和2年～
東北大学災害科学国際研究所・東北大学大学院理学研究科	クレルモン・オーベルニュ大学（フランス）	災害科学およびその関連分野である火山学の推進	部局間学術交流協定	令和2年～
東北大学災害科学国際研究所・東北大学大学院理学研究科	ニュージーランド地質・核科学研究所	沈み込み帯における地震活動・火山活動の相互比較	部局間学術交流協定	平成26年～
東北大学災害科学国際研究所	シャクアラ大学数理学部	Evaluation of Post-disaster Recovery towards Enhancing Disaster ResiliencyObjectives	部局間学術交流協定	令和1年（更新）～
東北大学災害科学国際研究所	ペルー国立工科大学日本・ペルー地震防災セン	広域災害発生直後の早期の被災地の被害把握技術の高度化・実装	部局間学術交流協定	平成30年～
東京大学地震研究所	国立核物理研究所ナポリ研究所・INFN Section of Napoli（イタリア）	THE DEVELOPMENT OF THE MONTE CARLO MUON GENERATOR	COLLABORATION AGREEMENT	平成28年度
東京大学地震研究所	Seoul National University, Research Institute of Oceanography（韓国）	Agreement on scientific research cooperation	Agreement on scientific research cooperation	平成28年～令和3年度

日本側機関	相手側機関（相手国）	研究課題	協定・覚書名	実施年度
東京大学地震研究所	Institute of Earth Sciences, Academia Sinica（台湾）	Agreement on scientific research cooperation	Agreement on scientific research cooperation	平成30年～令和5年度
東京大学地震研究所	Taiwan Ocean Research Institute, National Applied Research Lab（台湾）	Agreement on scientific research cooperation	Agreement on scientific research cooperation	平成30年～令和5年度
東京大学地震研究所・海洋研究開発機構	コンセプション大学（DGE0/UdeC）（チリ）	East/central Pacific International campaign Cruise Leg2	Agreement	平成30年～令和2年度
東京大学地震研究所	German Research Centre for Geosciences（GFZ）（ドイツ）	New generation of earthquake forecasting experiments in Japan	Collaborative Research Agreement on Academic Cooperation	平成30年～令和元年度
東京大学地震研究所・日本電気株式会社	Wigner Research Center for Physics（ハンガリー）	Developments of MWPC-based muography	Collaborative Research Agreement	平成30年～令和3年度
東京大学地震研究所・日本電気株式会社・一般財団法人電力中央研究所	Wigner Research Center for Physics（ハンガリー）	Improvements of accuracy in muographic measurements and developments of underground muography	Collaborative Research Agreement	平成30年～令和3年度
東京大学地震研究所	The College of Natural Sciences, Seoul National University, Republic of Korea（SNU）（韓国）	Pioneering Research on the Thermal-Structural Evolution of Ocean Basin Together and the Development of Next Generation Ocean Bottom Observation Instruments	AGREEMENT ON COLLABORATIVE RESEARCH	令和2年～3年度
東京大学地震研究所	中国地震局地質研究所 Institute of Geology, China Earthquake Administration	学術交流	東京大学地震研究所と中国地震局地質研究所との間における学術交流に関する協定書	平成10年～令和5年
東京大学地震研究所	パシフィック・ノースウェスト国立研究所（米国） Pacific Northwest National Laboratory	学術・研究交流 Cosmic Ray Muon Density Tomography（Muography）	東京大学地震研究所とパシフィック・ノースウェスト国立研究所との間におけるミュオグラフィーに関する学術・研究協力交流協定書	平成18年～令和4年
東京大学地震研究所	バンドン工科大学（インドネシア）	学術交流	東京大学とバンドン工科大学との間における学術交流に関する協定書	平成18年～令和4年
東京大学地震研究所	南カリフォルニア地震センター（SCEC）（アメリカ）	学術交流	東京大学地震研究所と南カリフォルニア地震センターとの間における学術協力に関する協定書	平成18年～令和8年
東京大学地震研究所	パリ第7・ディドロ大学（フランス）	教員、研究員、学生の交換、共同研究教育プロジェクトを行うことによって、双方の研究や教育の資源を共有し、その発展を目指す。	東京大学とパリ第7・ディドロ大学との間における学術交流に関する協定書	平成20年～令和5年
東京大学地震研究所	オーストラリア国立大学（オーストラリア）	学術交流（幅広い研究分野における学生・研究者交流）	東京大学とオーストラリア国立大学との間における学術交流に関する協定書（大気海洋研究所担当）	平成21年～令和6年
東京大学地震研究所	西プルトーニュ大学ヨーロッパ海洋研究所（フランス）	学術交流	東京大学地震研究所と西プルトーニュ大学ヨーロッパ海洋研究所の研究および教育における協力に関する協定書	平成22年～令和7年
東京大学地震研究所	パリ地球物理研究所（IPGP）（フランス）	学術交流	東京大学地震研究所とパリ地球物理研究所との間における学術交流に関する協定書	平成23年～令和8年
東京大学地震研究所	リヨン大学（フランス）	研究交流および学生交流	東京大学とリヨン大学との間における学術交流に関する協定書	平成24年～令和4年
東京大学地震研究所	チリ大学（チリ）	天文学、地球科学、地震学、気象学、海洋学研究者による人的交流と共同研究	東京大学とチリ大学との間における学術交流に関する協定書	平成24年～令和5年
東京大学地震研究所	コレージュ・ド・フランス（フランス）	学術交流	東京大学とコレージュ・ド・フランスとの間における学術交流に関する協定書	平成24年～令和6年
東京大学地震研究所	アメリカ地質調査所（USGS）（アメリカ）	地球科学分野での、科学的・技術的協力	アメリカ合衆国内務省アメリカ地質調査所と東京大学地震研究所の地球科学についての協力協定書	平成24年～（期限なし）
東京大学地震研究所	マヒドン大学（タイ）	学術交流、若手研究者育成、東南アジアにおける地球科学に関する共同研究	東京大学地震研究所とマヒドン大学理学部との間における学術交流に関する覚書	平成25年～令和5年
東京大学地震研究所	フィレンツェ大学地球科学科（イタリア）	学術交流の促進	東京大学地震研究所とフィレンツェ大学地球科学科の地球科学における技術・科学協力に関する覚書（プロトコル）	平成25年～令和5年
東京大学地震研究所	ハンガリー科学アカデミーウィグナー物理学研究所（ハンガリー）	学術交流、若手研究者育成、素粒子を用いた地球等の透視に関する共同研究	東京大学地震研究所とハンガリー科学アカデミーウィグナー物理学研究所との間における学術交流に関する協定書	平成27年～令和7年
東京大学地震研究所	ネパール科学技術院（ネパール）	2015年のゴルカ地震の余震観測を共同で実施。インドとユーラシア大陸の間のメガスラストの形状を地震学的に明らかにするための観測を継続中。	東京大学地震研究所とネパール科学技術院との間における学術交流に関する協定書	平成27年～令和7年
東京大学地震研究所	トリブヴァン大学トリチャンドラ校（ネパール）	2015年のゴルカ地震の余震観測を共同で実施。インドとユーラシア大陸の間のメガスラストの形状を地震学的に明らかにするための観測を継続中。	東京大学地震研究所とトリブヴァン大学トリチャンドラ校との間における学術交流に関する協定書	平成27年～令和7年
東京大学地震研究所	オーストラリア国立大学（オーストラリア）	学術交流（両大学間の分野横断的な教育研究の交流を推進）	東京大学とオーストラリア国立大学との間における学術交流に関する協定書（グローバルキャンパス推進本部担当）	平成27年～令和7年

日本側機関	相手側機関（相手国）	研究課題	協定・覚書名	実施年度
東京大学地震研究所	国立原子核物理研究所（INFN）（イタリア）	学術交流	東京大学と国立原子核物理研究所（イタリア）との間における学術協力協定書	平成28年～令和3年
東京大学地震研究所	イタリア国立宇宙物理学研究所（INAF）（イタリア）	学術・研究交流 Cosmic Ray Muon Density Imaging (Muography)	東京大学地震研究所とイタリア国立宇宙物理学研究所との間におけるミュオグラフィーに関する学術・研究協力交流基本合意書 (Letter of Intent)	平成28年～令和3年
東京大学地震研究所	国立地球物理学火山学研究所（INGV）（イタリア）	地震学・火山学・素粒子を用いた地球観測分野等における共同研究・教育の伸展をはかる。	東京大学と国立地球物理学火山学研究所との間における学術交流に関する協定書	平成28年～令和8年
東京大学地震研究所	フランス地質調査所（BRGM）（フランス）	学術・研究交流 Cosmic Ray Muon Density Tomography (Muography)	東京大学地震研究所とフランス地質調査所との間におけるミュオグラフィーに関する学術・研究協力交流協定書	平成29年～令和4年
東京大学地震研究所	ドイツ地球科学研究センター（GFZ）（ドイツ）	学術交流	東京大学地震研究所とドイツ地球科学研究センターとの間における学術交流に関する協定書	平成29年～令和4年
東京大学地震研究所	中国科学院大学（UCAS）（中国） College of Earth Science, University of Chinese Academy of Sciences	学術交流	東京大学地震研究所と中国科学院大学との間における相互協力に関する覚書	平成29年～令和4年
東京大学地震研究所	北京大学 地球・空間科学学院（PKU-SESS）（中国）	学術交流	東京大学地震研究所と北京大学地球・空間科学学院との間における学術交流に関する覚書	令和元年～令和5年
東京大学地震研究所	地質・核化学研究所（GNS）（ニュージーランド）	固体地球物理学および双方に重要な学術分野における地球科学・地震工学に関する研究交流	東京大学地震研究所と地質・核化学研究所との間における学術協力・交流に関する協定書	令和3年～令和8年
東京大学地震研究所	GNS Science	地震、津波、火山噴火などの自然災害に関する地球科学的研究について、地震研究所とGNS Scienceの研究者で研究交流	東京大学地震研究所とGNS Scienceとの間における学術交流に関する覚書	令和3～8年度（自動更新）
東京大学地震研究所	オーストラリア国立大学（オーストラリア）	不均質媒質中の地震波伝播の研究	東京大学ーオーストラリア国立大学戦略パートナーシップ協定	平成28～令和3年
東京大学大気海洋研究所	国立台湾大学（台湾） National Taiwan University	台湾における地震・火山活動に関する地球化学的研究	学術協力協定	平成30年～
東京大学大気海洋研究所	ソウル大学校（韓国） Seoul National	韓国における地震活動に関する地球化学的研究	協定書なし	平成30年～
東京大学大気海洋研究所	天津大学（中国） Tianjin University	中国における大規模断層の地震活動に関する地球化学的研究	協定書なし	平成31年～
東京工業大学理学院火山流体研究センター	INVOLCAN（スペイン）	海底火山活動の評価手法の開発に関する研究		平成26～30年度
東京工業大学理学院火山流体研究センター・京都大学	イスタンブール大学・ボアジチ大学（トルコ）	科研費基盤B：断層すべりの多様性は構造不均質により規定されるのか？	学術協力協定（東工大-ボアジチ大学）	令和元～3年度
東京工業大学理学院火山流体研究センター	GNS Scinece（ニュージーランド）	科研費新学術領域研究(研究領域提案型)プレート間カップリングと流体の3次元分布の解明ーヒ克蘭ギ沈み込み帯での検証		令和29～30年度
東京工業大学理学院火山流体研究センター	GNS Scinece（ニュージーランド）	Understanding Zealandia, Plate Boundary Tectonic Processes		令和元～2年度
東京大学工学系研究科・東京工業大学社会理工学院・理学院火山流体研究センター研究センター	イスタンブール工科大学・ボアジチ大学・中東工科大学（トルコ）	エネルギーシステムと都市のリジリエンス工学日土協働教育システム	JSPS大学の世界展開力強化事業	平成27～31年度
東京工業大学理学院火山流体研究センター	GNS Scinece（ニュージーランド）	エレバス火山の溶岩湖とマグマ発生システムの解明NZ Marsden Fund: Unraveling the magmatic processes responsible for phonolitic volcanism using the Mount Erebus lava lake and magmatic system	ニュージーランド王立協会マースデン基金 New Zealand Royal Society Marsden award: ASL-1301	平成26～28年度
東京工業大学理学院火山流体研究センター	GNS Scinece（ニュージーランド）	Geothermal: The next generation	2019 Endeavour Fund - Research Programmesニュージーランド政府	令和元年～5年
東海大学海洋研究所	PHIVOLCS(フィリピン)	フィリピンにおける火山監視の高度化に関する研究	STUDYING THE MAGMA-HYDROTHERMAL FLUID SYSTEM FOR THE IMPENDING ERUPTION OF TAAL AND MAYON	平成28年度 ～令和2年度
千葉大学理学部・大学院理学研究科	インドネシア気象・気候・地球物理庁（インドネシア） The Meteorology, Climatology and	学術交流	大学間交流協定（学術交流協定・学生交流協定）	平成26年11月10日～
千葉大学理学部・理学研究院・融合理工学府	国立中央大学（台湾） National Central University	学術交流・学生交流	大学間交流協定（学術交流協定・学生交流協定）	平成29年11月22日～

日本側機関	相手側機関（相手国）	研究課題	協定・覚書名	実施年度
千葉大学理学部・大学院理学研究院	インドネシア科学院地質工学研究開発センター（インドネシア） Research and development center for Geotechnology.	学術交流	部局間交流協定（学術交流協定）	平成13年3月14日～
千葉大学理学部・大学院理学研究院	インドネシア気象・気候・地球物理庁（インドネシア）The Meteorology, Climatology and	電磁気学的アプローチによる地震・斜面崩壊の監視・予測とそのモデリング	部局間交流協定（学術交流協定）	平成20年11月7日～
千葉大学理学部・大学院理学研究院	国立中央大学地球科学学院（台湾）College of Earth science, National Central University	台湾における電磁気学的アプローチによる地震活動監視に関する研究	部局間交流協定（学術交流協定）	平成24年12月17日～
千葉大学理学部・大学院理学研究院	北京大学地球与空間科学学院（中国）School of earth and space sciences, Peking	電磁気学的アプローチによる地震・斜面崩壊の監視・予測とそのモデリング	部局間交流協定（学術交流協定）	平成22年3月1日～
千葉大学大学院理学研究院	チャップマン大学地球システムモデリング観測センター（アメリカ）Center of excellence in earth systems modeling and observations, Chapman University	衛星・地上観測による短期地震予測手法の開発プログラム	部局間交流協定（学術交流協定）	平成24年12月5日～
千葉大学理学部・大学院理学研究科	バシリカータ大学工学部（イタリア）School of Engineering, University of Basilicata	地上観測および衛星観測による地球物理学（地球電磁気学）的な地殻活動の監視とそのモデリング	部局間交流協定（学術交流協定）	平成27年4月6日～
千葉大学理学部・大学院理学研究院・融合理工学府	吉林大学 儀器科学与電気工程学院	電磁気学的アプローチによる地震活動監視に関する研究	部局間交流協定（学術交流協定）	平成31年6月3日～
千葉大学理学部・大学院理学研究院・融合理工学府	中国南方科技大学 地球与空間科学系	電磁気学的アプローチによる地震・斜面崩壊の監視・予測とそのモデリング	部局間交流協定（学術交流協定）	平成30年7月28日～
千葉大学理学部・大学院理学研究院	北京大学深セン研究生院 地震活動予測技術研究センター	電磁気学的アプローチによる地震活動監視に関する研究	部局間交流協定（学術交流協定）	令和元年9月18日～
名古屋大学環境学研究科	アラスカ大学地球物理学研究所(アメリカ) Geophysical Institute, University fo Alaska	干渉SARとGPS観測網による火山体変動の検出 Volcano deformation detected by InSAR and GPS network	学術交流協定	平成14年～
名古屋大学環境学研究科	シアクラ大学理学部(インドネシア) Faculty of Basic Science, Syiah Kuala University	2004年スマトラ沖地震津波の発生過程とスマトラ断層における歪み蓄積過程の解明 Research on rupture process of the 2004 Sumatra Earthquake and strain accumulation process of Sumatra Fault	学術交流協定	平成17年～
名古屋大学環境学研究科	シアクラ大学農学部 Faculty of Agriculture, Syiah Kuala University	2004年スマトラ沖地震後の長期復興過程と地域開発に関する研究 Research on long-term recovery process and regional development in the post-Sumatra Earthquake period	学術交流協定	平成29年～令和4年
名古屋大学	バンドン工科大学（インドネシア） Institute Technology Bandung	インドネシアの地震防災に関する研究 Research on earthquake disaster mitigation in Indonesia	大学間学術交流協定	平成30年協定更新
名古屋大学	ガジャマダ大学（インドネシア） Universitas Gadjah Mada	歪エネルギーの蓄積と解放の収支解析に基づく地震発生ポテンシャル評価	大学間学術交流協定	令和3年～令和7年
名古屋大学環境学研究科	ガジャマダ大学地理学部 Faculty of Geography, Universitas Gadjah Mada	インドネシアの都市災害とコミュニティ防災に関する研究 Research on urban disasters and the community-based disaster risk reduction in Indonesia	学術交流協定	令和3年～
名古屋大学環境学研究科	中国地震局地球物理研究所 Institute of geophysics, China Earthquake	地震災害に関する文理融合型の日中比較研究 Interdisciplinary China-Japan comparative research on an mega-earthquake disaster	学術交流協定	平成29年～
名古屋大学環境学研究科	國立成功大学理学院・工学院 College of Science and College of Engineering, National Cheng Kung University	学術交流	学術交流協定	令和2年～
名古屋大学環境学研究科	モンゴル国立大学 National University of Mongolia モンゴル危機管理庁 National Emergency Management Agency	レジリエンス共同研究センターを拠点としたモンゴルの活断層および地震防災に関する研究 Research on active faults and disaster reduction in Mongolia, based on Cooperative Center of Resilience Research.	学術協力協定	平成27年度～

日本側機関	相手側機関（相手国）	研究課題	協定・覚書名	実施年度
名古屋大学環境学研究所	モンゴル科学アカデミー 地理学地生態学研究所 (モンゴル) Institute of Geography and Geoecology, Mongolian academy of	学術交流および活断層に関する共同研究 Joint research on active faults in Mongolia	学術交流協定	平成19年～
京都大学防災研究所	GNS Science (ニュージーランド)	Endeavour Fund-Research programmers (New Zealand) (Title: earthquake- induced landslides and landscape dynamics: planning for, and avoiding landslide hazard and risk)	MEMORANDUM OF UNDERSTANDING between The GNS Science, New Zealand and The Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University	平成31年（令和元年）～令和6年
京都大学防災研究所	USGS (米国)	Did You Feel It Project (USGS)を利用した地震リスク認知と参画型地震モニタリングシステムに関する研究	協定書なし（JSPS（外国人招へい）および科研費）	平成30年～令和元年
京都大学防災研究所	米国コロンビア大学	海底圧力観測記録の地震動成分の抽出	協定書なし	平成30年～令和元年
京都大学防災研究所	GNS Science (ニュージーランド)	海底圧力観測によるニュージーランド北島東方沖のスロー地震活動調査	MEMORANDUM OF UNDERSTANDING between The GNS Science, New Zealand and The Disaster Prevention Research Institute,	平成30年～令和元年
京都大学防災研究所	USGS (米国)	海底地震計記録からテクトニック微動を検出する手法開発	協定書なし	平成30年
京都大学防災研究所	エネルギー・鉱物資源省地質学院（インドネシア） Geology Agency, Ministry of Mines and Energy The Republic of Indonesia	インドネシアの火山学と火山災害軽減に関する研究 Research on volcanology and volcanic hazard mitigation in Indonesia	学術協力協定	令和元年～5年度
京都大学防災研究所	エネルギー・鉱物資源省地質学院（インドネシア） Geology Agency, Ministry of Mines and Energy The Republic of Indonesia	火山噴火リアルタイムハザード予測の高度化とその社会実装に向けた実証試験 IStudy on advancement of real-time hazard prediction of volcanic eruption and verification test for its social implementation	持続可能開発目標達成支援事業 axis	令和2年度～3年度
京都大学防災研究所	ハンブルグ大学・地球システム研究およびサステナビリティセンター（ドイツ） Center for Earth System Research and Sustainability,	レーダーによる噴煙観測 Observation of volcanic plume using meteorological radars	学術協力協定	令和元年～5年度
鳥取大学工学部	バダン州立大学工学部	地方都市における効果的な地震防災対策に関する共同研究の計画・実施 教員・学生の交流、短期セミナーの実施	学術交流協定	平成27年度～（令和2年度更新）
立命館大学	地球科学研究所（南アフリカ） Council for Geoscience (South Africa)	ICDP 南アフリカ大深度金鉱山での地震発生場（M2.0-5.5）の掘削計画の推進のための観測地震学的研究協力	研究協力協定	平成27年～
立命館大学総合科学技術研究機構	ウィットワータースランド大学地球科学部（南アフリカ） University of the Witwatersrand (South Africa)	ICDP 南アフリカ大深度金鉱山での地震発生場（M2.0-5.5）の掘削計画の推進	研究協力協定	平成27年～
立命館大学	国際陸上科学掘削プログラム（ICDP）・地球科学研究所（南アフリカ） International Continental Scientific Drilling Program (ICDP) Council for Geoscience (South Africa)	ICDP 南アフリカ大深度金鉱山での地震発生場（M2.0-5.5）の掘削計画 Drilling into seismogenic zones of M2.0-5.5 earthquakes in South African gold mines (ICDP DSeis)	研究協力協定	平成28年～
立命館大学	Witwatersrand大学（南アフリカ）インド工科大学 ハイデラバード校（インド）テルアビブ大（イスラエル） University of the Witwatersrand (South Africa) Indian Institute of Technology, Hyderabad	南アフリカとインドの国際科学地震掘削計画を軸にした研究交流 Research cooperation between ICDP projects to drill into seismic zones in South Africa and India	協定書なし（JSPS 研究拠点形成事業 B. アジアアフリカ）	平成29年～令和元年
防災科学技術研究所	韓国地質資源研究院 Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources	韓国地質資源研究院と防災科学技術研究所とのMOU Memorandum of Understanding between Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources and National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention	覚書交換による研究協力	平成29年～
防災科学技術研究所	ユトレヒト大学（オランダ）	Upscaling Laboratory Fault Friction Laws	共同研究契約書	平成28年度～平成31年度
防災科学技術研究所	National. Society for Earthquake Technology- Nepal (NSET)	小型UAVを用いた2015年4月ネパール地震の被害マッピング	J-RAPID	H27年度～H28年度
防災科学技術研究所、中部大学	Lembaga Ilmu Pengetahuan Indonesia	小型UAVを用いた災害リスク評価・監視・対応のための情報収集・利用システム	e-ASIA共同研究プログラム（e-ASIA JRP）	H28年度～H31年度

日本側機関	相手側機関（相手国）	研究課題	協定・覚書名	実施年度
防災科学技術研究所	インドネシア共和国気象 気候地球物理庁 (BMKG)	インドネシア・日本・アジア太平洋およ びインド洋地域における地震津波災害軽 減を目的とし、両国における地震・津波 監視・警報技術の強化ための研究開発を 共同で行う		H28年度～R2度 年
名古屋市立大学 (防災科学技術研究所 が参画)	Department of Disaster Management, Ministry of Home and Cultural Affairs (DDM)	ブータンにおける組積造建築の地震リス ク評価と減災技術の開発	SATREPS	H29年度～R3年 度
防災科学技術研究所、 中部大学	フィリピン火山地震観測 所 (PHIVOLCS)	フィリピンにおける火山・地震・津波・ 地滑りおよび災害観測の高密度・高頻度 化の実証実験	aXis	R2年度～R3年度
防災科学技術研究所	GNS Science	活断層ごく近傍の強震動調査に基づく地 震ハザード評価の高度化	J-RAPID	H28年度
防災科学技術研究所	米国地震工学会	平成28年熊本地震災害の全体像の把握	J-RAPID	H28年度
防災科学技術研究所	GEM Foundation (イタリ ア)	日本におけるハザード評価手法につい ての技術協力	協定書なし	平成28年度～
海洋研究開発機構	カナダ天然資源省地球科学 統括部(カナダ)	「カナダ・北部カスカディア沈み込み帯の地震 活動と構造に関する共同プロジェクト」実施取 決	共同研究 (IA)	平成24年度～平 成28年度
海洋研究開発機構	ノルウェー科学技術大学(ノ ルウェー)	「北東部地震発生前後のアイムスバ地帯研 究的解析による地殻構造」に関する共同研 究契約	共同研究 (IA)	平成26年度～平 成28年度
海洋研究開発機構	ヘルムホルツ・キール海洋研 究センター(ドイツ)	「超深海OBSを用いた海洋プレート構造」に 関する共同研究契約	共同研究 (IA)	平成26年度～平 成28年度
海洋研究開発機構	マヒドン大学理学部(タイ)	「地球物理観測」に関する実施取決め	共同研究 (IA)	平成24年度～平 成29年度
海洋研究開発機構	国土環境気候変動資源省(ト ンガ)	「地球物理観測」に関する実施取決め	共同研究 (IA)	平成24年度～平 成29年度
海洋研究開発機構	ボアジチ大学 カンデリ地震 観測所(トルコ)	「マルマラ海域の地震・津波災害軽減とトル コの防災教育」に関する共同研究実施取決	共同研究 (IA)	平成24年度～平 成30年度
海洋研究開発機構	豪州地球科学機構(オース トラリア)	ロードハウライズプロジェクト(LHR)事前調 査に関するプロジェクト合意書(PA)	プロジェクト合意書 (PA)	平成27年度～平 成30年度
海洋研究開発機構	韓国地質資源研究院 地震 研究センター(韓国)	「地球物理観測」に関する実施取決め	共同研究 (IA)	平成26年度～令 和5年度
海洋研究開発機構	ハワイ大学 海洋地球科学 部(アメリカ)	「環太平洋域の沈み込み帯、リソスフェア形 成およびプレートダイナミクス」に関する共同 研究契約	共同研究 (IA)	平成26年度～令 和30年度
海洋研究開発機構	西オーストラリア大学(オース トラリア)	OBS構造探査データ解析手法の高度化― 疎らなOBSデータによる波形解析手法の開発 研究」に関する実施取決め	共同研究 (IA)	平成29年度～平 成30年度
海洋研究開発機構	GNSサイエンス(ニュージー ランド)	「ニュージーランド地震発生帯(ヒ克蘭ギ沈 み込み帯)における海底地震観測に関する共 同研究」に関する実施取決め	共同研究 (IA)	平成29年度～令 和4年度
海洋研究開発機構	インドネシア気象気候地球物 理庁(インドネシア)	「インドネシアにおける共同地球物理観測」に 関する実施取決め	共同研究 (IA)	平成29年度～平 成30年度
海洋研究開発機構	パラオ短期大学(パラオ)	「地球物理観測」に関する実施取決め	共同研究 (IA)	平成27年度～令 和6年度
海洋研究開発機構	マヒドン大学(タイ)	「タイにおける機動広域帯地震観測網 (TSAR)」に関する共同研究契約	共同研究 (IA)	平成28年度～令 和元年度
海洋研究開発機構	グルノーブル・アルプ大学(フ ランス)	「波形インバージョン解析による地殻構造研 究の高度化」に関する共同研究契約	共同研究 (IA)	平成29年度～令 和元年度
海洋研究開発機構	カナダ天然資源省 陸鉦物 統括部(カナダ)	「カナダ・北部カスカディア沈み込み帯の地震 活動と構造に関する共同プロジェクト」	共同研究 (IA)	平成29年度～令 和元年度
海洋研究開発機構	ポーランド科学アカデミー 地 球物理学研究所(ポーランド)	「OBS構造探査データ再解析による南海トラ フ・プレート境界域の詳細イメージング研究」 に関する共同研究契約	共同研究 (IA)	平成29年度～令 和元年度
海洋研究開発機構	台湾海洋研究所(台湾)	「琉球海溝の沈み込み過程のダイナミクス の解明」に関する実施取決め	共同研究 (IA)	平成30年度～令 和元年度
海洋研究開発機構	国立自然科学技術センター 地球物理学研究所(ベトナム)	「地震計太平洋域ネットワーク観測」に関する 実施取決め	共同研究 (IA)	平成28年度～令 和2年度
海洋研究開発機構	コンセプション大学 東京大学(チリ 日本)	「みらい」をもちいた共同研究航海に関する合 意書	共同研究 (IA)	平成30年度～令 和2年度
海洋研究開発機構	デキサス大学地球物理研究 所(アメリカ)	「ニュージーランド・ヒ克蘭ギ沈み込み帯にお ける反射法・屈折法データの統合解析に関す る共同研究	共同研究 (IA)	令和元年度～令 和3年度
海洋研究開発機構	インペリアル大学(イギリス)	3次元OBS探査データを用いた波形インバ ージョン解析に関する共同研究	共同研究 (IA)	令和2年度～令 和3年度
海洋研究開発機構	サザンプトン大学(イギリス)	分布型光ファイバー振動センサーを用いた沈 み込むプレートにおける地球ダイナミクス解析」に 関する共同研究 ※署名まだ(3/25時点)	共同研究 (IA)	令和30年度～令 和3年度
海洋研究開発機構	ハワイ大学 海洋地球科学 技術学部(アメリカ)	環太平洋の沈み込み帯、リソスフェア形成及 びプレートダイナミクスに関する研究	共同研究 (IA)	平成31年度～令 和3年度
海洋研究開発機構	OCTIO Environmental(ノル ウェー)	プレート沈み込み帯における海底高精度重 力・圧力経時変化観測に関する共同研究	共同研究 (IA)	令和元年度～令 和3年度
海洋研究開発機構	南カリフォルニア大学(アメリ カ)	地震活動カタログの作成に関する共同研究	共同研究 (IA)	令和元年度～令 和4年度
海洋研究開発機構	ボアジチ大学 地震観測研究 所(トルコ)	トルコマルマラ海における海底地震観測に 関する共同研究	共同研究 (IA)	令和2年度～令 和3年度
海洋研究開発機構	オーストラリア国立大学 地 球科学研究所(オーストラ リア)	地球内部ダイナミクスと地球進化に関する共 同研究	共同研究 (IA)	平成16年度～平 成30年度
海洋研究開発機構	カリフォルニア大学バーク レイ校 地震研究所(アメリカ)	地球内部ダイナミクスと地球進化に関する共 同研究	共同研究 (IA)	平成14年度～平 成30年度
海洋研究開発機構	パリ地球物理研究所(フラン ス)	研究協力に関する実施取り決め	共同研究 (IA)	平成16年度～平 成30年度
海洋研究開発機構	中国国家地震局 地震科学 研究所(中国)	研究協力に関する実施取り決め	共同研究 (IA)	平成18年度～平 成30年度
産業技術総合研究所	米国地質調査所 (USGS)	地震に関する共同研究	米国地質調査所と産総研地質調査総合 センターとの間の地球科学に関する研究 協力協定	平成28年度～

日本側機関	相手側機関（相手国）	研究課題	協定・覚書名	実施年度
産業技術総合研究所	ニュージーランド地質・核科学研究所 (GNS)	沈み込み帯の地震および活断層に関する研究	ニュージーランド地質・核科学研究所と産総研地質調査総合センターとの間の地球科学に関する研究協力についての覚書	平成29年度～
産業技術総合研究所	トルコ鉱物資源調査総局 (MTA)	北アナトリア断層系東部および東アナトリア断層系の古地震学的研究に関する研究	産総研地質調査総合センターとトルコ鉱物資源開発調査総局 (MTA) との研究協力覚書	令和2年度～
産業技術総合研究所	イタリア国立地球物理火山研究所 (INGV)	イタリアおよび日本において火山噴煙の合同観測を行い、観測手法の高度化およびマグマ脱ガス過程に関する研究を行う。	イタリア地球物理火山研究所と産総研地質調査総合センターとの研究協力覚書	平成31年度～
産業技術総合研究所	ベトナム科学技術院 (VAST)	地震に関する研究	産業技術総合研究所とベトナム科学技術院 (VAST) との包括協力協定	令和2年度～
産業技術総合研究所	フランス地質・鉱山研究所 (BRGM)	地震に関する研究	フランス地質・鉱山研究所 (BRGM) と産総研地質調査総合センターとの研究協力覚書	平成31年度～
産業技術総合研究所	カナダ天然資源省地質調査所 (NRCan, GSC)	地震・津波に関する研究	カナダ天然資源省地質調査所 (NRCan, GSC) と産総研地質調査総合センターとの研究協力覚書	令和元年～
産業技術総合研究所	韓国地質資源研究院 (KIGAM)	活断層・地震災害に関する研究	韓国地質資源研究院 (KIGAM) と産総研地質調査総合センターとの研究協力覚書	平成29年度～
国土地理院	IVS (International VLBI Service for Geodesy and Astrometry／国際VLBI事業)	地球回転監視、地球基準座標系 (ITRF)、プレート運動決定等を目的として国際VLBI観測、相関処理、解析を実施。	国際VLBI事業設立規約 International VLBI Service for Geodesy and Astrometry (IVS) Terms of Reference	平成10年～
国土地理院	IGS (International GNSS Service／国際GNSS事業)	衛星測位システムに関する観測情報の共有や精密な軌道情報の決定等のため、観測データの提供や地域データセンター・準解析センターとしての業務を実施。	国土地理院からIAG (International Association of Geodesy) 議長へのIGS参加表明	平成6年～
国土地理院	パリ地球物理学研究所 (フランス) Institut de Physique du Globe de Paris	覚書交換による包括的研究協力の中に火山分野における協力も含め実施。	包括的研究協力 The GSI-IPGP COOPERATION SCHEME	平成18年度～
気象庁	国際地震センター ISC	気象庁データの提供 ISCカタログの受領 国外地震の解析、資料作成への活用	気象庁長官からISC評議会議長への参加表明	昭和47年度～
気象庁	(外務省を介して) 包括的核実験禁止条約機構 CTBTO	地震観測への協力 ND C-1の地震観測に関する指導 防災業務への地震観測データの活用	(外務書との文書) CTBT国内運用体制の立ち上げに際する協力依頼	平成14年度～
気象庁	中国地震局 China Earthquake Administration of People's Republic of China 韓国気象庁 Korea Meteorological Administration	地震災害軽減に関する協力 地震波形データの交換 (韓国)	地震災害軽減に関する中国地震局、気象庁、韓国気象庁による第1回長官会合覚書 Minutes of the First Tripartite Meeting on Earthquake Disaster Mitigation among China Earthquake Administration of People's Republic of China, Japan Meteorological Agency of Japan and Korea Meteorological Administration of the Republic of Korea	平成16年度～
気象庁	米国地質調査所とIRIS連合 USGS、IRIS	地震観測データの交換 地震データの防災業務への活用	米国地質調査所とIRISとの権利証明 Department of the Interior, Geological Survey and The IRIS Consortium: Certificate of Title	平成2年度～
海上保安庁海洋情報部	国際レーザー測距事業 International Laser Ranging Service	地球回転パラメータの決定、地球基準座標系 (ITRF) 特に地球重心の決定、地球観測衛星等種々の衛星の精密軌道決定、重力場モデル構築に係るデータを得るため、世界各国のレーザー局と共同で人工衛星によるレーザー測距観測を行う。	国際レーザー測距事業設立規約 International Laser Ranging Service (ILRS) Terms of Reference	平成10年度～
山梨県富士山科学研究所	ガジャマダ大学 (インドネシア) Universitas Gadjah Mada	学術交流	包括連携協定	平成26年～
山梨県富士山科学研究所	ウダヤナ大学 (インドネシア) UDANAYA UNIVERSITY	JICA草の根技術協力事業 「地方大学を拠点とした低頻度大規模災害に対応可能な防災コミュニティづく	包括連携協定	令和3年～

23-1. 予算及び機構定員整備状況

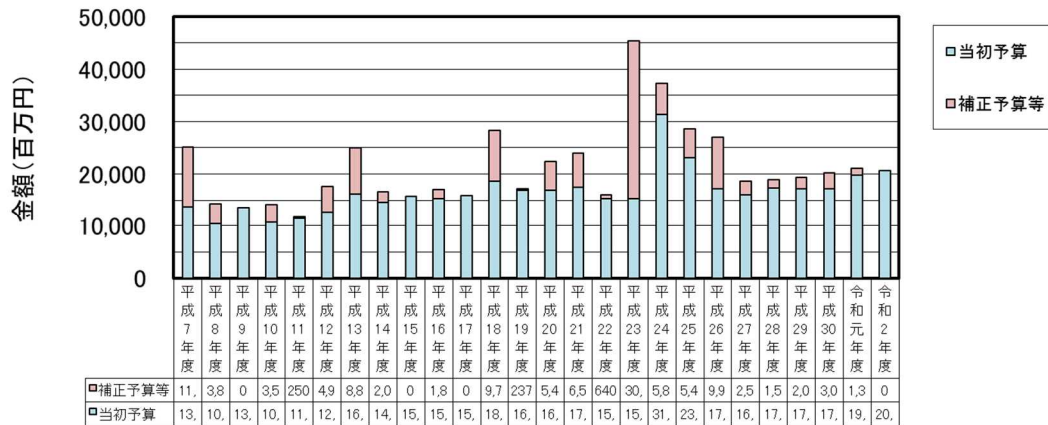
1. 地震及び火山研究予算

地震火山観測研究計画の実施機関における、平成7年度以降の地震及び火山研究予算の推移を示す。

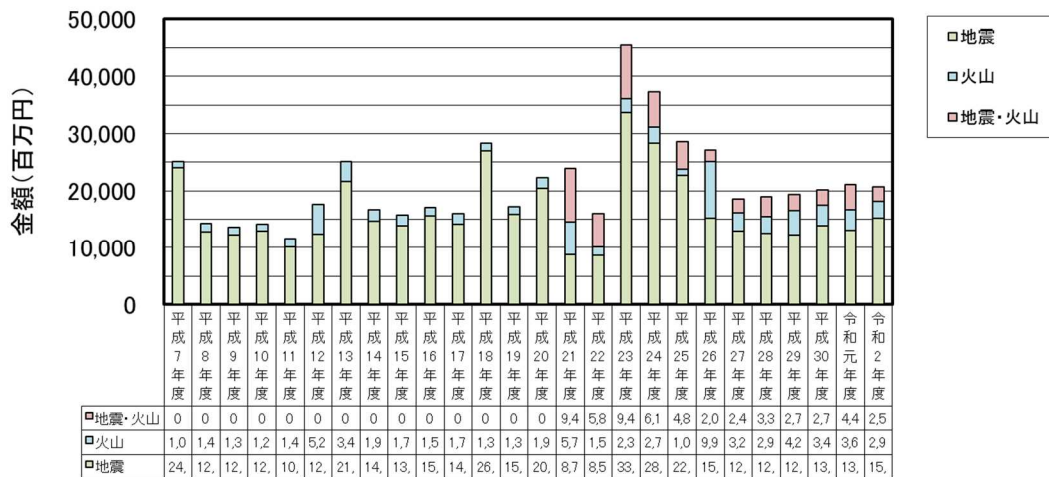
- ※ 平成16年度より海洋研究開発機構、平成21年度より立命館大学、東海大学、平成27年度より東京大学大気海洋研究所、山梨県富士山科学研究所、北海道立総合研究機構地質研究所、平成31年度より東北大学災害科学国際研究所、千葉大学、東京大学大学院情報学環、東京大学地震火山史料連携研究機構、新潟大学、富山大学、神戸大学、兵庫県立大学が参加。
- ※ 東海大学は平成30年度まで。
- ※ 「補正予算等」には予備費を含む。「当初予算」には競争的資金その他を含む。
- ※ 「外部資金」は、外部研究費（競争的資金を含む）、寄付金を集計。
- ※ 途中で算出方法の見直し等を行っている機関がある。
- ※ データの精査により、過去の公表値から変更が生じているものがある。

1-1. 予算総額（政府機関等、国立研究開発法人等、国立大学法人等）

地震火山研究予算 総額（当初予算・補正予算等別）

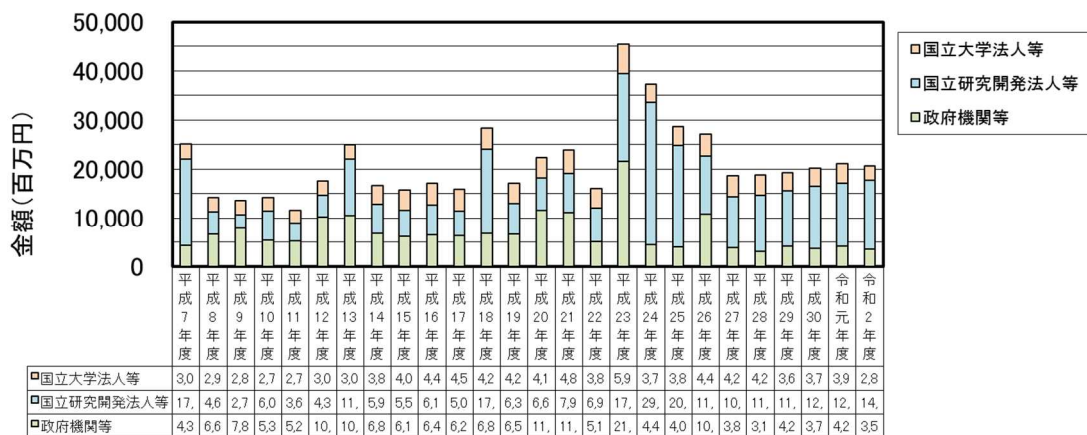


地震火山研究予算 総額（地震・火山別）



※平成21年度以降は地震・火山切り分け不能の項目を追加

地震火山研究予算 総額（機関別）



1-2. 政府機関等の予算

※地震火山観測研究計画の実施機関のうち、国土地理院、気象庁、海上保安庁、山梨県富士山科学研究所における、地震火山研究予算の推移（平成7年度以降）

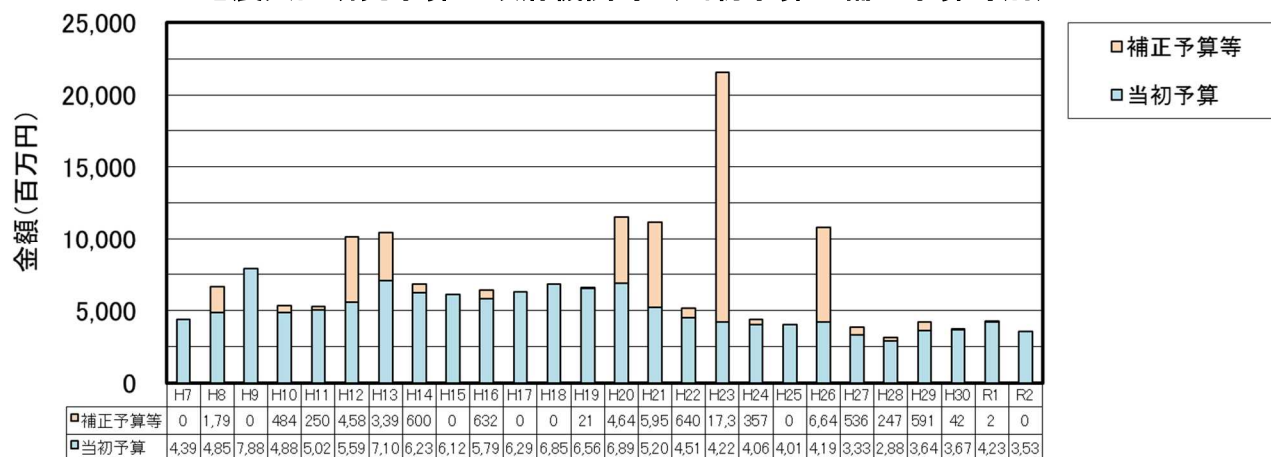
※政府機関における地震関連予算は、地震調査研究推進本部取りまとめの「地震調査研究関係政府予算案（省庁別）」による。

※平成27年度より山梨県富士山科学研究所が参加。

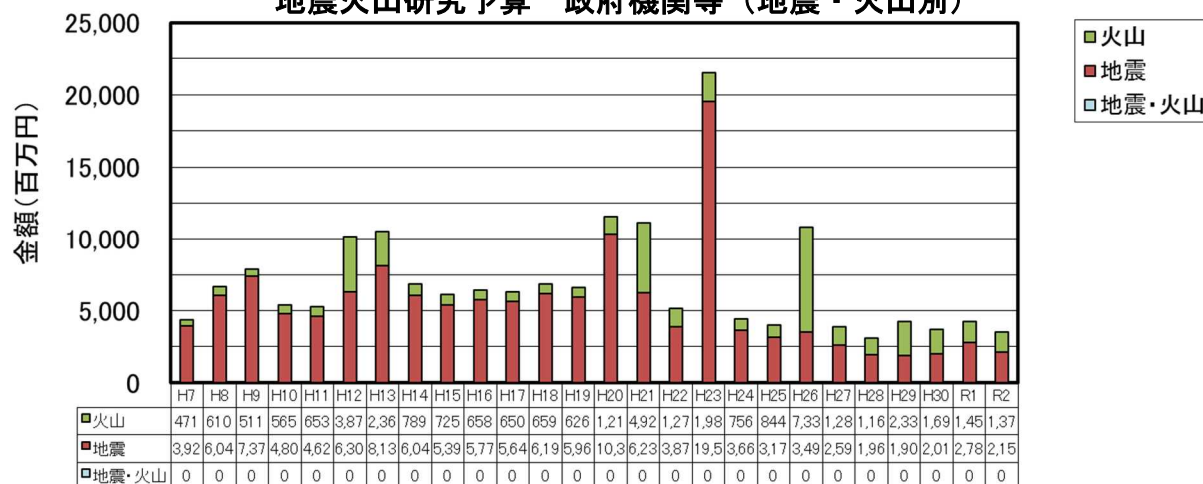
※気象庁は、平成26年度より火山関係経費の積算方法を一部変更している。

※国土地理院は、平成23年度より電子基準点測量費等を内数表記としているため、本表には計上していない。

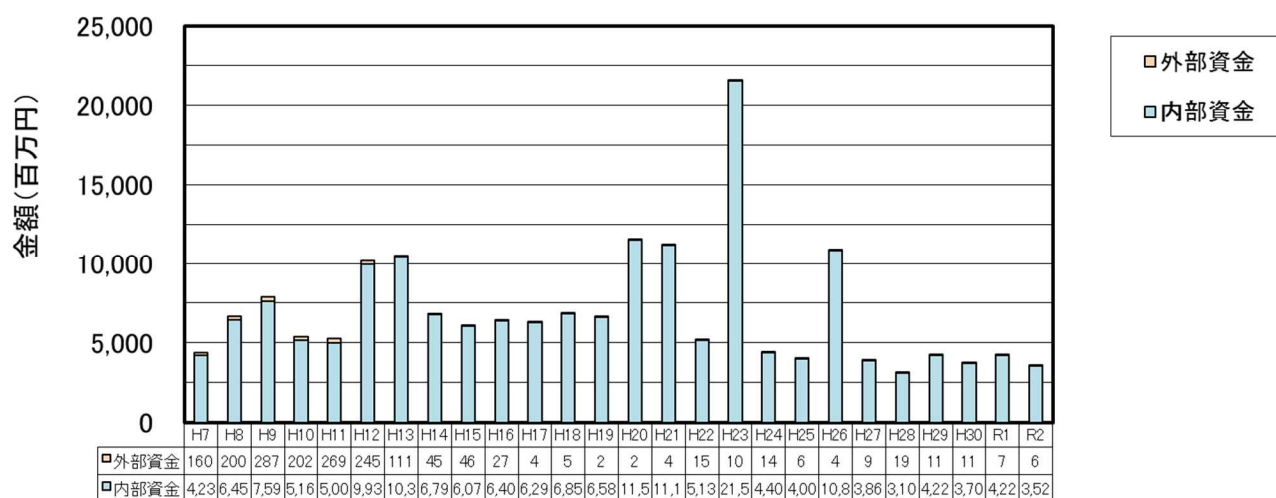
地震火山研究予算 政府機関等（当初予算・補正予算等別）



地震火山研究予算 政府機関等（地震・火山別）



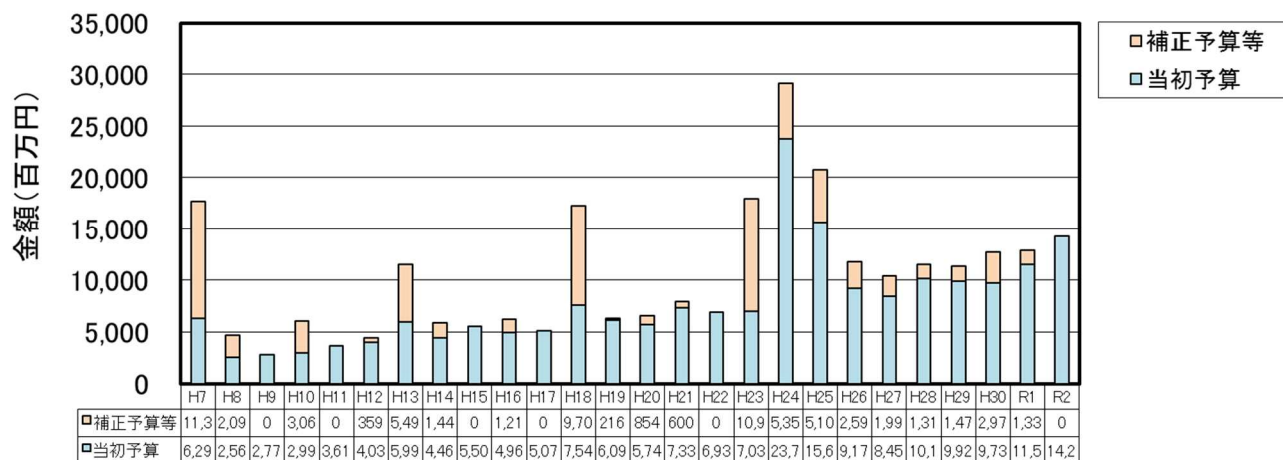
地震火山研究予算 政府機関等（項目別）



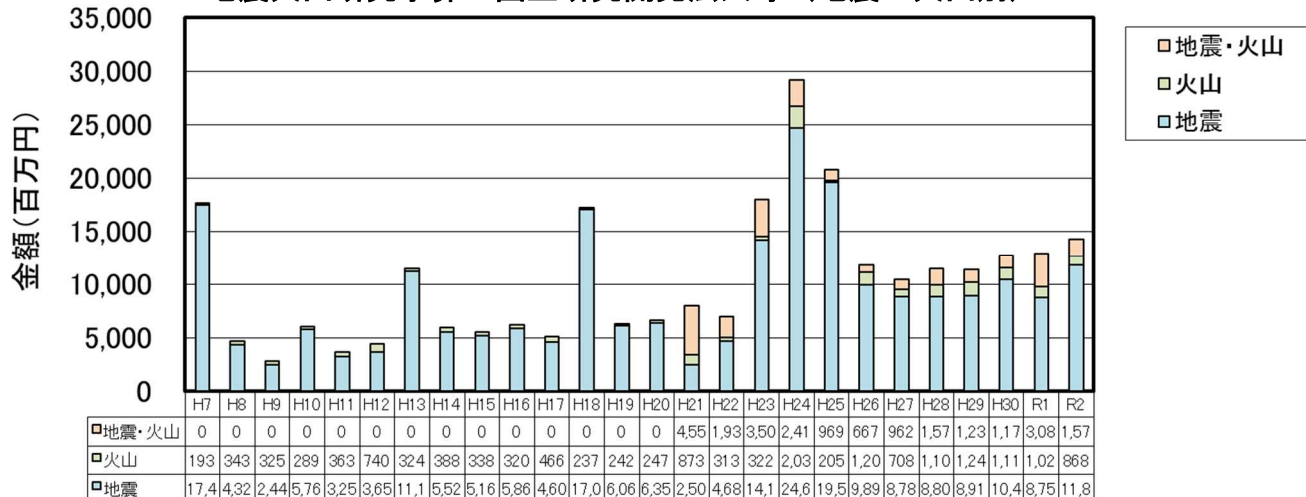
1-3. 国立研究開発法人等の予算

※地震火山観測研究計画の実施機関のうち、情報通信研究機構、防災科学技術研究所、海洋研究開発機構、産業技術総合研究所、北海道立総合研究機構における、地震火山研究予算の推移（平成7年度以降）
 ※平成16年度より海洋研究開発機構、平成27年度より北海道立総合研究機構が参加。

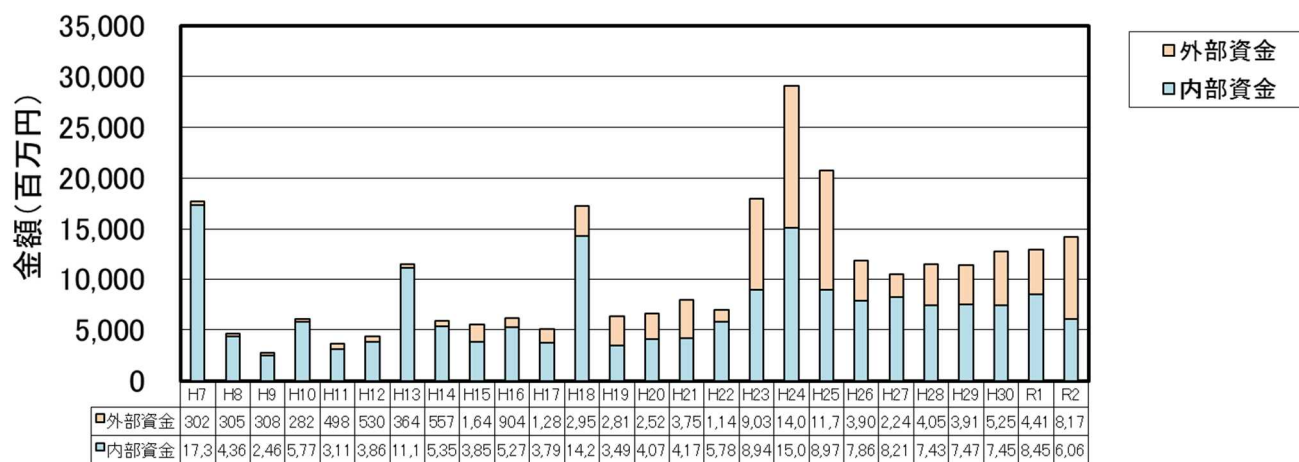
地震火山研究予算 国立研究開発法人等（当初予算・補正予算等別）



地震火山研究予算 国立研究開発法人等（地震・火山別）



地震火山研究予算 国立研究開発法人等（項目別）



1-4. 国立大学法人等の予算

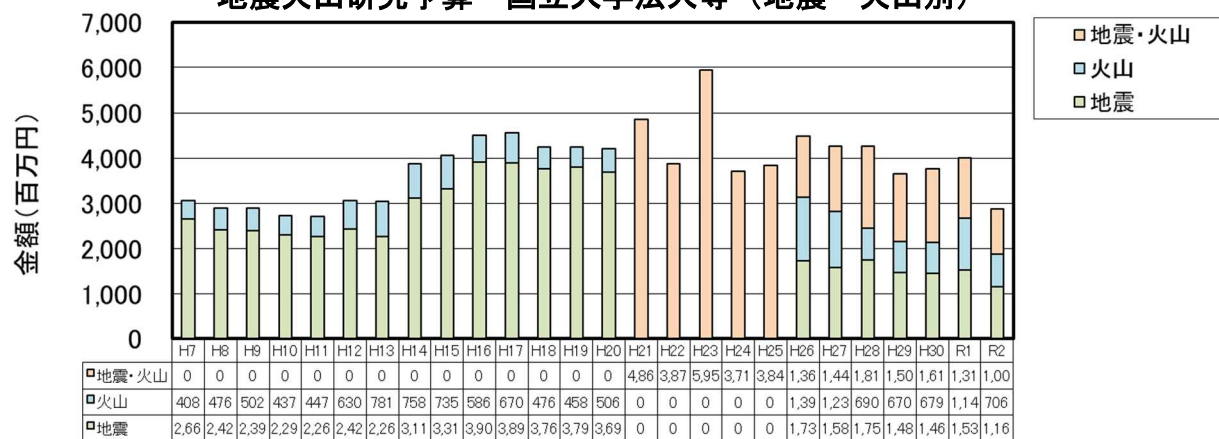
※地震火山観測研究計画の実施機関のうち、国立大学法人及び立命館大学、東海大学、兵庫県立大学、奈良文化財研究所における、地震火山研究予算の推移（平成7年度以降）

※国立大学は平成16年度から法人化。

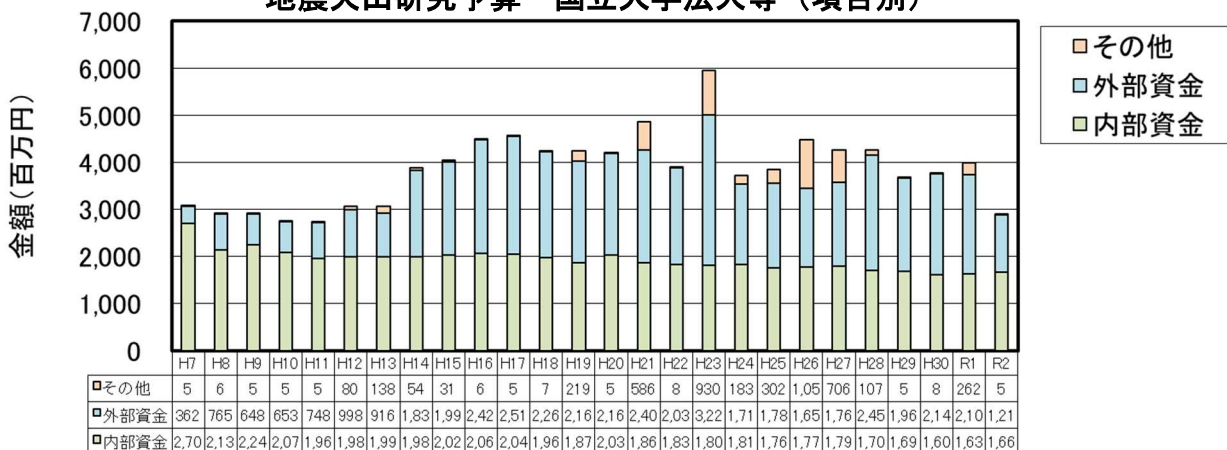
※平成21年度より立命館大学、東海大学が参加。平成27年度より東京大学大気海洋研究所、平成31年度から、東北大学災害科学国際研究所、千葉大学、東京大学大学院情報学環、東京大学地震火山史料連携研究機構、新潟大学、富山大学、神戸大学、兵庫県立大学が参加。

※東海大学は平成30年度まで。

地震火山研究予算 国立大学法人等（地震・火山別）

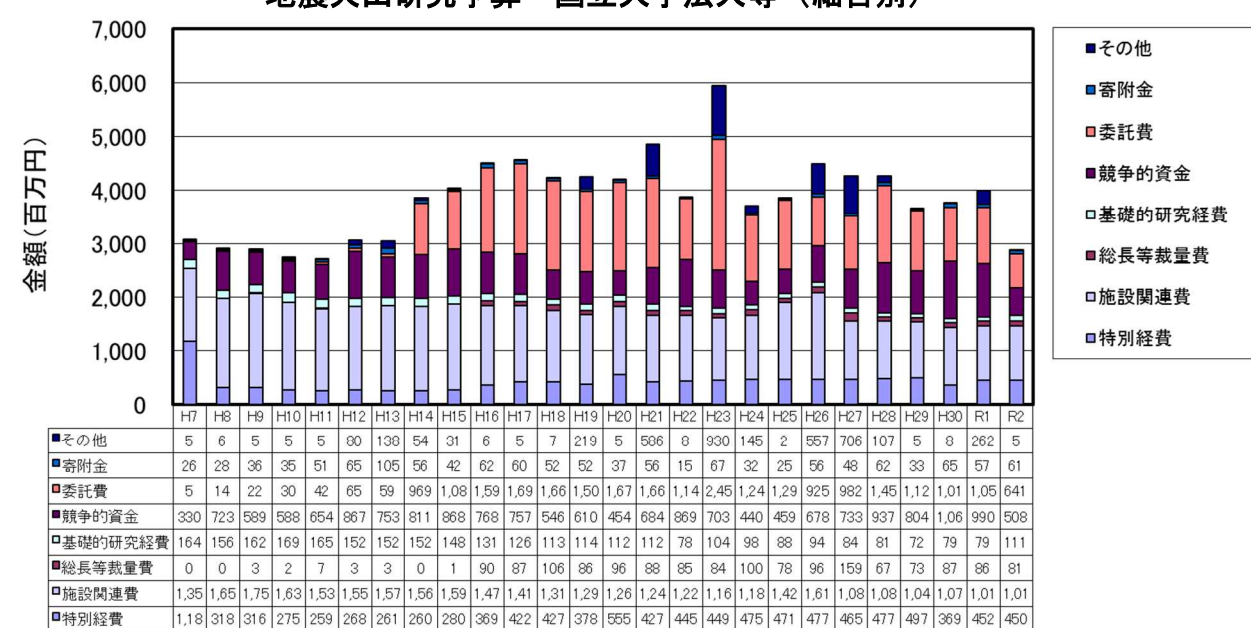


地震火山研究予算 国立大学法人等（項目別）

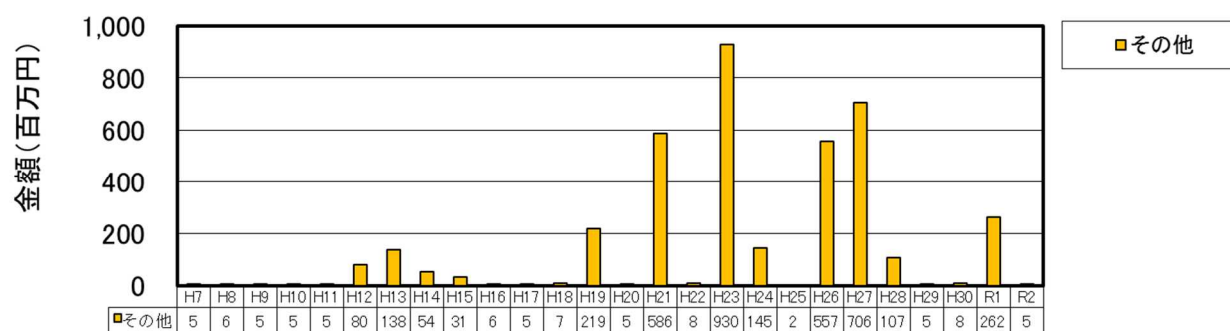


※「その他」には、衛星テレメータの更新（平成21年度）、災害復旧関連（平成23年度）、平成23年度以降の補正予算が含まれる。

地震火山研究予算 国立大学法人等（細目別）

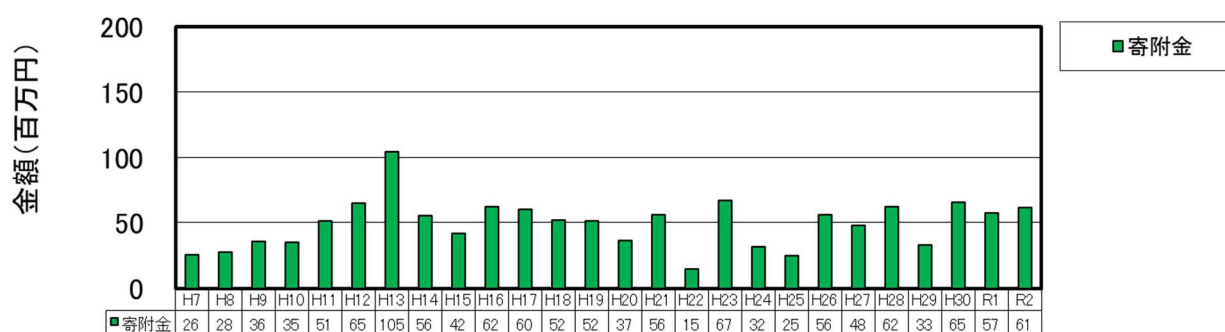


地震火山研究予算 国立大学法人等（その他）

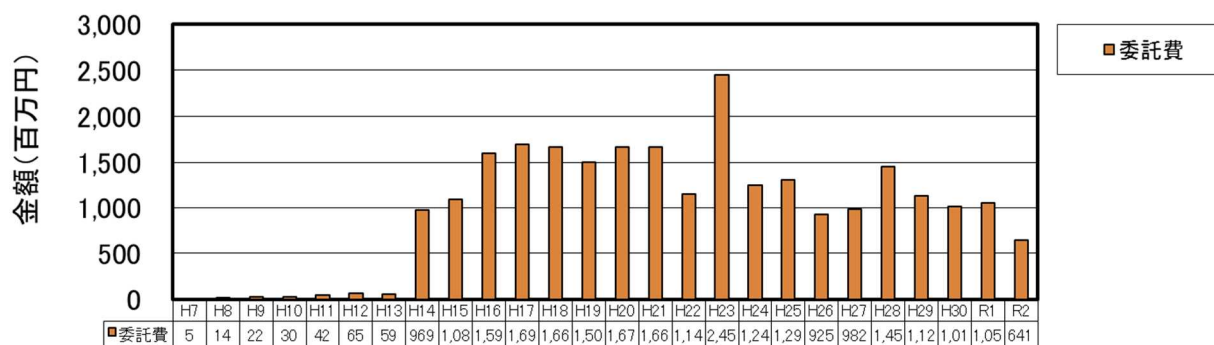


※衛星テレメータの更新（平成 21 年度）、災害復旧関連（平成 23 年度）、平成 23 年度以降の補正予算を含む。

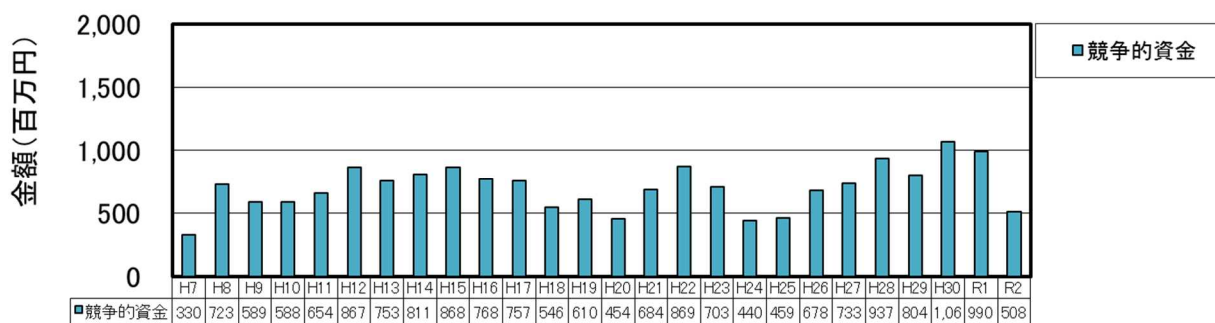
地震火山研究予算 国立大学法人等（寄附金）



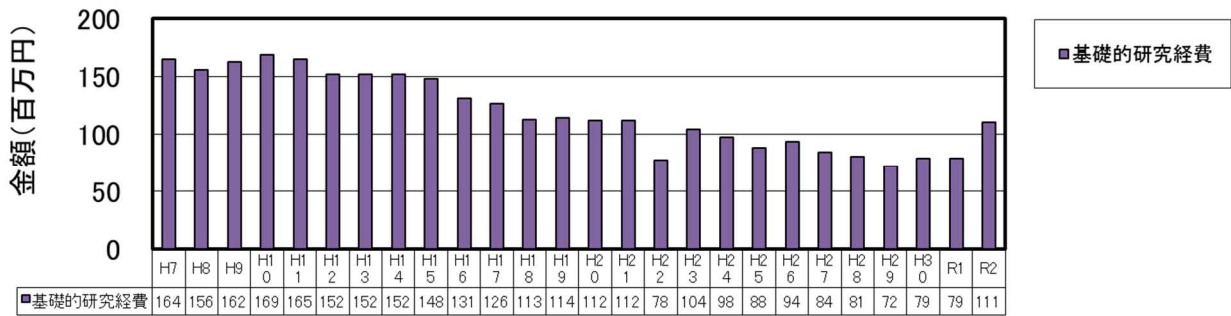
地震火山研究予算 国立大学法人等（委託費）



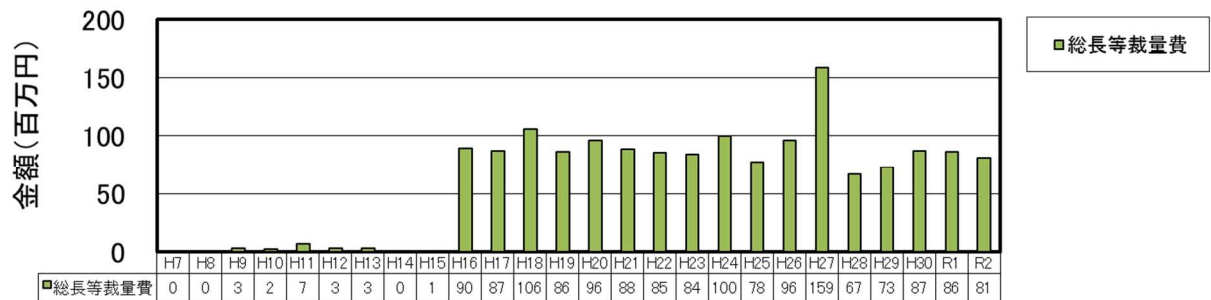
地震火山研究予算 国立大学法人等（競争的資金）



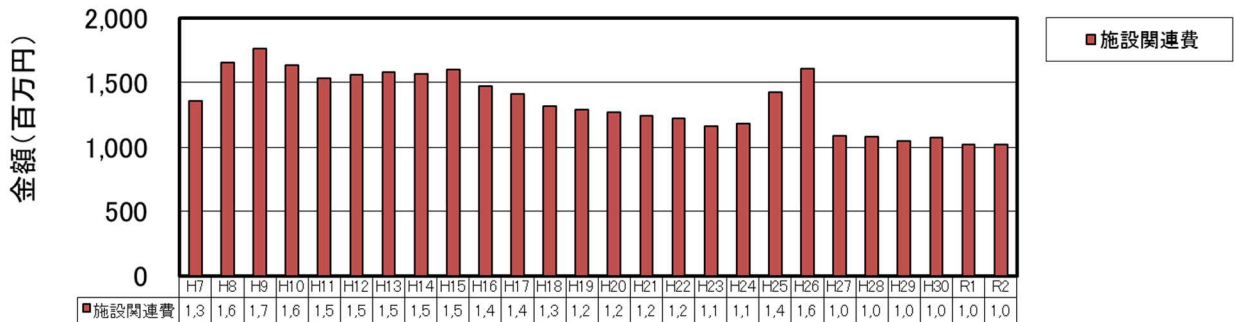
地震火山研究予算 国立大学法人等（基礎的研究経費）



地震火山研究予算 国立大学法人等（総長等裁量費）

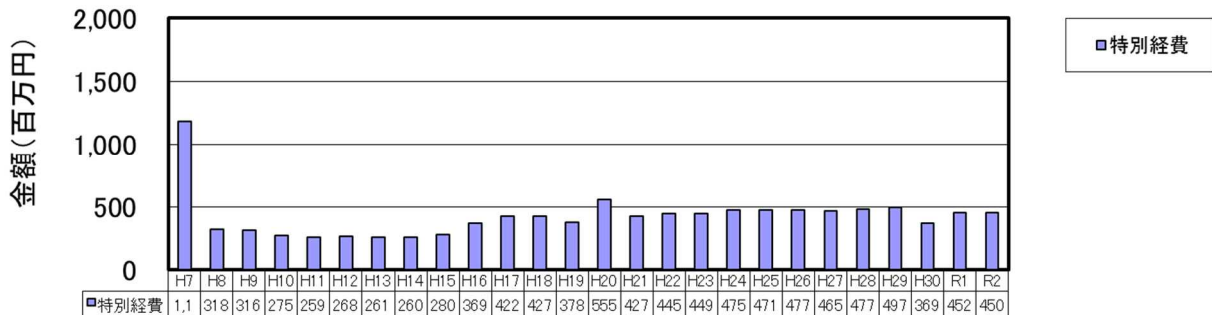


地震火山研究予算 国立大学法人等（施設関連費）



※補正予算によるものを含む。

地震火山研究予算 国立大学法人等（特別経費）



※平成 21 年度以前は特別教育研究経費。
 ※地震火山観測研究計画の経費はここに含まれる。
 ※平成 7 年度は、衛星テレメータの整備を含む。

2. 地震及び火山研究者数等

地震火山観測研究計画の実施機関における、平成7年度以降の地震火山研究者数の推移を示す。

※ 平成16年度より海洋研究開発機構、平成21年度より立命館大学、東海大学、平成27年度より東京大学大気海洋研究所、山梨県富士山科学研究所、北海道立総合研究機構地質研究所、平成31年度より東北大学災害科学国際研究所、千葉大学、東京大学大学院情報学環、東京大学地震火山史料連携研究機構、新潟大学、富山大学、神戸大学、兵庫県立大学が参加。

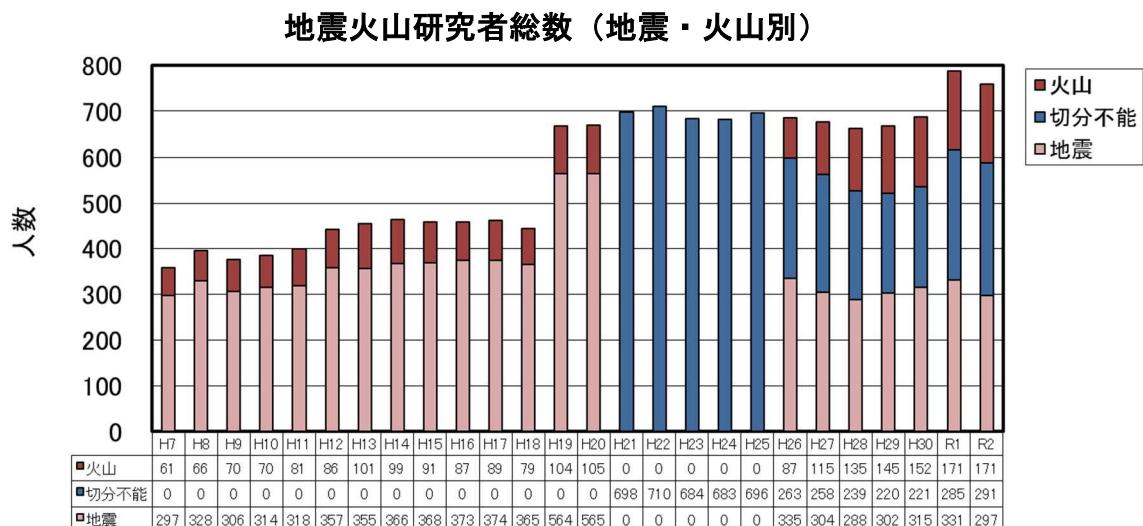
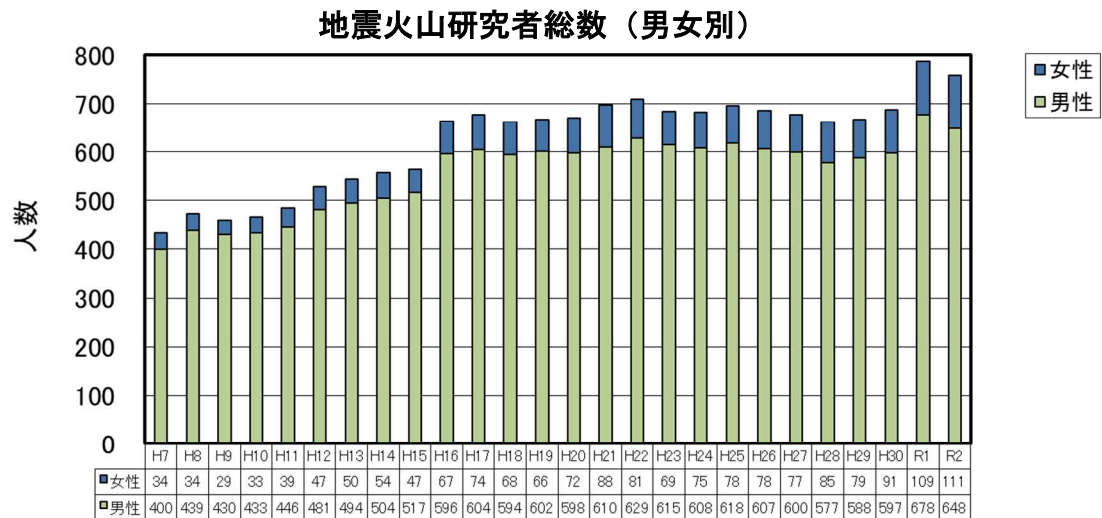
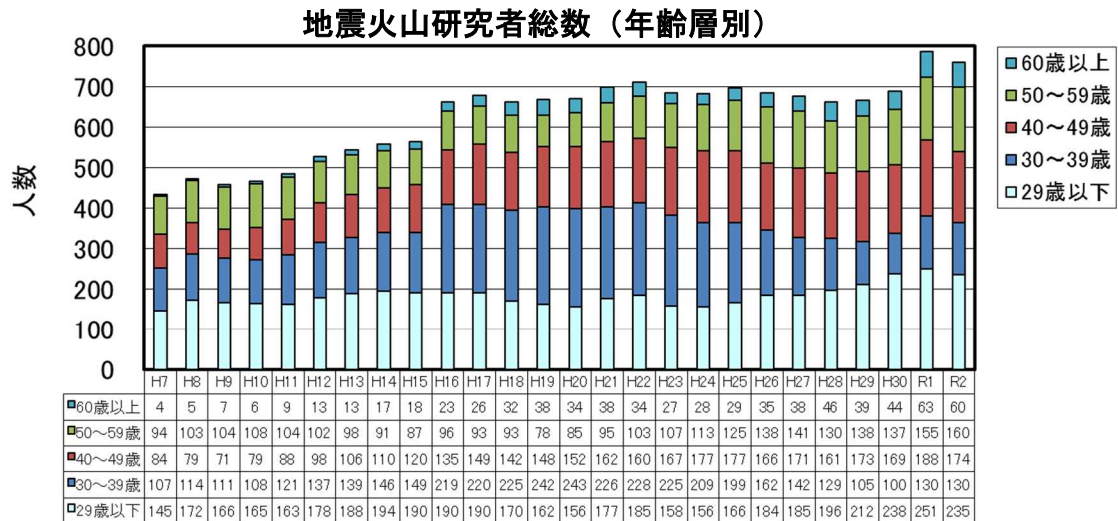
※ 東海大学は平成30年度まで。

※ 国立大学法人等の地震火山研究者は大学院生（博士課程、修士課程）を含む。

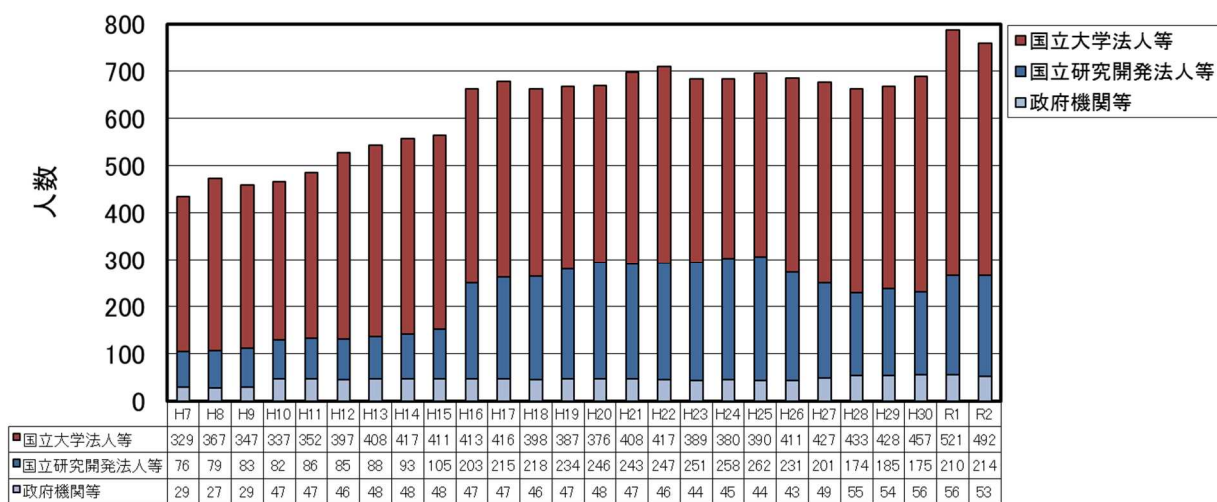
※ 途中で算出方法の見直し等を行っている機関がある。

※ データの精査により、過去の公表値から変更が生じているものがある。

2-1. 研究者総数（政府機関等、国立研究開発法人等、国立大学法人等）



地震火山研究者総数（機関別）



2-2. 政府機関等の研究者数

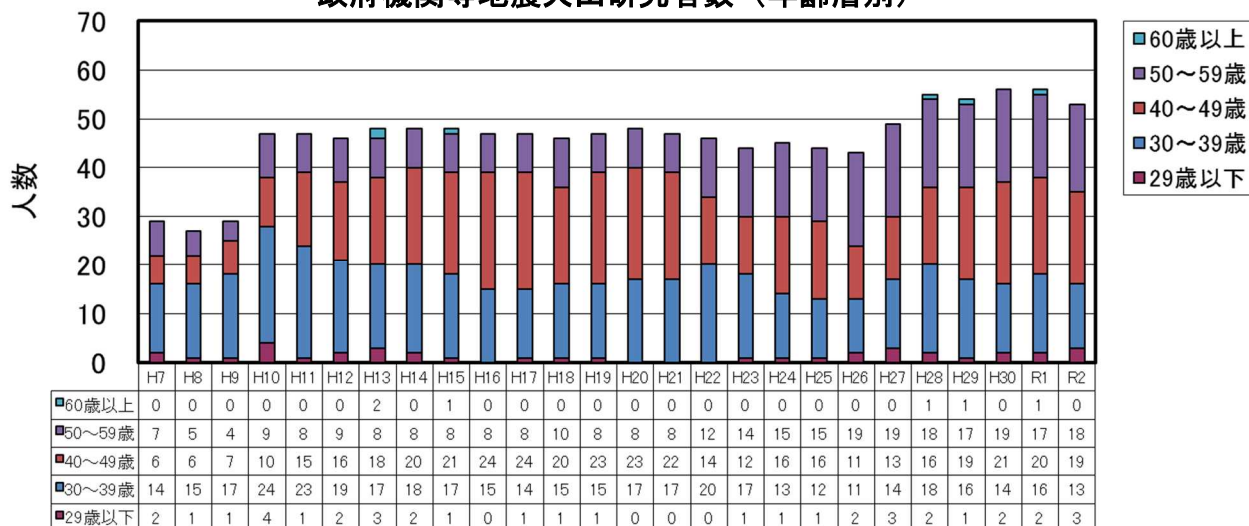
※地震火山観測研究計画の実施機関のうち、国土地理院、気象庁、海上保安庁、山梨県富士山科学研究所における、地震火山研究者数の推移（平成7年度以降）

※平成27年度より山梨県富士山科学研究所が参加。

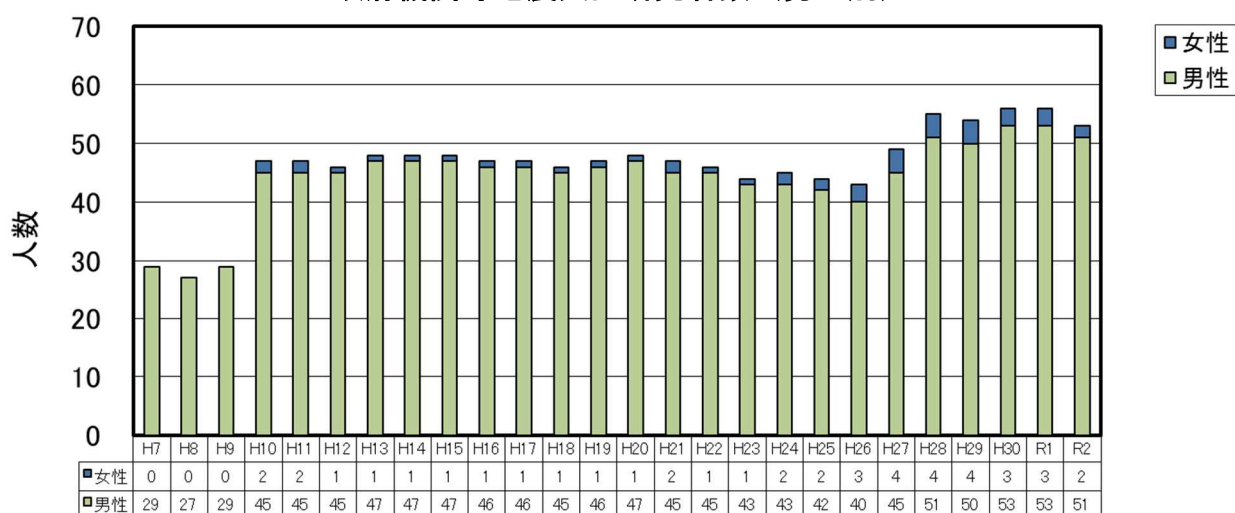
※政府機関は一般給与法における研究職の人数。

※国土地理院は平成10年度から研究職を設置。

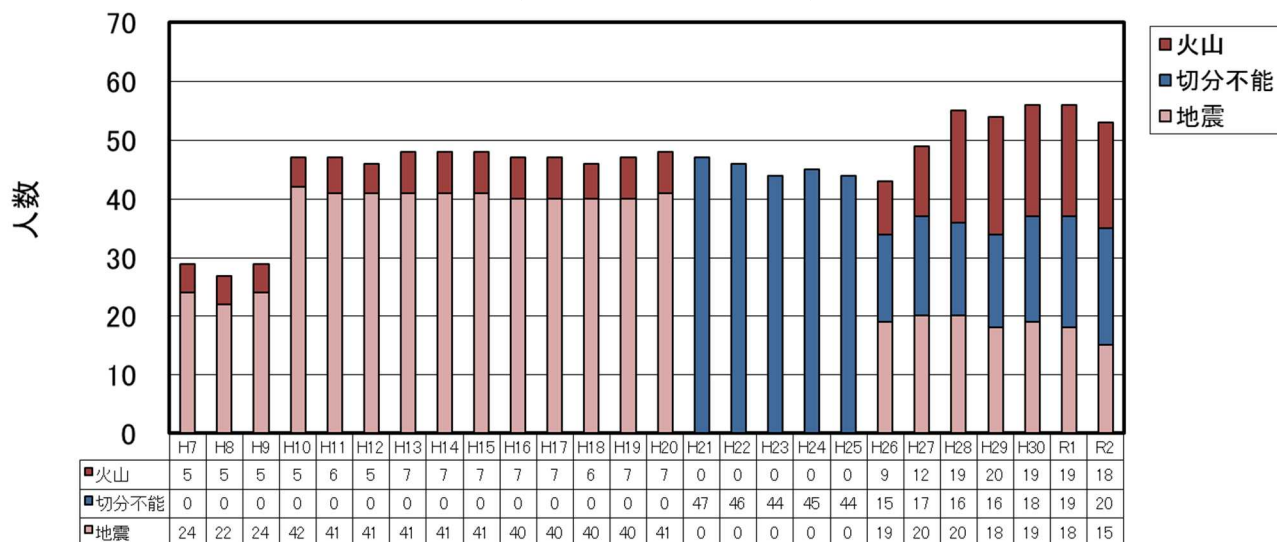
政府機関等地震火山研究者数（年齢層別）



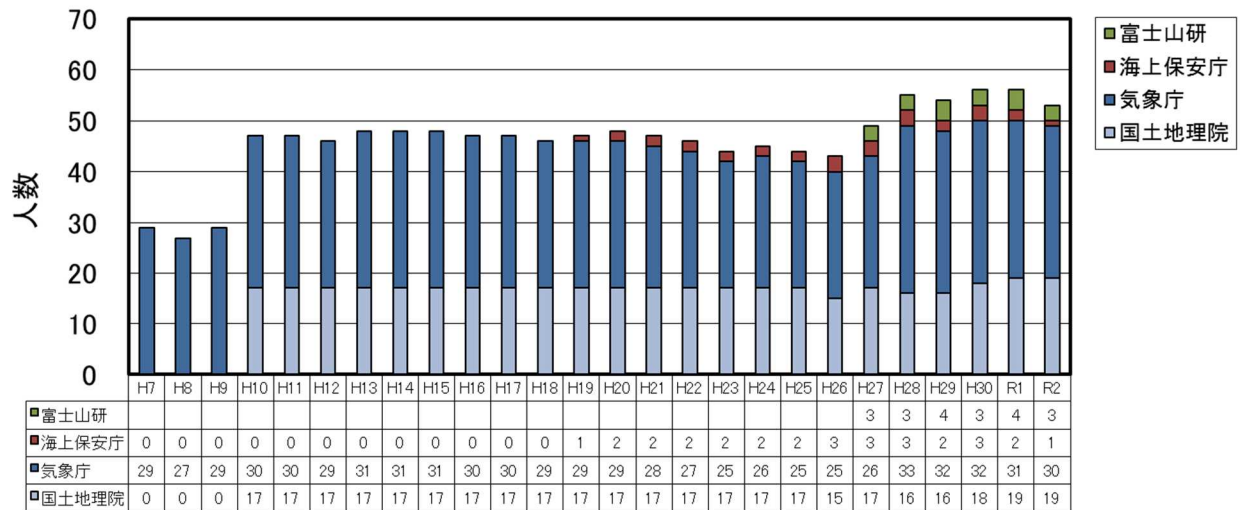
政府機関等地震火山研究者数（男女別）



政府機関等地震火山研究者数（地震・火山別）



政府機関等地震火山研究者数（機関別）



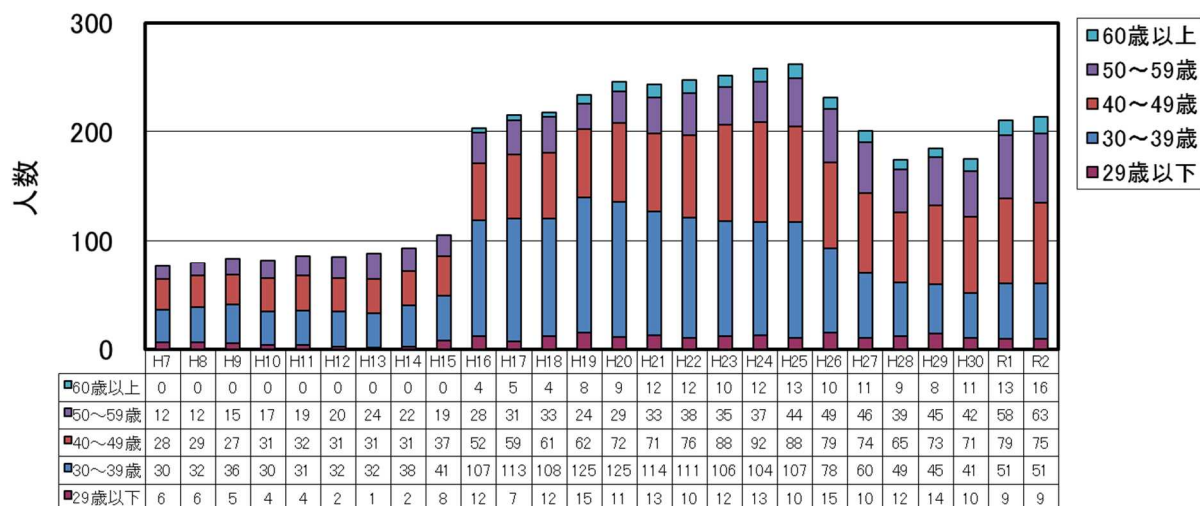
2-3. 国立研究開発法人等の研究者数

※地震火山観測研究計画の実施機関のうち、情報通信研究機構、防災科学技術研究所、海洋研究開発機構、産業技術総合研究所、北海道立総合研究機構における、地震火山研究者数の推移（平成7年度以降）

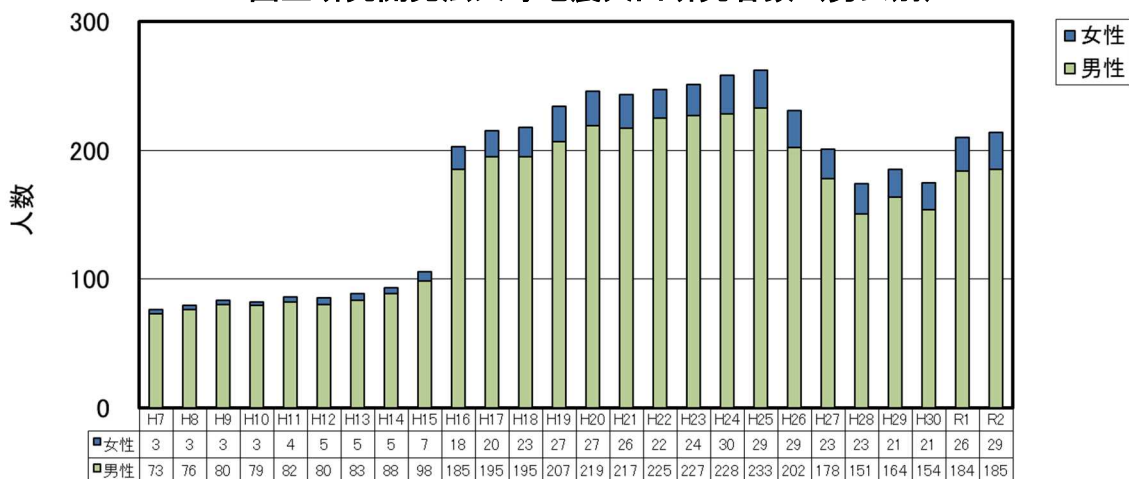
※平成16年度より海洋研究開発機構、平成27年度より北海道立総合研究機構が参加。

※海洋研究開発機構において平成26年度に実施課題の再編を行い、研究者の対象範囲について掘削等の研究者を除く見直しを行ったため、研究者数が減少している。

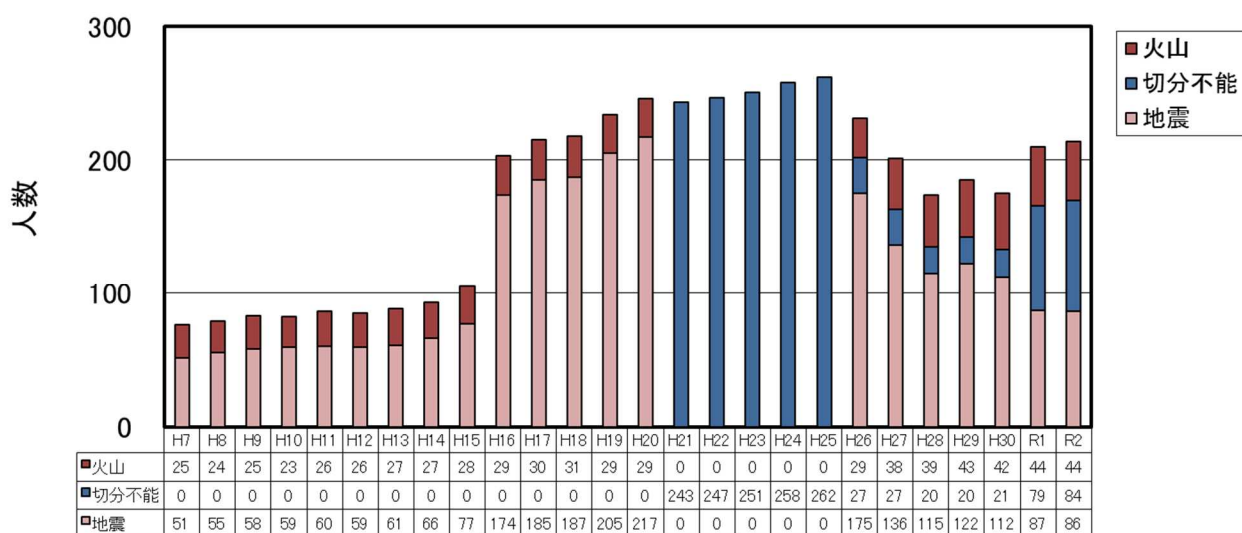
国立研究開発法人等地震火山研究者数（年齢層別）



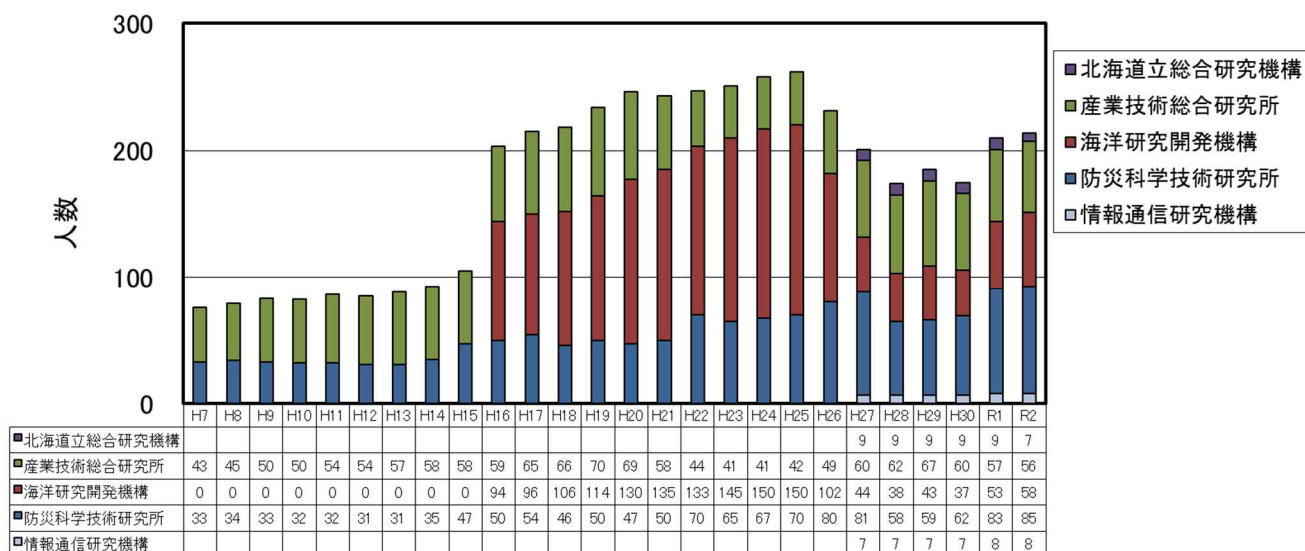
国立研究開発法人等地震火山研究者数（男女別）



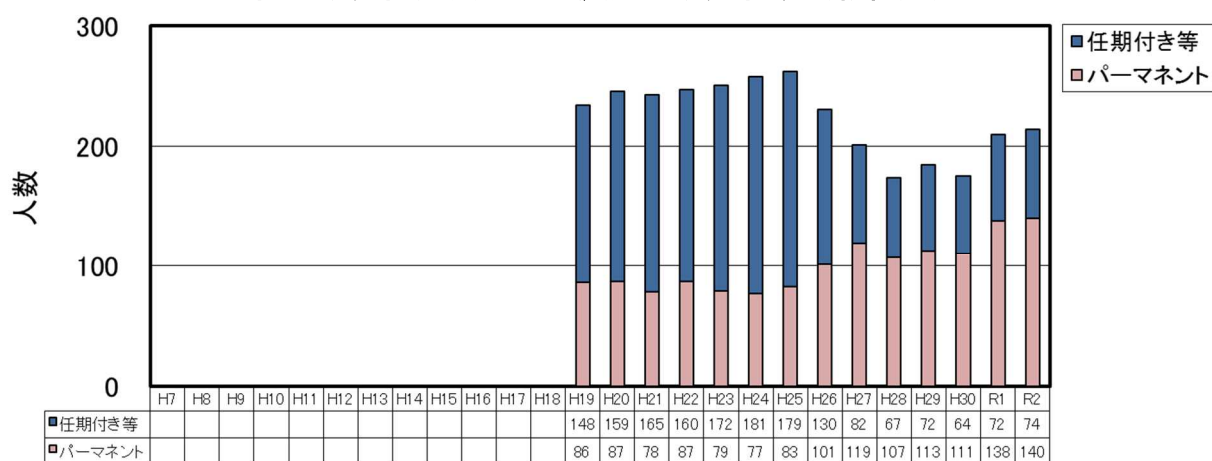
国立研究開発法人等地震火山研究者数（地震・火山別）



国立研究開発法人等地震火山研究者数（機関別）



国立研究開発法人等地震火山研究者数（職種別）



2-4. 国立大学法人等の研究者数

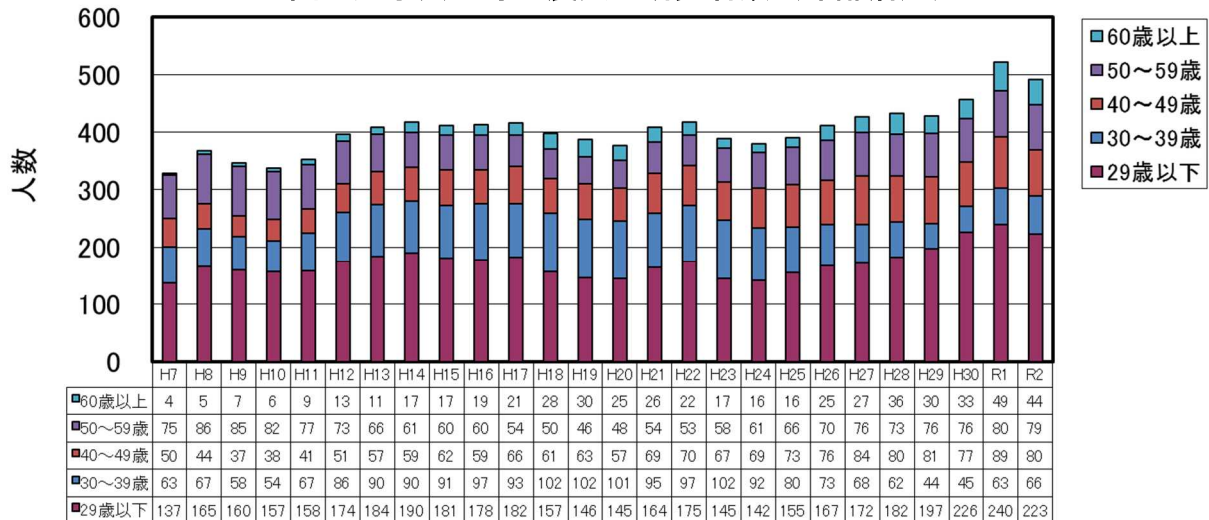
※地震火山観測研究計画の実施機関のうち、国立大学法人及び立命館大学、東海大学、兵庫県立大学、奈良文化財研究所における、地震火山研究者数の推移（平成7年度以降）

※国立大学は平成16年度から法人化。

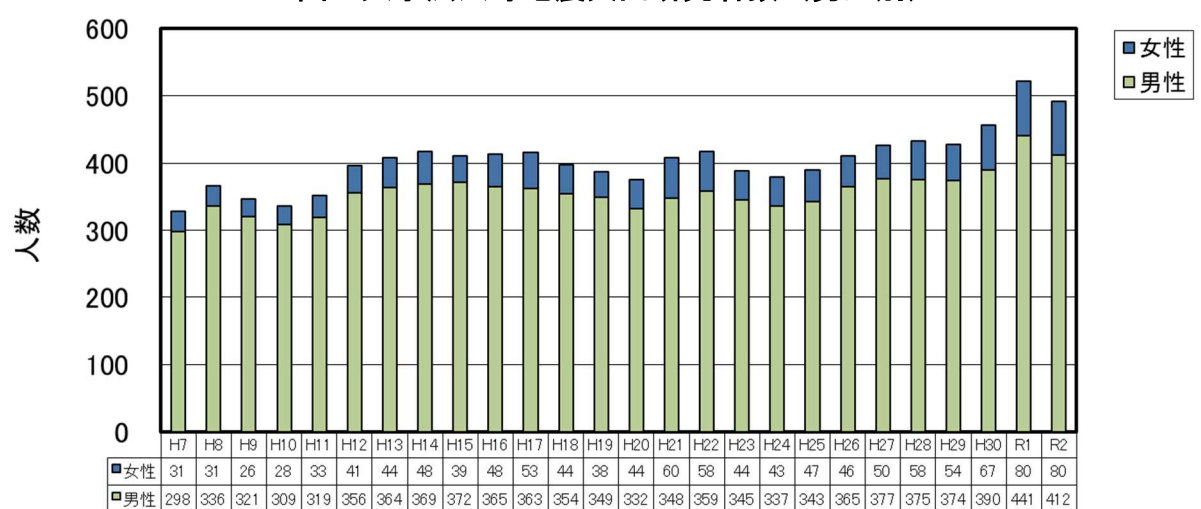
※平成21年度より立命館大学・東海大学が参加。平成27年度より東京大学大気海洋研究所、平成31年度から、東北大学災害科学国際研究所、千葉大学、東京大学大学院情報学環、東京大学地震火山史料連携研究機構、新潟大学、富山大学、神戸大学、兵庫県立大学が参加。東海大学は平成30年度まで。

※国立大学法人等の地震火山研究者は、パーマナント研究者（教授、准教授、講師、助教等）、任期付き研究者（ポスト含む）、大学院生（博士課程、修士課程）を集計。

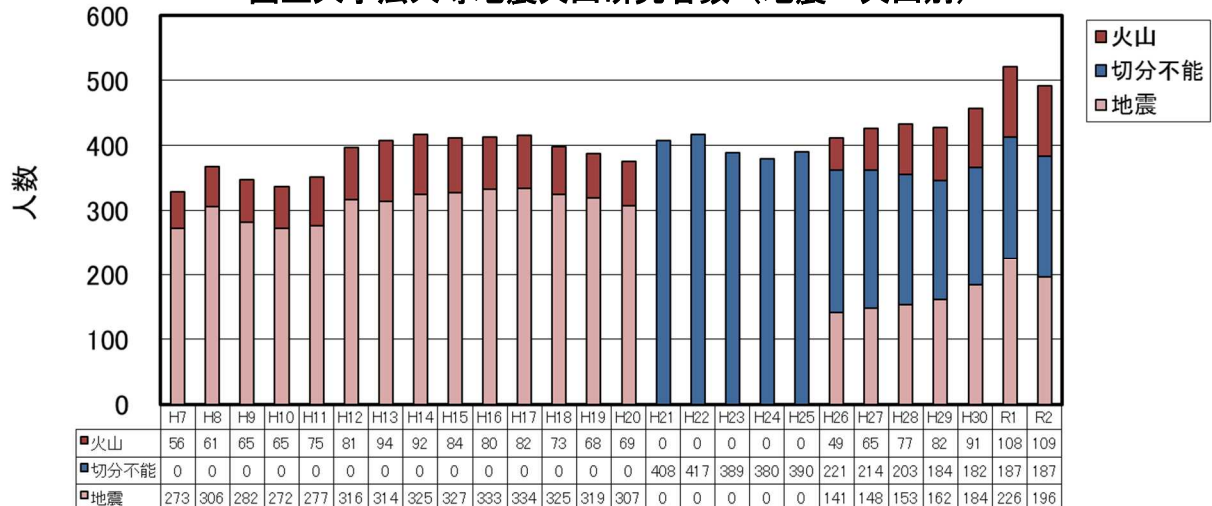
国立大学法人等地震火山研究者数（年齢層別）

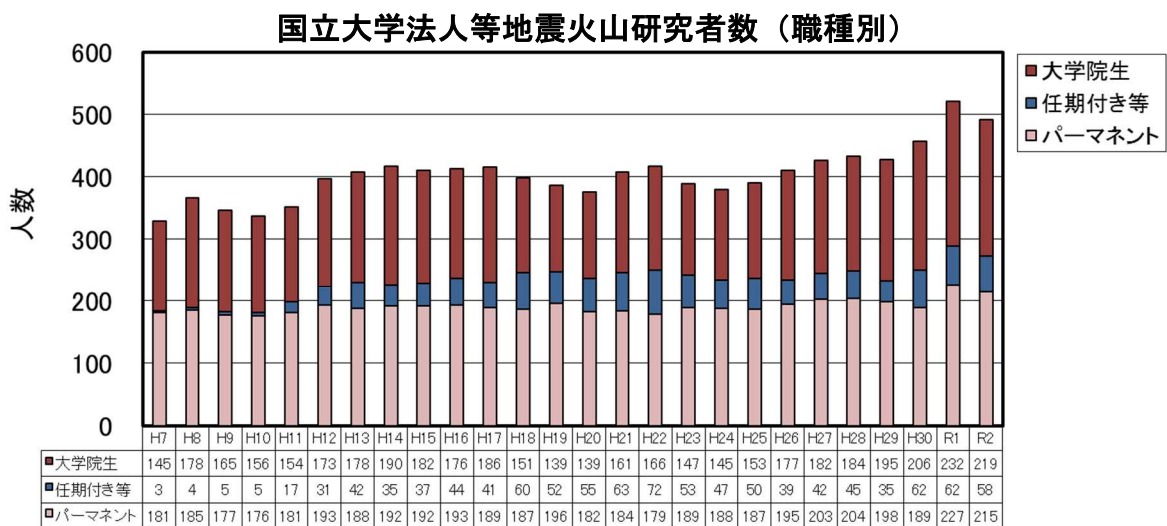


国立大学法人等地震火山研究者数（男女別）

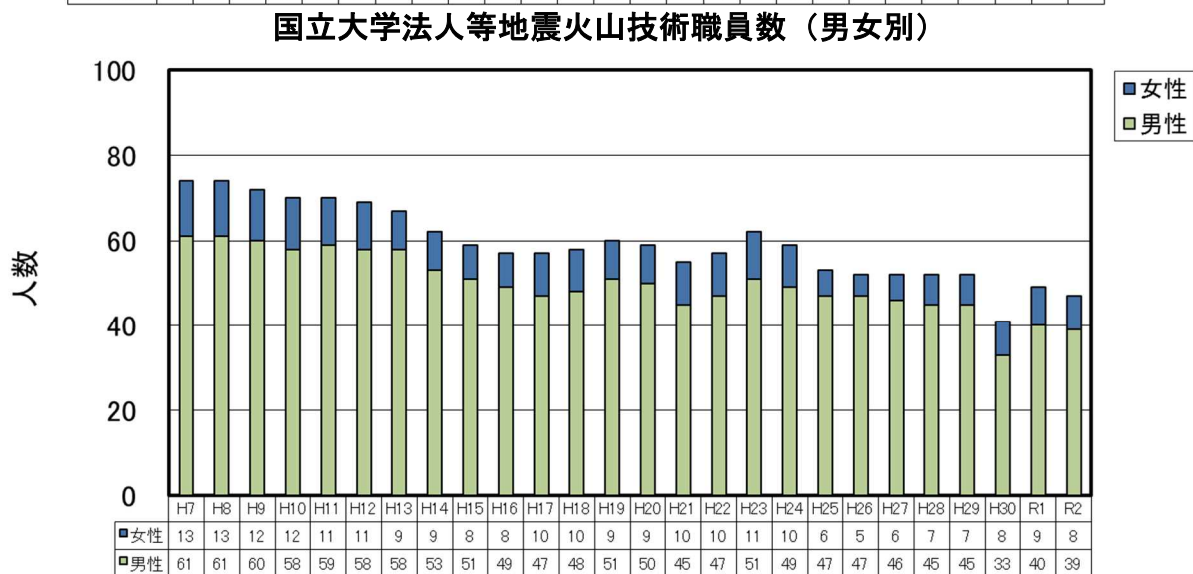
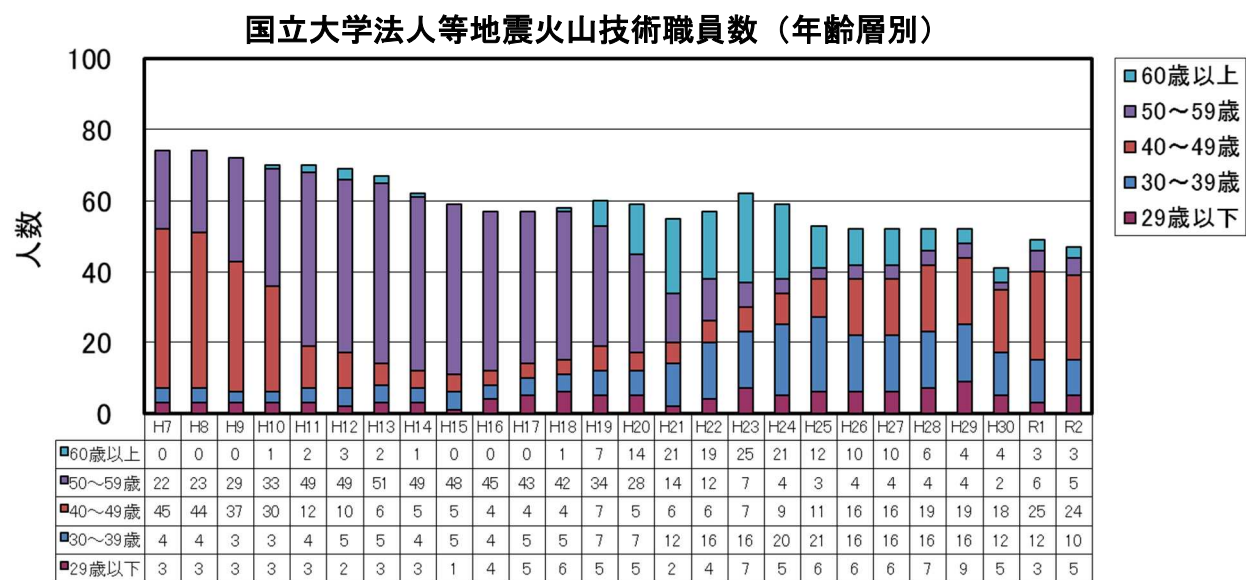


国立大学法人等地震火山研究者数（地震・火山別）





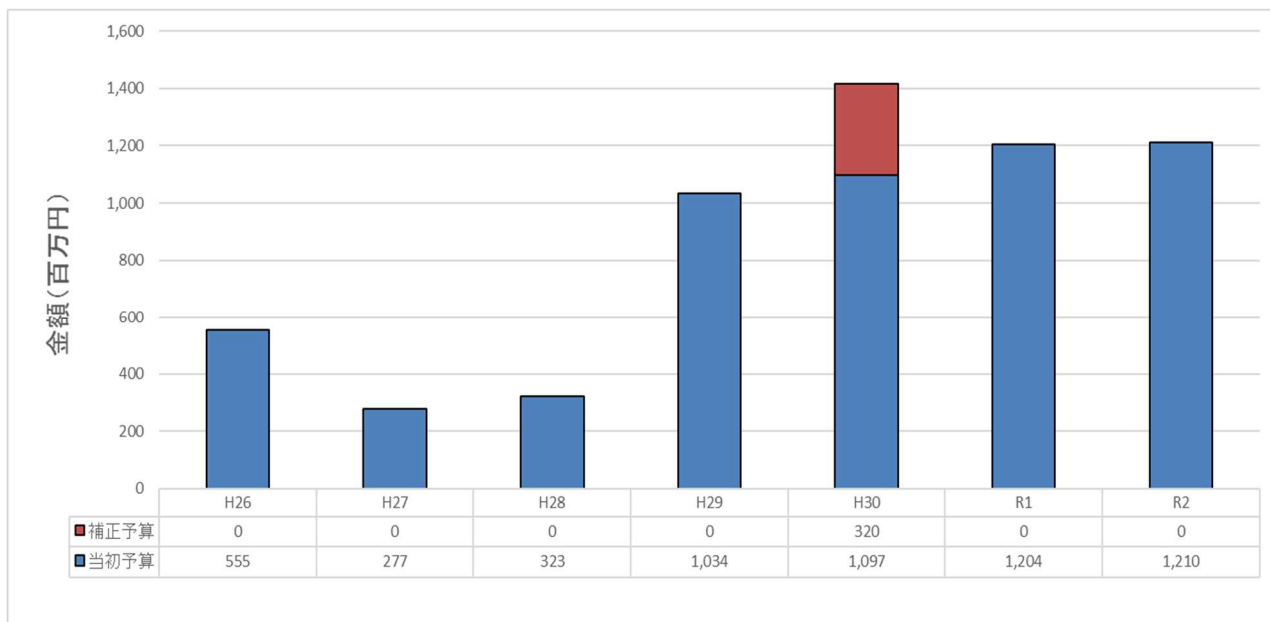
2-5. 国立大学法人等の技術職員数



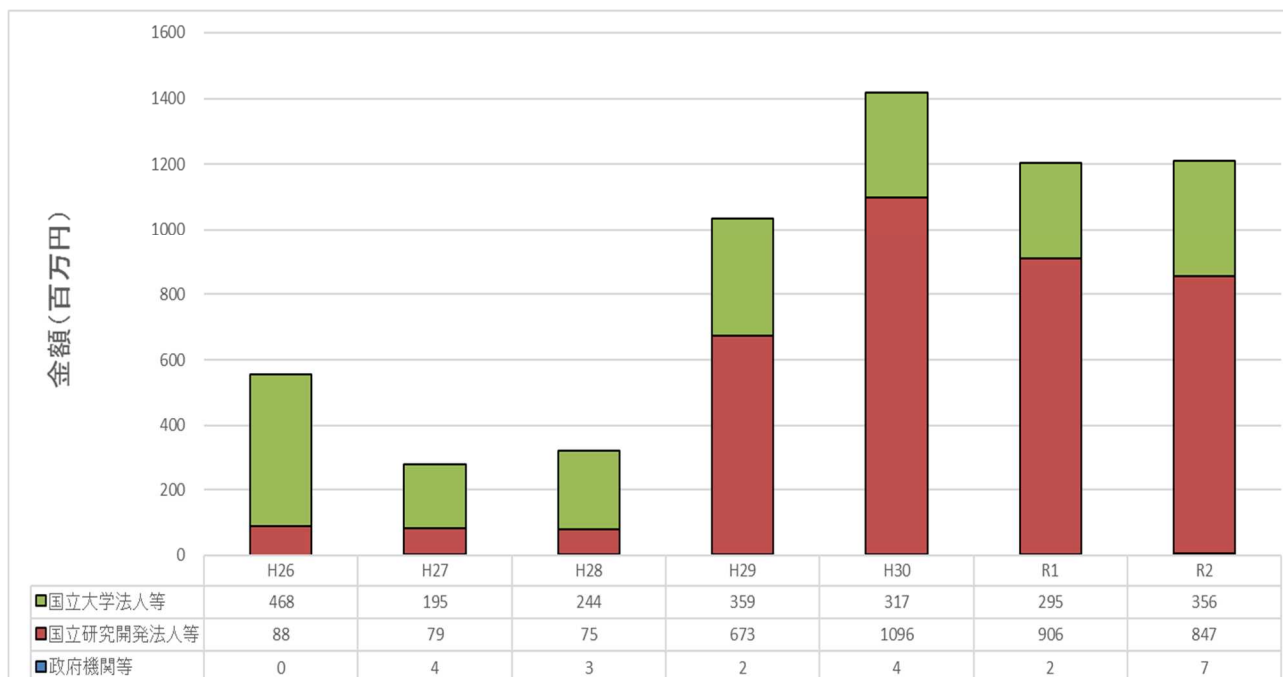
3. 関連分野研究予算

地震火山観測研究計画の実施機関における、平成26年度以降の関連分野研究予算の推移を示す。

関連分野研究予算 総額（当初予算・補正予算等別）



関連分野研究予算 総額（機関別）

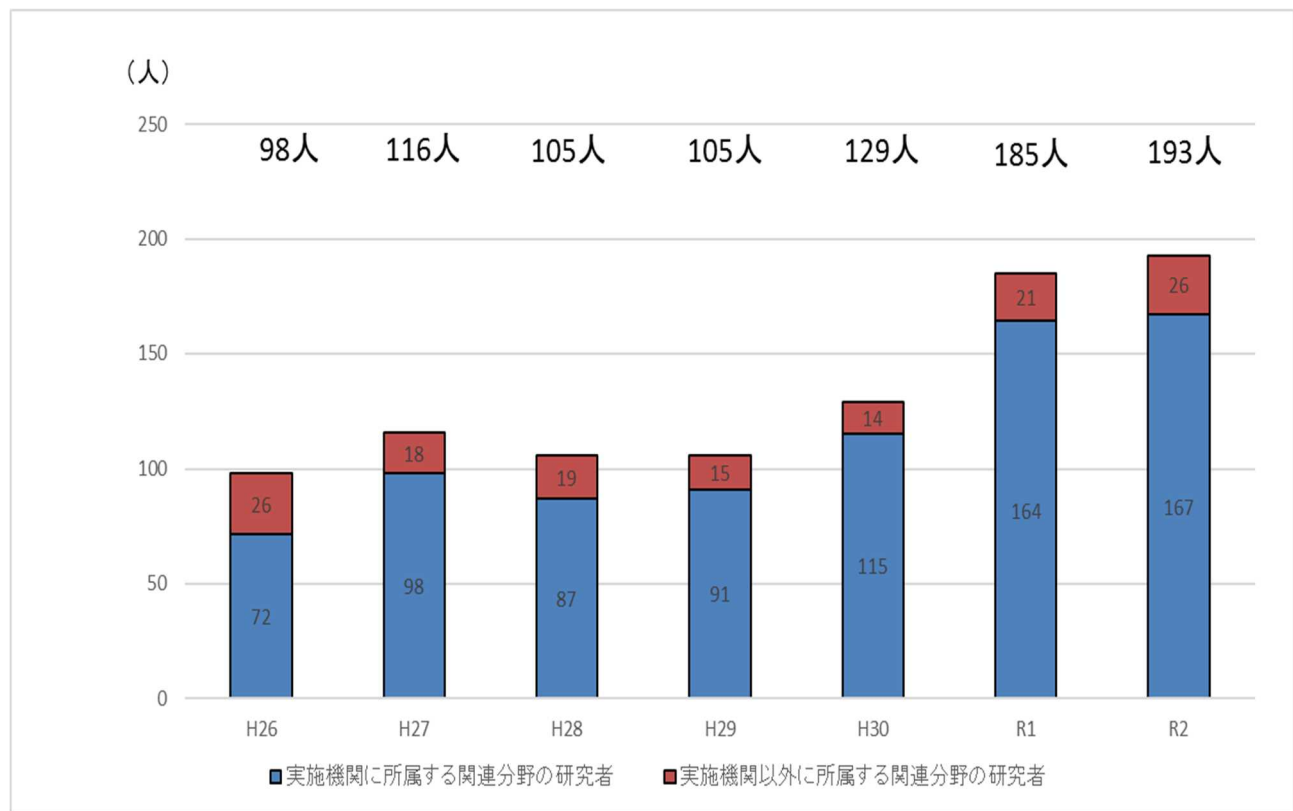


4. 関連分野研究者数

地震火山観測研究計画に関連した、分野融合による関連分野の研究者数を示す（大学院生を含む）。

※実施機関以外に所属する関連分野の研究者は、分野融合の公募課題に参加している研究者数を集計

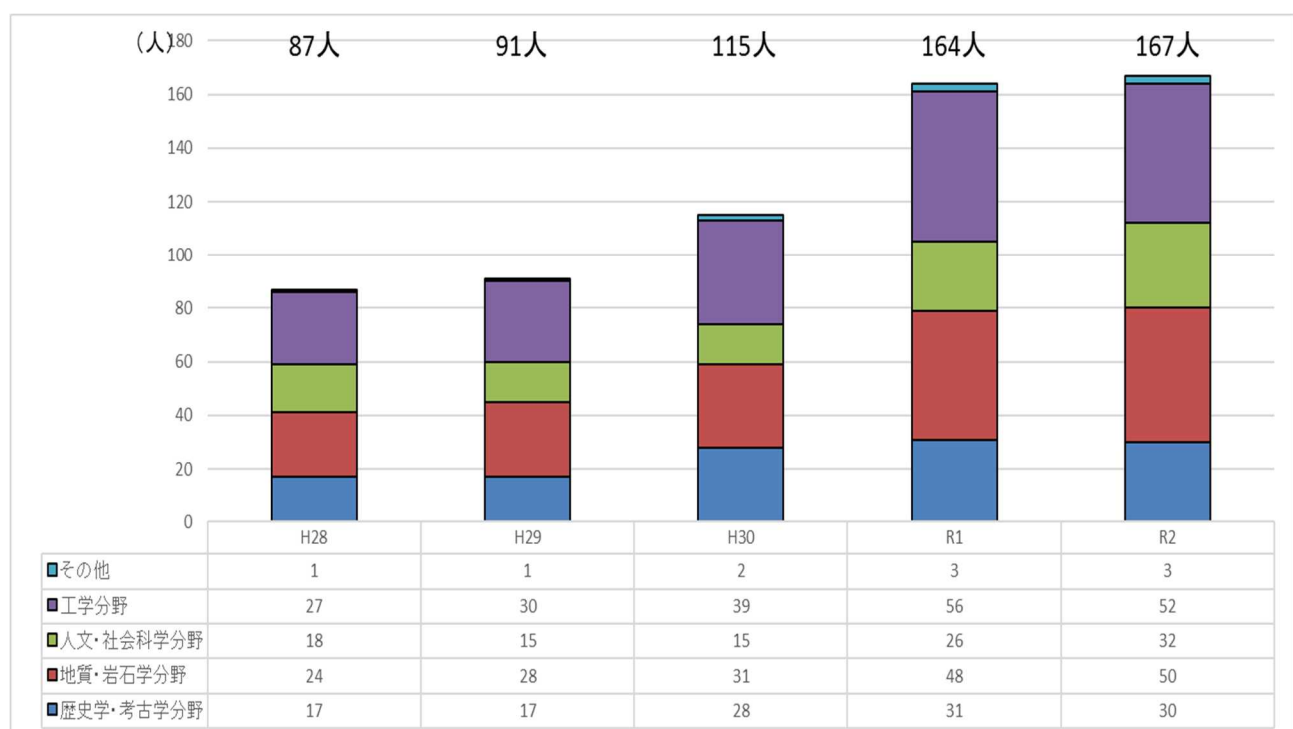
○関連分野の研究者総数



○関連分野研究者の分野別内訳 ※平成 28 年度以降集計

地震火山観測研究計画の実施機関に所属する関連分野の研究者の分野別内訳。

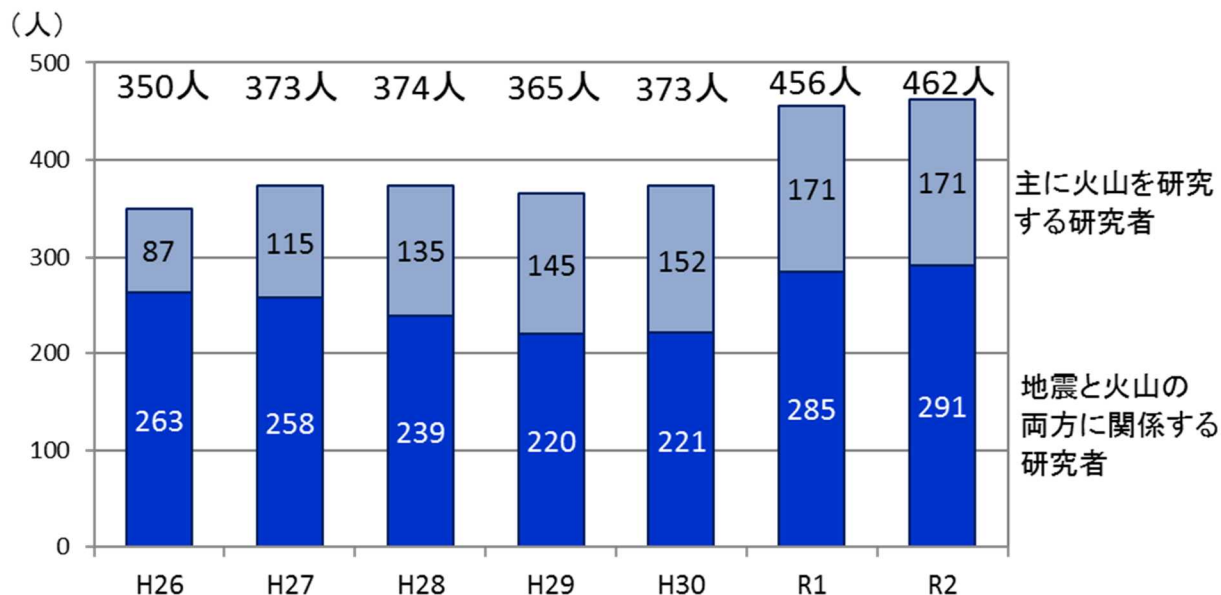
※その他は情報学分野など



5. 火山関係研究人材

地震火山観測研究計画の実施機関に所属する、火山研究者の総数を示す。

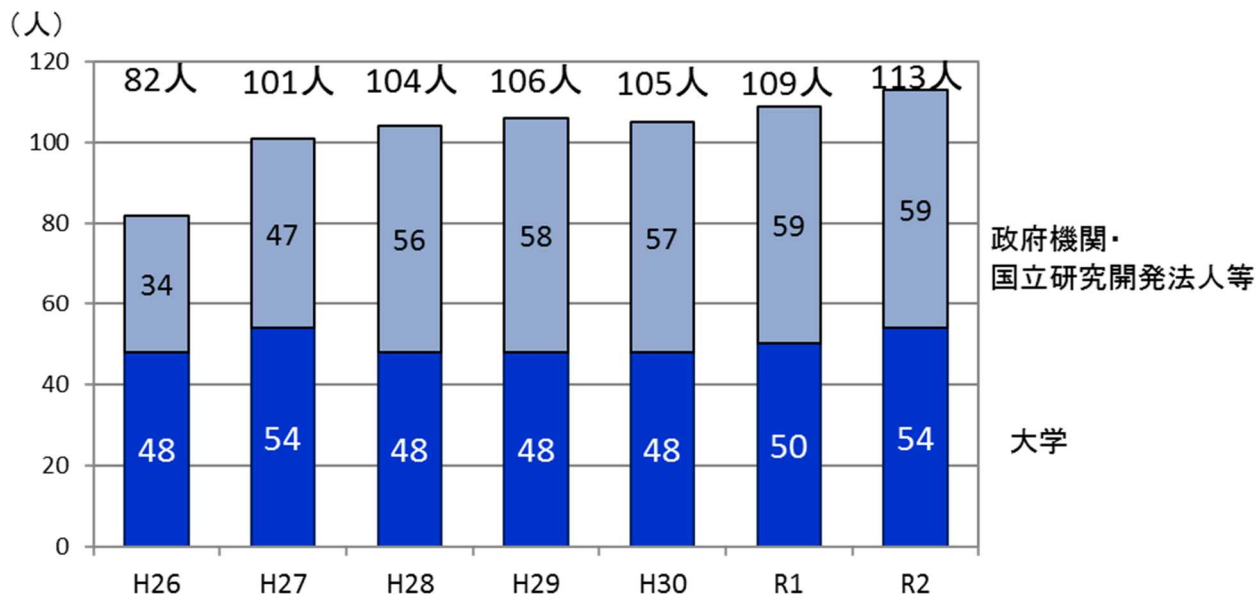
(1) 火山研究者総数



※研究者には、任期付き研究員、大学院生を含む。

(2) 火山噴火予測研究者総数

(1)の火山研究者のうち、観測点の維持・管理にも携わりながら火山噴火研究を実施している研究者。



※大学の研究者は、教授・准教授・講師・助教・任期付き研究員を集計。

※地震と火山の両方に関する研究者を含む。

23-2. 予算及び機構定員整備状況（地震予知計画）

〔単位：百万円〕

		科 学 技 術 庁		文 部 省	通 商 産 業 省		運 輸 省		建 設 省	郵 政 省	
		研究開発局	防災科学技術研究所（注1）	国立大学等	工業技術院地質調査所	工業技術院計量研究所	海上保安庁	気象庁	国土地理院	通信総合研究所	
昭和40～43年度	予算	-	-	444	4	-	49	344	307	-	
	機構定員		〔整備〕 第2研究部（地震防災研究室）	〔新設〕 北海道（浦河地震観測所） 東北（秋田地殻変動観測所、本荘地震観測所、三陸地殻変動観測所） 東京（弥彦地殻変動観測所、地震活動研究部門、地震予知観測センター、柏崎微小地震観測所、白木微小地震観測所、強震計観測センター、地盤動力学研究部門） 名古屋（犬山微小地震観測所、犬山地殻変動観測所） 京都（上宝地殻変動観測所、地震予知計測研究部門、逢坂山地震観測所、耐震基礎研究部門、屯鶴峰地殻変動観測所） 高知（高知地震観測所） 〔整備〕 東北（青葉山地震観測所） 東京（筑波地震観測所、津波高潮研究部門、堂平微小地震観測所、岩石学研究部門、地震予知観測センター） 名古屋（犬山地震観測所） 京都（阿武山地震観測所）		〔改組〕 地質情報研究部門地質調査情報センター		〔整備〕 地震観測（大阪）	〔新設〕 水沢測地観測所		
昭和44～48年度	予算	-	572	867	84	-	61	1,487	937	-	
	機構定員			〔新設〕 北海道（襟裳岬地殻変動観測所、札幌地震観測所） 東北（北上地震観測所） 東京（富士川地殻変動観測所、ハケ岳地磁気観測所） 名古屋（高山地震観測所、三河地殻変動観測所） 京都（逢坂山地震変動観測所、北陸微小地震観測所、徳島地震観測所、防災科学資料センター、地震予知観測地域センター、微小地震研究部門） 〔整備〕 北海道（浦河極微小地震移動観測班） 東北（青葉山地震観測所） 東京（地球物理研究施設極微小地震移動班） 名古屋（犬山地震観測所） 京都（鳥取微小地震観測所） 高知（高知地震観測所）				〔整備〕 地震観測施設（札幌、仙台、父島、福岡、沖縄）	〔新設〕 地殻活動調査室 〔整備〕 計算係 解析係 計測係		
		科 学 技 術 庁			文 部 省	通 商 産 業 省		運 輸 省		建 設 省	郵 政 省
		研究開発局	防災科学技術研究所（注1）	海洋技術センター	国立大学等	工業技術院地質調査所	工業技術院計量研究所	海上保安庁	気象庁	国土地理院	通信総合研究所
昭和49～53年度	予算	9	1,882	-	3,023	288	46	55	4,255	3,274	-
	機構定員		〔新設〕 第2研究部（首都圏地震予知研究室、地震地下水研究室、地震活動研究室、地殻変動研究室） 〔改組〕 第2研究部（総合地震予知研究室）		〔新設〕 北海道（地震予知観測地域センター） 東北（地震予知観測センター） 東京（地殻化学実験施設） 名古屋（地震予知観測地域センター） 京都（宮崎地殻変動観測所） 〔整備〕 北海道（札幌地震観測所） 東北（地震予知観測センター） 名古屋（地震予知観測地域センター）	〔新設〕 地震地質課 地震物性課 地震化学課		〔新設〕 地震予知情報室 〔整備〕 地震活動検測センター 地殻岩石歪観測網 地震常時監視 地震防災業務	〔新設〕 地殻調査部 地殻変動解析室 〔整備〕 特定観測係 機器開発係		

		科 学 技 術 庁			文 部 省	通商産業省		運 輸 省		建 設 省	郵 政 省
		研究開発局	防災科学技術研究所（注1）	海洋技術センター	国立大学等	工業技術院地質調査所	工業技術院計量研究所	海上保安庁	気象庁	国土地理院	通信総合研究所
昭和54年度	予算	29	6,258	130	8,574	840	20	379	5,327	8,443	1,098
	機構定員		〔新設〕 第2研究部 （地殻力学研究室） 〔整備〕 第2研究部 （地殻変動研究室、地震活動研究室、地表力学研究室）		〔新設〕 北海道 （海底地震観測施設） 弘前 （地震火山観測所） 東京 （地震予知観測情報センター、地球テクトニクス研究部門） 〔整備〕 北海道 （地震予知観測地域センター） 東北 （地震予知観測センター） 東京 （地殻化学実験施設、地震予知観測情報センター） 京都 （地震予知観測センター、上宝地殻変動観測所、鳥取微小地震観測所） 高知 （高知地震観測所）				〔新設〕 地震予知情報課 〔整備〕 地殻岩石歪観測網 海底地震常時監視 （本庁、御前崎、気象研） 地震予知研究 （気象研） 地震防災業務 （津、甲府、長野、熊谷、水戸、岐阜） 東海地震予知のための常時監視 群列地震観測 地震津波監視 （仙台、札幌、大阪） 地震業務全国中枢強化 直下型地震予知研究 （気象研） 府県地震業務 （室蘭、福島、長野）		
		科 学 技 術 庁			文 部 省	通商産業省		運 輸 省		建 設 省	郵 政 省
		研究開発局	防災科学技術研究所（注1）		国立大学等	工業技術院地質調査所		海上保安庁	気象庁	国土地理院	通信総合研究所
昭和59年度	予算	25	4,503		8,540	732		126	5,186	8,071	3,072
	機構定員		〔新設〕 第2研究部 （地震前兆解析研究室） 〔整備〕 第2研究部 （地震活動研究室）		〔新設〕 東京 （信越地震観測所） 〔改組〕 東北 （地震予知・噴火予知観測センター） 九州 （島原地震火山観測所） 〔整備〕 北海道 （海底地震観測施設） 東京 （地殻化学実験施設） 名古屋 （地震予知観測地域センター）				〔新設〕 地震火山部 〔整備〕 地震業務 直下型地震予知研究 （気象研） 地震津波監視 （札幌、仙台、大阪、福岡、沖縄） 地震常時監視 海底地震観測 （勝浦） 全国地震津波業務 地震火山管理業務 国際地震津波業務 地震総合監視 地震測器機能標準化 地震機動観測 府県地震業務 （釧路、盛岡、秋田、山形、新潟、彦根、奈良、京都、神戸、松江、下関、松山、大分、宮崎）	〔整備〕 海岸昇降情報係	
平成元年度	予算	25	9,177		9,502	620		129	6,947	8,115	2,063
	機構定員		〔新設〕 地震予知研究センター （直下型地震予知研究室、海溝型地震予知研究室） 〔改組〕 地圏地球科学技術研究部 （地震・噴火予知研究調査官、地球化学研究室） 〔整備〕 第2研究部 （地殻変動研究室）		〔新設〕 東京 （地球ダイナミクス研究部門） 〔改組〕 東北 （日本海地域地震火山観測所、三陸地域地震火山観測所） 名古屋 （地震火山観測地域センター） 京都 （地震予知研究センター） 鹿児島 （南西島弧地震火山観測所） 〔整備〕 北海道 （地震予知観測地域センター） 東京 （地殻化学実験施設、地震予知観測情報センター） 名古屋 （地震火山観測地域センター） 九州 （島原地震火山観測所）				〔新設〕 地震火山課（福岡） 〔整備〕 強震計データ解析 地震予知資料解析 震度計計測 地震予知技術 地震津波業務 発震機構解析 地殻活動調査 地震津波監視 （札幌、大阪、福岡、沖縄） 府県地震業務 （旭川、函館、青森、富山、金沢、福井、鳥取、佐賀、長崎、熊本、石垣島）	〔整備〕 連続監視係	

		科 学 技 術 庁		文 部 省	通商産業省	運 輸 省		建設省	郵 政 省	
		研究開発局	防災科学技術研究所（注1）	国立大学等	工業技術院 地質調査所	海上保安庁	気象庁	国土地理院	通信総合 研究所	
平成6510年度	予算	22,884	13,868	11,983	1,725	502	10,747	9,186	7,756	
	機構 定員	〔新設〕 地震調査研究 課 〔改組〕 地震調査研究センター （直下型地震調査研究室、海 溝型地震調査研究室、第1地 震前兆解析研究室）	〔新設〕 地震調査研究センター （第2地震前兆解析研究室） 〔改組〕 地震研究所 共同利用研究所への改組） 京都 （防災研究所 共同利用研究所への改組） 北海道 （地震火山研究観測センター） 〔整備〕 弘前 （地震火山観測所） 東京 （地殻化学実験施設）	〔改組〕 東北 （地震・噴火予知研究観測センター） 東京 （地震研究所 共同利用研究所への改組） 北海道 （地震火山研究観測センター） 〔整備〕 弘前 （地震火山観測所） 東京 （地殻化学実験施設）	〔新設〕 活断層・地震予 知特別研究室 地殻地質部 （活断層研究 室、地震物性研 究室、変動解析 研究室）	〔整備〕 海洋調査研究 地殻変動監視 精密海底反射 強度観測・解 析 〔整備〕 津波波高予測 地震機動観測 全国地震活動情報 関係機関データ集中・監 視 （本庁、札幌、仙台、大 阪、福岡） 府県地震業務 （網走、稚内、徳島） 管区地震防災 （札幌） 震度情報提供 （本庁、札幌、仙台、大 阪、福岡、沖縄） 量の津波予報提供 （本庁、札幌、仙台、大 阪、福岡、沖縄） 東海地震予知業務	〔新設〕 地震情報企画官 地震情報官 （札幌、仙台、大阪、福 岡） 地震火山課 （札幌、仙台、大阪、沖 縄） 〔整備〕 津波波高予測 地震機動観測 全国地震活動情報 関係機関データ集中・監 視 （本庁、札幌、仙台、大 阪、福岡） 府県地震業務 （網走、稚内、徳島） 管区地震防災 （札幌） 震度情報提供 （本庁、札幌、仙台、大 阪、福岡、沖縄） 量の津波予報提供 （本庁、札幌、仙台、大 阪、福岡、沖縄） 東海地震予知業務	〔新設〕 測地観測センター 地理地殻活動研究 センター 地殻情報管理官 （東北、中部、近 畿） 〔整備〕 地震調査官 情報管理係	〔新設〕 時空技術研究室 第六研究チーム 〔改組〕 時空計測研究室 時空技術研究室	
平成11515年度	予算	6,921 （注2）	24,796	9,517	2,358	1,470	12,201	14,283	304 （注4）	
	機構 定員		〔新設〕 防災研究データセンター （基盤的地震観測データ室）	〔改組〕 名古屋 （地震火山観測研究センター） 九州 （地震火山観測研究センター）		〔整備〕 海洋調査研究 地殻変動監視 精密海底反射 強度観測・解 析 〔整備〕 評価解析官 〔整備〕 量の津波予報提供 （札幌、仙台、大阪、福 岡、沖縄） 関係機関データ集中・監 視 （札幌、仙台、大阪、福 岡） 東海地震予知業務 府県地震業務 （鹿児島）	〔新設〕 地殻情報管理官 （北海道）			
	（注3）	文 部 科 学 省			経済産業省	国 土 交 通 省		総 務 省		
	機構 定員	〔改組〕 地震・防災研 究課	〔新設〕 防災研究情報センター 固体地球研究部門 防災基礎科学技術研究部門 特定プロジェクトセンター 地震防災フロンティア研究セ ンター	〔改組〕 名古屋 （地震火山・防災研究センター）	〔新設〕 活断層研究セン ター 地球科学情報研 究部門 海洋資源環境研 究部門 成果普及部門地 質調査情報部	〔改組〕 海洋情報部 〔整備〕 海底地殻変動 観測担当 〔整備〕 関係機関データ集中・監 視 （本庁） 府県地震業務 （高知） 長期評価情報の管理 面的震度分布情報提供体 制の強化 東南海・南海地震観測体 制の整備	〔新設〕 地殻情報管理官 （九州、四国） 防災調整係 〔整備〕 地震活動調査係 地殻活動監視係 海岸昇降監視係 火山活動監視係 地球変動観測係 地殻情報管理官 （中国） 防災情報管理官 （北海道、東北、 北陸、中部、近 畿、中国、四国、 九州） 防災課（関東） 防災企画係（関 東） 防災情報係（関 東） 活断層情報係 〔廃止〕 地殻情報管理官 （北海道、東北、 中部、近畿、中 国、四国、九州）	〔新設〕 精密測位技術グ ループ 宇宙電波応用グ ループ 〔改組〕 第六研究チーム 宇宙電波応用研 究室		
		研究開発局	防災科学技術 研究所	海洋研究開発 機構（注5）	国立大学法人等 （注6）	産業技術総合 研究所	海上保安庁	気象庁	国土地理院	情報通信研究 機構（注6）
平成16520年度	予算	21,250	20,824	運営費交付 金の内数	1,829 （注7）	7,098	360	17,294	13,270	運営費交付金 の内数
	機構 定員		〔改組〕 地震研究部 地震観測デー タセンター		〔改組〕 地質情報研究部 門 地質調査情報 センター	〔整備〕 第二、三、四 管区海洋調査 官 〔整備〕 即時地震情報調整官 国際地震津波情報調整官 津波予測モデル開発推進 官 〔整備〕 危機管理に即応した地震 情報提供 北西太平洋津波情報セン ター 東南海・南海地震津波予 報 東海地震危機管理（名古 屋・静岡） 緊急地震速報提供管区地 震津波防災業務（仙台、 大阪、福岡、沖縄） 日本海溝・千島海溝地震 観測 国際地震津波情報 震源破壊過程解析 東海地震予知強化 首都圏大規模地震防災 震度情報提供（本庁、札 幌、福岡）	〔新設〕 地殻活動調査係 地殻活動監視係 海岸昇降監視係 火山活動監視係 地球変動観測係 地殻情報管理官 （中国） 防災情報管理官 （北海道、東北、 北陸、中部、近 畿、中国、四国、 九州） 防災課（関東） 防災企画係（関 東） 防災情報係（関 東） 活断層情報係 〔廃止〕 地殻情報管理官 （北海道、東北、 中部、近畿、中 国、四国、九州）	〔新設〕 電磁波計測研究 センター電波計 測グループ		

注1 防災科学技術研究所は本計画を推進するため以外の地震研究予算額を含む。

注2 研究開発局は、平成10年以前は本計画に係る事業の経費も計上していたのだが、平成11度以降から集計方法を変更し、本計画に係る事業のみを計上した。

注3 平成13年1月6日に省庁再編が行われ、また、同年4月1日には一部機関（※）が独立行政法人化した。

注4 情報通信研究機構は、独立行政法人化により予算額が「運営交付金の一部」として支給されたため、平成12年度までの額。

注5 海洋研究開発機構については、平成16年度から参加。

注6 平成16年度から、国立大学については法人化し、通信総合研究所については情報通信研究機構へ組織変更。

注7 国立大学法人では、平成16年の法人化以降は、直接的に本計画を推進するために使われる特別経費（特別研究経費）のみを計上した。（従来は、施設整備費や装置維持費の間接的な経費も含まれていたが、法人化以降はこれらの経費は他の経費と一括して運営費交付金として配分されるようになり、その使途は大学独自の判断でできることとなったため、本計画に関連する経費のみを正確に算出することが不可能である。）

23-3. 予算及び機構定員整備状況（火山噴火予知計画）

〔単位：百万円〕

		科学技術庁	文部省	通商産業省	運輸省	建設省	郵政省
		防災科学技術研究所（注1）	国立大学等	工業技術院 地質調査所	海上保安庁	気象庁	国土地理院 通信総合研究所
昭和49年度	予算	-	890	22	63	647	-
	機構定員		〔新設〕 北海道 （地震予知観測地域センター，有珠火山観測所） 東京 （地殻化学実験施設） 〔整備〕 北海道 （札幌地震観測所） 東北 （地震予知観測センター） 京都 （桜島火山観測所） 九州 （島原火山観測所）			〔新設〕 火山室 〔整備〕 火山活動解析 火山研究 （気象研） 常時火山観測	
昭和54年度	予算	98	1,716	147	5	883	-
	機構定員	〔整備〕 地震防災研究室	〔新設〕 弘前 （地震火山観測所） 〔整備〕 北海道 （有珠火山観測所） 東北 （地震予知観測センター） 東京 （浅間山火山観測所，地殻化学実験施設） 京都 （火山活動研究センター，桜島火山観測所）	〔新設〕 火山地質課		〔整備〕 地域火山機動観測 （札幌，福岡） 地域火山機動観測 （仙台） 精密火山観測 （鹿児島，阿蘇山， 軽井沢） 火山研究 （気象庁）	
昭和59年度	予算	166	1,754	86	5	725	152
	機構定員	〔整備〕 地震防災研究室	〔新設〕 東京工業大学 （草津白根地震火山観測所） 〔改組〕 東北 （地震予知・噴火予知観測センター） 東京 （伊豆大島火山観測所） 九州 （島原火山観測所） 〔整備〕 北海道 （有珠火山観測所） 東京 （地殻化学実験施設）			〔新設〕 地震火山部 〔整備〕 火山防災業務 火山観測施設保守 精密火山観測 （伊豆大島） 地域火山機動観測 （仙台，福岡） 常時火山観測 （松本）	
平成元年度	予算	349	1,993	96	7	1,049	176
	機構定員	〔新設〕 火山噴火予知研究室	〔新設〕 鹿児島 （南西島弧地震火山観測所） 〔改組〕 東北 （日本海地域地震火山観測所，三陸地域地震火山観測所） 名古屋 （地震火山観測地域センター） 〔整備〕 東京 （地殻化学実験施設） 東京工業 （草津白根地震火山観測所） 名古屋 （地震火山観測地域センター） 九州 （島原地震火山観測所）		〔整備〕 火山噴火予知解析	〔新設〕 火山対策官 火山対策室 地震火山課 （福岡） 〔整備〕 地域火山機動観測 （札幌） 火山解析 火山遠隔観測 火山業務 雲仙岳火山業務 （雲仙岳，福岡） 火山機動観測 震動データ官区テレメータ （札幌，仙台）	〔新設〕 火山基本図係 火山解析係

		科 学 技 術 庁		文 部 省		通 商 産 業 省		運 輸 省		建 設 省		郵 政 省					
		防災科学技術研究所（注1）		国立大学等		工業技術院 地質調査所		海上保安庁		気象庁		国土地理院		通信総合研究所			
平成6510年度	予算	1,005		2,710		110		11		1,967		116		357			
	機構 定員	〔整備〕 火山噴火調査研究室		〔改組〕 北海道 （地震火山研究観測センター） 東北 （地震・噴火予知研究観測センター） 東京 （地震研究所 共同利用研究所への改組） 京都 （防災研究所 共同利用研究所への改組） 〔整備〕 弘前 （地震火山観測所） 東京 （地殻化学実験施設） 東京工業 （草津白根地震火山観測所） 鹿児島 （南西島弧地震火山観測所）		〔整備〕 火山地質課				〔新設〕 火山課 地震火山課 （札幌、仙台、大阪、沖縄） 〔整備〕 雲仙岳火山業務 （雲仙岳） 九重山火山業務 （大分） 航空路火山灰情報センター （東京航空地方気象台）		〔新設〕 火山調査係 測地観測センター 地理地殻活動研究センター 〔廃止〕 火山基本図係					
平成11515年度	予算	1,063		1,365		596		517		4,134		228		276 （注3）			
	機構 定員			〔改組〕 東京工業 （火山流体研究センター） 名古屋 （地震火山観測研究センター） 九州 （地震火山観測研究センター）													
	（注2）	文 部 科 学 省				経 済 産 業 省		国 土 交 通 省				総 務 省					
	機構 定員	防災科学技術研究所（注1）※		国立大学等		産業技術総合 研究所※		海上保安庁		気象庁		国土地理院		通信総合 研究所※			
		〔整備〕 プロジェクト研究 （「火山噴火予知に関する研究」 グループ）		〔改組〕 北海道 （地震火山研究観測センター） 名古屋 （地震火山・防災研究センター）		〔整備〕 地質調査総合センター （火山関連2研究 グループを整備 拡充）		〔新設〕 火山調査官		〔新設〕 火山対策官 〔整備〕 火山監視・情報センター （本庁、札幌、仙台、福岡）		〔新設〕 防災企画官 地殻情報管理官 （九州、四国） 火山観測係					
		防災科学技術 研究所（注1）	海洋研究開発 機構（注4）	国立大学法人等 （注5）		産業技術総合 研究所		海上保安庁		気象庁		国土地理院		情報通信研究 機構（注5）			
平成16520年度	予算	1,195		運営費交付金 の内数		308（注6）		205		9		2,962		261		運営費交付金 の内数	
	機構 定員	〔整備〕 プロジェクト研究 （「火山噴火予知と火山防災に関する研究」グループ（平成18年度）） 火山防災研究部 （平成18年度）								〔新設〕 火山活動評価解析官 〔整備〕 即時的被害予測 三宅島火山防災 管区火山防災（本庁、札幌、仙台、福岡） 火山噴火予知強化 （本庁、札幌）		〔新設〕 地殻活動調査係 地殻活動監視係 海岸昇降監視係 火山活動監視係 地球変動観測係 地殻情報管理官（中国） 防災情報管理官（北海道、東北、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州） 防災課（関東） 防災企画係（関東） 防災情報係（関東） 活断層情報係 〔廃止〕 地殻情報管理官（北海道、東北、中部、近畿、中国、四国、九州）					

注1 防災科学技術研究所は本計画を推進するため以外の火山研究予算額を含む。

注2 平成13年1月6日に省庁再編が行われ、また、同年4月1日には一部機関（※）が独立行政法人化した。

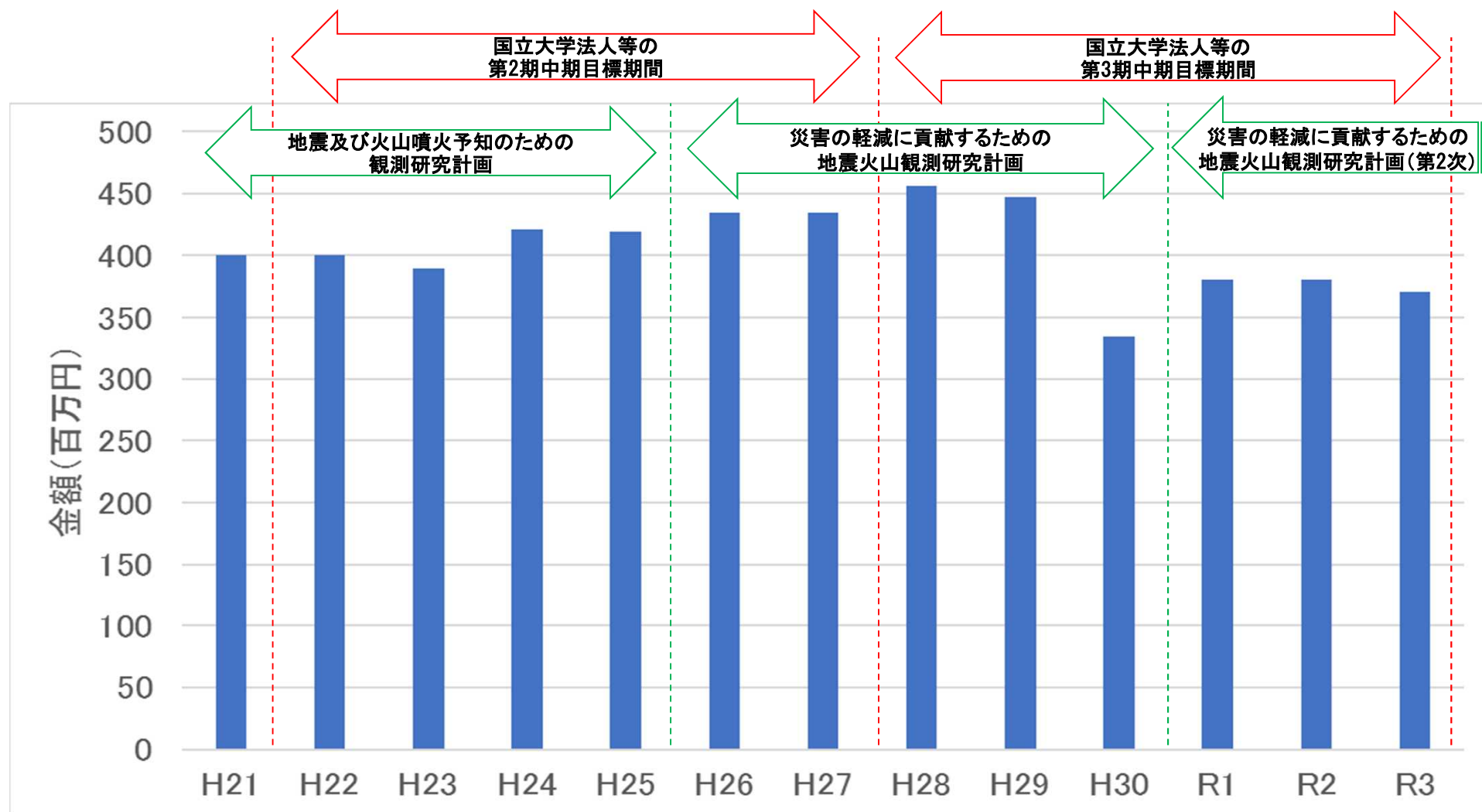
注3 情報通信研究機構は、独立行政法人化により予算額が「運営交付金の一部」として支給されたため、平成12年度までの額。

注4 海洋研究開発機構については、平成16年度から参加。

注5 平成16年度から、国立大学については法人化し、通信総合研究所については情報通信研究機構へ組織変更。

注6 国立大学法人では、平成16年の法人化以降は、直接的に本計画を推進するために使われる特別経費（特別研究経費）のみを計上した。（従来は、施設整備費や装置維持費の間接的な経費も含まれていたが、法人化以降はこれらの経費は他の経費と一括して運営費交付金として配分されるようになり、その使途は大学独自の判断でできることとなったため、本計画に関連する経費のみを正確に算出することが不可能である。）

23-4. 予算及び機構定員整備状況（地震火山観測研究計画経費の推移）



※地震火山観測研究計画経費は、「地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点」に係る運営費交付金として東京大学地震研究所に配分されており、共同利用・共同研究拠点は国立大学法人等の中期目標期間における業務実績評価の対象となっている

25. 地震火山観測研究計画に関連した主なシンポジウム、 セミナー等の開催状況

【令和2年度】

○ 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」令和2年度成果報告シンポジウム

日時：令和3年3月16日（火）9:30～3月17日（水）17:10

場所：オンライン開催

主催：東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

共催：東京大学地震研究所，京都大学防災研究所

後援：文部科学省，防災科学技術研究所，海洋研究開発機構，産業技術総合研究所地質調査総合センター，国土地理院，気象庁，海上保安庁，日本地震学会，日本火山学会，日本測地学会

参加人数：352名

○ 地震長期予測ワークショップ

日時：令和2年12月14日（月）13:30～16:30

場所：オンライン開催

主催：東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会 地震（長期予測）部会，企画部戦略室

参加人数：61名

○ 拡大計画推進部会

日時：令和2年5月26日（火）10:00～16:40

場所：オンライン開催

主催：東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会 企画部

参加人数：午前168名、午後163名

【平成31年度（令和元年度）】

○ 新潟県中越地震15周年災害資料シンポジウム「繰り返す災害と長く向き合うために」

日時：令和元年12月15日（日）13:30～17:00

場所：新潟大学五十嵐キャンパス 人文社会科学系棟F棟5階大会議室

主催：災害・復興科学研究所、東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会 史料考古部会「日本海沿岸地域を中心とした地震・火山現象の解明のための史料収集と解析」研究グループ

共催：新潟大学人文学部地域文化連携センター，新潟歴史資料救済ネットワーク、新潟史学会

後援：科学研究費特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」

参加人数：31名

【平成 30 年度】

○ 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」平成 30 年度成果報告シンポジウム

日時：平成 31 年 3 月 13 日（水）13:00 ～3 月 15 日（金）14:50

場所：東京大学 武田先端知ビル 5F 武田ホール・ホワイエ

主催：「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」成果報告シンポジウム実行委員会

共催：東京大学地震研究所，京都大学防災研究所，東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

後援：文部科学省，防災科学技術研究所，海洋研究開発機構，産業技術総合研究所地質調査総合センター，国土地理院，気象庁，海上保安庁，日本地震学会，日本火山学会，日本測地学会

参加人数：300 名

○ 地震予知連絡会 50 周年記念企画公開シンポジウム

日時：平成 31 年 3 月 16 日（土）13:00～15:30

場所：東京大学 武田先端知ビル 5F 武田ホール・ホワイエ

主催：地震予知連絡会事務局・国土地理院 地理地殻活動研究センター

共催：東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

後援：日本地震学会

参加人数：211 名

○ 国際シンポジウム「スロー地震学国際合同研究集会 2018」（予知協海溝型地震研究推進部会・ほか）**International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2018**

日時：平成 30 年 9 月 21 日（金）～9 月 23 日（日）

場所：アクロス福岡（福岡県福岡市）

主催：科研費新学術領域「スロー地震学」，東京大地震研究所共同利用研究集会，京都大学防災研究所共同利用研究集会，東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会 海溝型地震部会（合同開催）

参加人数：129 名

○ 地震史料シンポジウム「地域史料から地震学へのアプローチ」

日時：平成 30 年 11 月 30 日（金）13:00～17:30

場所：東京大学福武ラーニングシアター

主催：東京大学地震火山史料連携研究機構，東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会 史料・考古部会

共催：東京大学史料編纂所，東京大学地震研究所

協力：歴史資料ネットワーク，情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会

参加人数：124 名

○ 国際シンポジウム「International Symposium on Earthquake Forecasting/5th International Workshop on Earthquake Preparation Processes」

日時：平成 30 年 5 月 25 日（金）9:10 ～5 月 27 日（日）12:20

場所：千葉大学自然科学系総合研究棟 1 自然科学大会議室

主催：千葉大学，東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

共催：東京大学地震研究所

後援：台湾国立中央大学，米国チャップマン大学，東海大学，地震予知学会

参加人数：136 名

【平成 29 年度】

○ 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」平成 29 年度成果報告シンポジウム

日時：平成 30 年 3 月 14 日（水）9:00 ～3 月 16 日（金）11:00

場所：東京大学武田先端知ビル 5F 武田ホール・ホワイエ

主催：「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」成果報告シンポジウム実行委員会

共催：東京大学地震研究所，京都大学防災研究所，東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

後援：文部科学省，防災科学技術研究所，海洋研究開発機構，産業技術総合研究所地質調査総合センター，国土地理院，気象庁，海上保安庁，日本地震学会，日本火山学会，日本測地学会

参加人数：297 名

○ 次期計画検討シンポジウム

日時：平成 29 年 5 月 1 日（月）9:00 ～5 月 2 日（火）12:50

場所：東京大学武田先端知ビル 5F 武田ホール

主催：東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

共催：東京大学地震研究所，京都大学防災研究所

参加人数：185 名

【平成 28 年度】

○ 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」平成 28 年度成果報告シンポジウム

日時：平成 29 年 3 月 6 日（月）9:30 ～3 月 7 日（水）18:00

場所：東京大学武田先端知ビル 5F 武田ホール・ホワイエ

主催：「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」成果報告シンポジウム実行委員会

共催：東京大学地震研究所，京都大学防災研究所，東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

後援：文部科学省，防災科学技術研究所，海洋研究開発機構，産業技術総合研究所地質調査総合センター，国土地理院，気象庁，海上保安庁，日本地震学会，日本火山学会，日本測地学会

参加人数：307名

○ 熊本地震シンポジウム

日時：平成28年10月26日（水）9:45～16:45

場所：熊本市国際交流会館 6F ホール

主催：東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

共催：熊本大学大学院自然科学研究科附属減災型社会研究教育センター

参加人数：97名

○ シンポジウム「南海トラフ巨大地震の予測に向けた観測と研究」

日時：平成28年9月30日（金）10:20～18:00

場所：東京大学武田先端知ビル内・武田ホール

主催：東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

共催：日本地震学会

参加人数：188名

（注）本資料は、研究活動の一環として研究者を対象に開催されたシンポジウム・セミナー等の開催状況を取りまとめたもの

27. 災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次） 実施機関

総務省	国立研究開発法人情報通信研究機構
文部科学省	国立大学法人等 北海道大学大学院理学研究院 弘前大学大学院理工学研究科 東北大学大学院理学研究科 東北大学災害科学国際研究所 秋田大学大学院国際資源学研究科 新潟大学災害・復興科学研究所 東京大学大学院理学系研究科 東京大学大学院情報学環 東京大学地震研究所（共同利用・共同研究拠点） 東京大学大気海洋研究所 東京大学史料編纂所 東京大学地震火山史料連携研究機構 東京工業大学理学院火山流体研究センター 千葉大学大学院理学研究院 富山大学学術研究部都市デザイン学系 名古屋大学大学院環境学研究科 京都大学大学院理学研究科 京都大学防災研究所（共同利用・共同研究拠点） 神戸大学海洋底探査センター 鳥取大学大学院工学研究科 高知大学理工学部 九州大学大学院理学研究院 鹿児島大学地震火山地域防災センター 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 立命館大学総合科学技術研究機構
	国立研究開発法人防災科学技術研究所
	国立研究開発法人海洋研究開発機構
	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
経済産業省	国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
国土交通省	国土地理院 気象庁 海上保安庁海洋情報部
都道府県	地方独立行政法人北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部エネルギー・環境・地質研究所 山梨県富士山科学研究所

28. 第11期科学技術・学術審議会 測地学分科会 委員名簿

第11期科学技術・学術審議会測地学分科会 委員名簿

(50音順)

(委員) 2名

小 原 一 成	東京大学地震研究所 教授
田 中 明 子	国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループ長

(臨時委員) 10名

榎 原 雅 治	東京大学史料編纂所 教授
大 倉 敬 宏	京都大学理学研究科火山研究センター 教授
小 平 秀 一	国立研究開発法人海洋研究開発機構 海域地震火山部門長
関 口 春 子	京都大学防災研究所 准教授
寺 川 寿 子	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授
藤 田 英 輔	国立研究開発法人防災科学技術研究所 火山防災研究部門長
森 隆 志	気象庁 地震火山部長
森 岡 千 穂	松山大学人文学部 准教授
森 田 裕 一	国立研究開発法人防災科学技術研究所 主幹研究員
矢 来 博 司	国土地理院地理地殻活動研究センター 研究管理課長

29. 第11期科学技術・学術審議会 測地学分科会 地震火山観測研究計画部会 委員名簿

第11期 科学技術・学術審議会測地学分科会地震火山観測研究計画部会 委員名簿

(50音順)

(委員) 2名

小 原 一 成	東京大学地震研究所 教授
田 中 明 子	産業技術総合研究所活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループ長

(臨時委員) 12名

伊 藤 亜 妃	海洋研究開発機構海域地震火山部門火山・地球内部研究センター 研究員
石 川 直 史	海上保安庁海洋情報部技術・国際課 地震調査官
大 倉 敬 宏	京都大学理学研究科火山研究センター 教授
大 湊 隆 雄	東京大学地震研究所 教授
川 村 誠 治	情報通信研究機構電磁波研究所電磁波伝搬研究センター リモートセンシング研究室長
関 口 春 子	京都大学防災研究所 准教授
高 橋 成 実	防災科学技術研究所地震津波火山ネットワークセンター 副センター長
寺 川 寿 子	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授
日 野 亮 太	東北大学大学院理学研究科 教授
宮 岡 一 樹	気象庁地震火山部管理課 地震情報企画官
宗 包 浩 志	国土地理院地理地殻活動研究センター 地殻変動研究室長
森 岡 千 穂	松山大学人文学部 准教授

(専門委員) 5名

大 園 真 子	東京大学地震研究所 准教授
阪 本 真由美	兵庫県立大学減災復興政策研究科 教授
中 道 治 久	京都大学防災研究所 准教授
橋 本 武 志	北海道大学大学院理学研究院 教授
松 島 信 一	京都大学防災研究所 教授

30. 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」 の実施状況等のレビューに関する審議状況

○ 令和3年5月18日 測地学分科会（第44回）

- ・レビューの検討体制の決定

測地学分科会（第44回）以降の作業

- ・レビュー調査資料について、各機関へ作成依頼の事務連絡を事務局から発出

○ 令和3年6月29日 地震火山観測研究計画部会（第39回）

- ・レビュー取りまとめ委員の選定
- ・「レビュー報告書の作成方針について（案）」について調査審議
- ・レビュー報告書及びその参考資料に記載すべき内容について調査審議

地震火山観測研究計画部会（第39回）以降の作業

- ・レビュー報告書の構成案及び草案について、地震・火山噴火予知研究協議会へ作成依頼の事務連絡を事務局から発出

○ 令和3年7月16日 地震火山観測研究計画部会（第40回）

- ・「レビュー報告書の作成方針について」取りまとめ
- ・レビュー報告書及びその参考資料に記載すべき内容について調査審議

地震火山観測研究計画部会（第40回）以降の作業

- ・レビュー参考資料について、各機関へ作成依頼の事務連絡を事務局から発出
- ・地震・火山噴火予知研究協議会からレビュー報告書（草案）の提出
- ・レビュー報告書（草案）について、事務局から地震火山観測研究計画部会委員へ意見照会

○ 令和3年9月24日 地震火山観測研究計画部会（第42回）

- ・レビュー報告書（初稿）について意見交換
- ・レビュー報告書 参考資料（案）について意見交換

○ 令和3年10月～11月

- ・レビュー報告書修正稿（第二稿、第三稿）の作成及び意見照会（メール）
- ・レビュー報告書 参考資料（案）について意見交換（メール）

- 令和3年11月16日 地震火山観測研究計画部会（第43回）
 - ・レビュー報告書修正稿（第三稿）について意見交換
 - ・レビュー報告書 参考資料（案）について意見交換

- 令和3年11月～令和4年1月
 - ・レビュー報告書修正稿（第四稿～最終稿案）の作成及び意見照会（メール）
 - ・レビュー報告書 参考資料（案）について意見交換（メール）

- 令和3年1月○日 地震火山観測研究計画部会（第44回）
 - ・レビュー報告書（最終稿案）について意見交換
 - ・レビュー報告書 参考資料（案）について意見交換

- 令和4年○月○月 測地学分科会（第45回）・地震火山観測研究計画部会（第45回）
 - ・レビュー報告書の取りまとめ

測地学分科会（第45回）・地震火山観測研究計画部会（第45回）以降の作業

- ・レビュー報告書の公表